

**令和4年度大学教育再生戦略推進費
「大学の世界展開力強化事業」計画調書
～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～**

[基本情報] (主な交流先: 英国・インド・オーストラリア)

1. 大学名 <small>(○が代表申請大学)</small>	広島大学		
2. 機関番号	<small>代表申請大学</small>	15401	
3. 主たる交流先の相手国	英国、インド、オーストラリア		
4. 事業者 <small>(大学の設置者)</small>	ふりがな <small>(氏名)</small>	おち みつお 越智 光夫	(所属・職名) 学長
5. 申請者 <small>(大学の学長)</small>	ふりがな <small>(氏名)</small>	おち みつお 越智 光夫	
6. 事業責任者	ふりがな <small>(氏名)</small>	かねこ しんじ 金子 慎治	(所属・職名) 理事・副学長(グローバル化担当)
7. 事業名	【和文】 国際協働学習を通じて醸成するアジャイル・アントレプレナーシップ		
	【英文】 Agile Entrepreneurship Development Program through International Collaborative Learning		
8. 取組学部・研究科等名 <small>(必要に応じ[]書きで課程区分を記入。複数の部局で合わせて取組を形成する場合は、全ての部局名を記入。大学全体の場合は全学と記入の上[]書きで全ての部局名を記入。)</small>	<small>学問分野</small>	<input type="radio"/> 人社系 <input type="radio"/> 理工系 <input type="radio"/> 農学系 <input type="radio"/> 医歯薬系 <input type="radio"/> 看護・医療系 <input checked="" type="radio"/> 全学 <input type="radio"/> その他	
	<small>実施対象 (学部・大学院)</small>	<input type="radio"/> 学部 <input type="radio"/> 大学院 <input checked="" type="radio"/> 学部及び大学院	
総合科学部、文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、生物生産学部、情報科学部、人間社会科学部、先進理工系科学研究科、統合生命科学研究科、医系科学研究科			

9. 海外相手大学				
	国名	大学名(日本語)	大学名(英語)	部局名
1	英国	シェフィールド大学	The University of Sheffield	全学
2	インド	ビルラ技術科学大学ピラニ校	Birla Institute of Technology and Science, Pilani	全学
3	インド	インド経営大学院バンガロール校	Indian Institutes of Management, Bangalore	全学
4	オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学	The University of New South Wales	全学
5				
6				
7				
8				
9				
10				

10. 連携して事業を行う機関(国内連携大学等)					
	大学等名	取組学部・研究科等名		大学等名	取組学部・研究科等名
1			4		
2			5		
3			6		

11. 「学校教育法施行規則」第172条の2第1項において「公表するものとする」とされた教育研究活動等の状況について、公表しているHPのURL

https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/public_info/education_research_info

12. 本事業経費 (単位:千円) ※千円未満は切り捨て

年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	合計	
事業規模 (総事業費)	20,000	19,380	16,550	18,350	15,550	89,830	
内訳	補助金申請額	20,000	17,980	16,180	14,580	13,050	81,790
	大学負担額		1,400	370	3,770	2,500	8,040

13. 本事業事務総括者部課の連絡先

部課名			所在地		
責任者	ふりがな (氏名)			(所属・職名)	
担当者	ふりがな (氏名)			(所属・職名)	
	電話番号			緊急連絡先	
	e-mail(主)			e-mail(副)	

①質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容【1ページ以内】

【交流プログラムの目的・概要等】

○背景・目的

社会課題解決に資するイノベーションを醸成するには、自由、民主主義、法の支配といった基本的価値と高度な制度設計が織りなす**共創と競争が協奏する環境**を必要とする。同時に、先行きが不透明で将来の予測が困難なVUCA（Volatility：変動性、Uncertainty：不確実性、Complexity：複雑性、Ambiguity：曖昧性）時代にあつては、社会経済、歴史・文化などに起因する**多様性を踏まえた柔軟な解決策を提案し、困難を打開しながら実行を先導するリーダー**が求められる。本事業は、広島大学が育成を目指す「**平和を希求しチャレンジする国際的教養人**」として必要な資質のうち、全学教育として育成してきた「平和を理解し、考える力（平和科目）」、「持続可能性（SDGs）（共通科目）」、「複数他者理解（世界展開力アフリカ）」、「ダイバーシティ&インクルージョン（世界展開力アジア）」に加え、**第5の資質として「アジャイル・アントレプレナーシップ」を追加することを目的とする。**そのために、**普遍的価値観を共有しながら多様な学生に多様な国際協働学習環境を提供すべく、英国・インド・オーストラリアの連携実績のある4大学と協力し、複数の国際協働学習を含み、学びと実践を繰り返すアジャイル型教育プログラムを開発し、それらを基礎から応用へと接合することにより、段階的にアジャイル・アントレプレナーシップを醸成することのできる教育事業を展開する。**

○実績

広島大学は、2013年度採択の**博士課程教育リーディングプログラム**（リバースイノベーションに関する学際・実践型大学院教育）、2017年度採択の**世界展開力（ロシア・インド）**（先端技術を社会実装するイノベーション人材養成）により、多様な国際協働学習を含むアジャイル型教育プログラムを構築してきた。これらの連携大学のうち、**インド最大の私立大学、ビルラ技術科学大学ピラニ校、インド最高峰のビジネススクール**で唯一ジャパン研究センターを有し、2023年に学部設置を計画するインド経営大学院バンガロール校を選んだ。加えて、広島大学との豊富な国際交流実績があり、**日本語教育に力を入れる総合研究大学**を英国、オーストラリアそれぞれから1校ずつ選んだ。これは、日英双方の言語で国際協働学習を実施すること、工学・理学分野の単位互換を伴うセメスター留学を促進するためである。アントレプレナーシップ教育に関して、2016年度採択の世界展開力（アジア諸国）でドイツのミュンスター大学から導入した「**アイディアズ・マイニングワークショップ**」を組み込み、2021年度に設置した**産官学連携プラットフォーム「ひろしま好きじゃけんコンソーシアム」**を活用したインターンシップと連携する。

○交流プログラムの特徴

- (1) COIL型協働学習、学生提案型ワークショップ、セメスター留学、インターンシップの4つのアジャイル型教育プログラムを基礎から応用へと連結、**段階的にアントレプレナーシップを醸成するステップアップ型教育**
- (2) 本学が全学を挙げて取り組むカーボンニュートラルやSDGs、防災・減災の世界的課題を題材に、日本とインドでそれぞれ日本語、英語のワークショップを実施する**異文化アジリティを高める学生提案型国際協働学習**
- (3) コロナ禍でのオンライン経験を最大限活用しつつ、ポストコロナを見据え、すべてのアジャイル型教育プログラムでオンラインとオフラインのそれぞれのメリットを組み合わせ**ブレンディッドラーニング**を採用
- (4) 本学の産官学コンソーシアムやグローバルインターンシップ事業（G-Echoプログラム）と連携校の持つインターンシップ事業を融合した**国際標準のインターンシップを実践する産官学連携プラットフォーム**
- (5) 本学が先導する留学・教育効果測定ツールのBEVIテストによる留学効果測定や学習履歴・コンピテンシー評価の**デジタル証明書システム**の試験運用

【育成する人材像】

本事業では、アジャイル・アントレプレナーシップを備えた以下のグローバルリーダーを育成する。

- (1) 新たなビジネスモデルを通じた新しい価値創造に取り組む**起業家・イノベーター**
- (2) 企業や組織において新しい価値創出に取り組む**イントラプレナー（組織内起業家）**
- (3) 学際的・トランスディシプリナリーなアプローチで課題解決策を提案する**科学者・研究者**

【養成するコンピテンシー】

アジャイル・アントレプレナーシップに必要な**①システム思考、②アントレプレナーシップ、③異文化アジリティ、④批判的思考、⑤リスクマネジメント、⑥レジリエンス**を、コア・コンピテンシーとする。

【質の保証（学習効果の測定、教育内容の可視化、単位互換）】

BEVIテストを用いた学習効果の測定に加えて、海外連携大学と共同でコア・コンピテンシーを評価するルーブリックを開発・活用する。その上で、参加5大学が設置する合同のプログラム運営委員会が共通の成績管理や学業成果・教育内容の妥当性や互換性を継続的に検討すると同時に、専門家を含めたアジャイル型協働学習検討部会を設置し、本学の交換留学プログラムで長年の実績があるUMAP単位互換制度（UCTS）との統合・接続の可能性を図る。

【期待される成果】

本事業の主な成果として期待されるものは以下のとおり。

- (1) 国際交流を通じて**教養としてのアジャイル・アントレプレナーシップ**を身につけた人材の育成
- (2) 国際通用性のある質保証を伴った**アジャイル型多国間国際協働学習プログラム**の構築
- (3) 海外連携大学との共同による**マイクロ・クレデンシャル型教育プログラム**及び国際共同大学院プログラムへの発展

【本事業で計画している交流学生数】 各年度の派遣及び受入合計人数（交流期間、単位の取得の有無は問わない）

2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
派遣	受入								
10	40	17	67	27	47	17	67	27	47

（単位：人）

（大学名： 広島大学 ）（主な交流先： 英国・インド・オーストラリア ）

② 事業の概念図 【1ページ以内】



国際協働学習を通じて醸成する アジャイル・アントレプレナーシップ



本事業の目的

VUCA時代に直面する人類社会の課題に対して、多様性を踏まえた解決策を提案し、実行を先導するアジャイル・アントレプレナーシップを備えたリーダー育成のための、4か国5大学共同によるアジャイル型教育プログラムの開発・実践

VUCA時代のリーダーに求められる6つのコンピテンシー

不透明で不確実な社会で柔軟に対応し、新たな価値を生み出していく精神を備えた人材

システム思考・アントレプレナーシップ・異文化アジリティ
批判的思考・リスクマネジメント・レジリエンス

広島大学の人材育成目標

⑤アジャイル アントレプレナーシップ

平和を希求し
チャレンジする
国際的教養人

- ① 平和
- ② 持続可能性 SDGs
- ③ 複数他者理解
- ④ ダイバーシティ&インクルージョン



学びと実践を繰り返すアジャイル型教育



育成する人材像

- 新たなビジネスモデルを通じた新しい価値創造に取り組む **起業家・イノベーター**
- 企業や組織で新しい価値創出に取り組む **イントラプレナー**（組織内起業家）
- トランスディシプリナリーなアプローチで課題解決策を提案する **科学者・研究者**

プログラムの特徴

- ▶ ステップアップ型教育
- ▶ プレゼンテーション
- ▶ 産官学連携プラットフォームによるインターンシップ
- ▶ 日本語と英語での国際協働教育の実施



e-START COIL型教育

広島大学が取り組む
世界的課題への挑戦

- 世界的課題を学ぶ
- カーボンニュートラル
- スマートシティ
- 防災・減災 等

派遣50/受入200

AGILE ワークショップ

異文化アジリティを
高める学生主体学習

- 日印で隔年開催
- e-STARTの学習成果にもとづく実践的ワークショップ

派遣20/受入40

HUSA セメスター留学

課題解決に向けて専門的な学びを深める

- 長期留学
- 国際課題研究の実施
- 語学力の向上（日本語・英語）

派遣28/受入28

グローバル インターンシップ

- 日本企業中長期インターンシップ
- 合同学習成果発表会

ひろしま
好きじゃけんコンソーシアム
Hiroshima Love it consortium
民間企業・自治体

派遣総数 **98人**
受入総数 **268人**

世界的課題解決に向けた広島大学の強み

- 広島大学FE・SDGsネットワーク拠点（2018）
- カーボンニュートラル×スマートキャンパス5.0宣言（2021）
- 広島大学防災・減災研究センター（2018）

● 普遍的価値観を共有しながら多様な国際協働学習環境を提供



アジャイル・アントレプレナーシップ を身につけた人材の育成

成果

アジャイル型多国間国際協働 学習プログラムの確立

- 質の保証
- 共通プログラムポリシーの設置
 - モビリティに対応する共通成績管理
 - 単位互換の相互協議・調整・合意
 - 外部評価によるプログラム改善

- 将来構想
- インド太平洋地域における多国間学生交流モデルの横展開
 - インド太平洋地域における学術交流基盤の拡大
 - マイクロ・クレデンシャル型教育プログラム・国際協働大学院プログラムへの発展

(大学名: 広島大学) (主な交流先: 英国・インド・オーストラリア)

③ 国内大学等の連携図 【1ページ以内】

本学は12学部4研究科を有する総合大学（学生数：15,589人、教職員数：3,651人）であり、本事業を実施するにあたっての資源及び経験を十分に有しているため、単独での実施は可能である。ただし、本事業の実施を通じて得た知見や経験は、ウェブサイトや事業実施報告等により積極的に公開し、国内の他大学と成果の共有を行う。

また、既に多数の大学と連携して実施しているBEVI（Beliefs, Events, and Values Inventory）を用いた留学・学習の成果分析についても、これまで採択実績のある東南アジア、中国、韓国との世界展開力強化事業において大いに活用してきた実績があり、本申請において英国、インド、オーストラリアまで対象を広げてより効果的なものとし、引き続き国内の大学と協力して成果分析を行っていく。

上記理由により、本学単独による事業の実施及び、他大学との成果の共有は可能であり、申請の段階では国内の大学とは連携という方法を用いずに申請することが適切と判断した。

④-1 交流プログラムの内容 【3ページ以内】

【実績・準備状況】

○質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成

共同プログラム実績：ビルラ技術科学大学ピラニ校とは、大学の世界展開力強化事業（インド）の実施を通して、80名の受入と68名の派遣を行っている。また、2019年より博士後期学生の共同指導を開始し、共同で学位指導に取り組んでいる。シェフィールド大学（2003年交流協定締結）とニューサウスウェールズ大学（2015年交流協定締結）は、交換留学を通じた学生交流を行った実績がある。

○教育連携プログラム実績

①アントレプレナーシップ教育実績

本学のアントレプレナーシップ教育は、2014年度より文部科学省グローバルアントレプレナー育成事業（EDGE: Exploration and Development of Global Entrepreneur）による「ひろしまアントレプレナーシッププログラム」をはじめ、主に中国地方の産官学の連携のもとで、様々な教育活動に取り組んできた。平成29年度からは文部科学省次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）においてこの取組が継承され、本学は九州大学を主幹機関とするコンソーシアムの協力大学として活動している。また、本学は全学的な起業家教育に力を入れ、起業を目指す学生だけでなく、様々なことにチャレンジしたい学生が、アントレプレナーシップを発揮するための思考、行動とスキルを習得できるよう、教育プログラムやプロジェクト支援を行っている。産学連携推進部のスタートアップ推進部門を中心に、教養教育科目の「アントレプレナーシップ」、「MOT教育」、「イノベーション演習」を提供しているほか、「ひろしまアントレプレナーシッププログラム」を社会人にも開放している。また、海外の大学生と共に学ぶ「国際夏の学校」などの教育プログラムを提供しているほか、本事業の連携大学のビルラ技術科学大学とは、大学の世界展開力強化事業（インド）を契機に、本学の先進理工系科学研究科の共通科目「起業案作成演習」への講師受入を行っているほか、2021年度には、ビルラ技術科学大学ピラニ校および産官学連携のもと、HU Global Pitch Challengeを共同で開催し、日印の学生チームによるピッチコンテストの開催などの実績がある。

②COIL型教育実績

本学は、新型コロナウイルスの世界的な流行以降、オンライン授業やCOIL型教育、遠隔研究指導の質向上に向けたノウハウの開発に努め、COILと現地での対面学習を組み合わせたプログラムやオンラインでの研究指導を提供している。大学の世界展開力強化事業（2016年度採択／ASEAN）では、カンボジア王立プノンペン大学と、COILによるSDGs課題プロジェクト研究を実施、現地及びオンライン上でその成果発表を行っている。同事業（2017年度採択／インド）では、新型コロナウイルス感染症拡大以降、遠隔指導のための環境整備に取り組む、オンラインインターシップやオンライン研究指導により、15名の派遣、32名の受入を行っている。同事業（2020年度採択／アフリカ）でも、28名の派遣、72名の受入を行っている。また、ハーバード大学（米国）が取り組む「Rapid Response Virtual Exchange/COIL Transformation Lab: U.S.-Japan」では、COILコンテンツ教育の質向上に取り組んだ。2020年度後期からは本学学部生を対象としたCOIL型の国際協働教育プログラムであるe-STARTプログラムを全学的に開始した。2021年度のe-STARTは20カ国の49大学で21コースを実施し、397人の学生が参加、このうち、前期4コース、後期9コースをCOIL型授業として実施し、本学の学生91人（海外大学の学生は約160人）が参加した。

③本申請の連携大学との連携実績

ビルラ技術科学大学ピラニ校と合同で「社会課題解決に向けた日印の科学技術の応用とSDGsの達成」をテーマとして3回のe-STARTプログラムを実施し、2021年には、本学と本事業の連携大学のビルラ技術科学大学ピラニ校を含む、アメリカ、ネパールと4カ国4大学の連携による「小規模農家の気候変動対策に関する4カ国比較」のオンライン研修を実施するなど、具体的な地域課題をテーマとする研修も2回行っている。ビルラ技術科学大学ピラニ校を連携大学とした大学の世界展開力強化事業（インド）では、幅広い分野で国際連携を展開し、大学の国際化と研究力強化に貢献したとして、先進理工系科学研究科研究科長顕彰を受賞した。ニューサウスウェールズ大学と「異文化理解とSDGsプロジェクトを通しての日本語学習支援」をテーマに実施し、国際共同プログラムのノウハウの蓄積を行っている。

○大学の中長期的なビジョンにおける本事業の位置づけ

本事業は、SDGsの達成を目指す人材育成を謳う「広島大学国際戦略2022」及び、「第4期中期目標期間における広島大学のあるべき姿」に掲げる「豊かな人間性と幅広い教養、秀でた専門的知識と課題発見・解決能力を備え、自由で平和な持続的発展を可能とする国際社会の実現に貢献する人材の育成」を具現化するものである。また、本事業は、先行きが不透明で将来の予測が困難なVUCA時代のグローバル社会において、本学の建学の精神でもある「絶えざる自己変革」に主体的に取り組む、「新たな知の創造」を目指す学生の養成をその根底に有し、本学の長期ビジョン「SPLENDOR PLAN」で掲げる「変動する世界を俯瞰し、国際的にチャレンジする人財の輩出」に符合し、本学の目指す「多様性を育む自由で平和な国際社会」の実現に大きく貢献するものである。

○全学的な責任・協力体制の構築

本学は、責任者として理事・副学長（グローバル化担当）を中心に、国際交流プログラムを関係部局を横断する実施部会を設置し、全学的視点から国際交流プログラム運営を行っている。

【計画内容】

○各国間の架け橋となる高度専門人材やリーダーの育成を実施する質の高い教育連携プログラムの実施

本事業は、先行きが不透明で将来の予測が困難なVUCA時代において、国際的教養人として、多様な環境の中で活動し、異なる文化の視点を通して環境に柔軟に対応可能な能力を備え、答えのない様々な課題に対して、既存の枠組みにとらわれずにチャレンジを続け、多様な世界の中で他者と協働して成長を続ける事ができる、アジャイル・アントレプレナーシップを備えた人材を育成する。本事業が育成する具体的な人材像は次の通り。

- ①新たなビジネスモデルを通じた新しい価値創造に取り組む起業家・イノベーター
- ②企業や機関において新しい価値創出に取り組むイントラプレナー（組織内起業家）
- ③学際的・トランスディシプリナリーなアプローチで課題解決策を提案する科学者・研究者

○交流プログラムの内容

本事業は、学びと実践を繰り返すアジャイル型の国際協働学習モデルとして、学習テーマや国を変えるなどの柔軟性をもつ。また、全体としてのアジャイル型に加えて、個々の教育もアジャイル型を取り入れているため、相手大学や学生の興味や学習志向に応じて、短期から長期まで対応可能である。また、コンピテンシーの到達目標型であるため個々の学生にとって、必要な能力をつけていくために個別最適化したプログラムを提供することが可能である。学生交流は、日本、英国、インド、オーストラリアの5大学の間で既に合意されている以下の交流プログラムを実施する。

	派 遣	受 入
①COIL型協働学習	◎e-START (COIL型協働学習プログラム) (1-2か月)	
	参加大学からの学生が、混成チームでオンライン型の協働学習 (2UCTS) カーボンニュートラルやSDGs、防災・減災	
	○アジャイル・アントレプレナーシップ 醸成に向けた基礎的な講義を実施 ○コーステーマに関するグループワーク ○グループ発表 (学生による発表、教員によるフィードバック)	
②AGILE ワークショップ	◎日本とインドで隔年開催の国際ワークショップ (2週間)	
	○各参加大学の学生が、隔年で広島大学、またはインドの2大学に短期留学 ○e-START (COIL型協働学習プログラム) に参加した学生をベースに、講義、フィールドワーク、学生主体の広島大学型・アイディアズ・マイニングワークショップで構成されるセミナーを現地で開催	
③セメスター留学	◎HUSA派遣 (参加大学への派遣)	
	◎HUSA受入 (参加大学から受入れ)	
	COIL型協働学習と短期留学を踏まえて専門科目を受講	
④インターンシップ	○参加大学に広島大学生がセメスター留学 ○COIL型協働学習と短期留学を踏まえて専門科目を受講	○参加大学から広島大学にセメスター留学 ○国際課題研究の実施
	◎インターンシップ	
	○グローバル・インターンシップ (2UCTS)	○インド経営大学院バンガロール校の学生は、国内インターンシップ (2か月以上) と日本語養成プログラム ○その他の学生は、留学 (受入) 中に国内インターンシップ (1-2週間)

(1) ステップアップ型教育プログラム

本プログラムでは、COIL型協働学習、学生主体のワークショップ、セメスター留学、インターンシップの4つのステップから成るアジャイル型人材に必要な能力を体系的に身につけていくステップアップ型国際協働教育型プログラムを提供する。それぞれのステップにおいて、参加学生は地域やバックグラウンドを横断するチームを組み学びを進めていくスクラムを繰り返し、全体としても知識と実践のモジュールを繰り返す構造としている。

(2) 国際社会の解決すべき課題

本学の研究・社会貢献の強みと国際協働学習へと応用し、国際社会の解決すべき課題であるカーボンニュートラル、SDGs、防災・減災の分野の産官学の連携による教育を提供する。国や地域、専門分野など様々なバックグラウンドをもつ参加学生は、これらのテーマを中心に協働学習をすすめ、各国・各地の抱える諸問題を共有し、学生が主体性をもって課題解決の手法を学ぶ。

(3) 4か国5大学の国際協働プログラム

日本・英国・インド・オーストラリアの4か国5大学の学部・大学院生が、各国・各地の抱える諸問題を共有するグローバルなPBL学習を進める。本事業が焦点を当てるカーボンニュートラル、SDGs、防災・減災は、国際社会の共通の課題でありながら、課題の顕在化は地域の文化や社会の特性によって大きく異なる。こうした学習環境において、学習と実践のアジャイル型学習を進めることで、学生が主体的に異文化アジリティを高めることを可能にする。

(4) グローバルインターンシップ

本学の産官学連携プラットフォーム「ひろしま好きじゃけんコンソーシアム」などの協力による長期留学と実践的インターンシップを提供する。コンソーシアム企業には、外国人の高度人材の採用に積極的な企業や、グローバル展開を検討している会社も多く含まれている。学生は、こうした企業でインターンシップを行うことで、学びと実践の試行を繰り返し、自らのキャリアを実践的に、実質的にデザインすることが可能になる。

(5) 学生の学び続ける主体性と成長をサポート

本事業は、JV-Campusなどのオープン教材やICTを活用した学習環境の充実に努める。時間と場所を選ばないシームレスな学習環境と国際的協働環境を提供し、学生の学び続ける主体性と成長をサポートする。

(6) 学生の学習成果の可視化と質保証

BEVIテストによる留学効果の測定とデジタル証明書によるスキルと学習履歴の証明と世界的なプラットフォーム間の相互運用性を確保する。本学で実施している国際プログラムでは、BEVIテストによる学習効果の可視化を必須としている。また、BEVIテストでは、個人情報特定しない形でのプログラム効果の比較も可能であり、学生の意見等も踏まえたプログラムの改善に利用する。

(大学名: 広島大学) (主な交流先: 英国・インド・オーストラリア)

○学生主体ワークショップの開催

本事業は、学びと実践を繰り返すアジャイル型教育として、プログラムへの参加学生以外も参加し、実践のフィードバックを得るためのワークショップを開催する。

○インターンシップ機会の提供

中長期の交換留学生には、派遣先大学のコーディネートによる民間企業等でのインターンシッププログラムを提供する。具体的には、受入学生については、インドからの学生に対しては、広島大学の地域の次世代型産官学連携プラットフォーム「ひろしま好きじゃけんコンソーシアム」参画企業等でのインターンシップを行い、学生へは日本企業での就業体験、受入企業等には外国人高度人材の活用経験の機会となるようにマッチングを行う。派遣学生についても、派遣先大学のスタートアップ企業等を中心にインターンシッププログラムに参加する。

○全学的な責任・協力体制の構築

本学は、責任者として理事・副学長(グローバル化担当)を中心に、関係部局を横断する実施部会を設置し、全学的視点から国際交流プログラム運営を行っている。また、世界的・地域課題など新たな課題に対応するための学内連携として、広島大学の強み(カーボンニュートラルxスマートキャンパス5.0宣言(2021年)、広島大学FE・SDGsネットワーク拠点(2018年～)、広島大学防災・減災研究センター(2018年～))の実績を活用し、全学的に展開する。

○質の保証を伴った交流プログラムの形成と効果の実施

①内部質保証システムの構築

本学と海外の連携大学の本事業担当教員から成る「アジャイル型協働学習検討部会」が、定期的に交流学生の学習成果とカリキュラム、教育方法、授業科目の内容との整合性について点検する。学修成果については、BEVI(Beliefs, Events, and Values Inventory)指標及びコンピテンシーの修得状況、カリキュラム・教育方法・授業科目についてはその内容と単位互換のための情報共有、必要に応じてピアレビューを実施し、PDCAサイクルを実行して事業の改善を図っていく。さらに、事業全体の推進に関する自己点検、それを基にしたプログラムの外部評価及び外部アドバイザーからの助言を受ける。

②共通ポリシーの設置

本事業における教育プログラムについて、学生の受入方針、カリキュラム方針、修了方針の3つのポリシーを定め、各大学はこのポリシーに沿って、学生の選抜、指導、教育、修了を確認することで合意している。連携大学は、本事業の重要な事項や詳細について定めた協定を締結し、定期的に点検を行い、単位授与、成績評価、単位互換の手続きが国の定める法令等に適合していることを定期的に確認する。

③教学情報の公開

大学と学生の間で、単位互換や学習成果の認定について、学習パッケージとして、正確な情報を提供する。また、本事業の教育プログラムポリシー、プログラムの受講者数、修了者数などの情報についても広く情報公表に努める。

○学生の心身のケアへの配慮

本学は、留学に参加する学生の心身のケアについても、海外渡航リスク管理の一部として、対策を行っている。具体的には、渡航学生全員に海外渡航リスク管理セミナーの受講を必須としているほか、海外渡航リスク管理マニュアルを作成している。本事業の派遣学生についても、リスク管理を徹底するとともに、受入大学においても、カウンセリング、サポートなどを受けられるように本事業実施に係る覚え書きに明記している。受入学生についても、受入時に日本で生活、健康管理、消防・防犯に関するオリエンテーションを実施するとともに、留学生サポーターを配置する。また、本学の学生と同様に広島大学の保健管理センターで診療や臨床心理士によるカウンセリングを利用できるようにする。

○感染症等の蔓延により渡航を伴う交流プログラムが実施できない場合の対応

本事業で提供する教育プログラムは、原則としてオンラインでも実施可能なプログラムとして設計する。プログラムの実施に際しては、交流相手先国・地域の感染状況を踏まえ、実渡航を伴う学生交流を実施するか否かは慎重に検討し判断する。実施する場合は、派遣・受入国の政府の方針を踏まえた大学の指針に則って行う。

④-2 学生主体の国際交流プログラム 【1ページ以内】

【実績・準備状況】

○留学説明会（5月）

留学について漠然と考えている学生に向けて、留学の具体的なイメージを持ってもらうとともに、留学準備を早めに行う必要性を知ってもらうことを目的としている。学生（留学アドバイザー）が、企画から実施、報告まで行っている。

○留学交流会（10月）

海外留学を考えている学生に向けて、留学経験者に留学体験の報告をしてもらうとともに、参加者が自由に留学経験者と交流できる場をつくり、留学の申請から渡航までの準備を始めるきっかけにしてもらうことを目的に、学生（留学アドバイザー）が企画、広報及び実施、報告を行っている。

○Oshaberi-room（月2回程度開催）

留学アドバイザーが主催するオンライン国際交流イベントで、英語運用能力の向上を目指す学生、自国を紹介したい留学生、留学生の友達がほしい広島大学生など、国際交流に関心のある学生を対象としている。参加者によるミニプレゼンやゲストスピーカーによる講話などを行っている。

○PEACE-SDGs アイデアズ・マイニングワークショップ

本学は、2016年度に採択された大学の世界展開力強化事業（アジア諸国）において、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムを相手国とした学生交流プログラムを実施する中で、学生を主体とした「アイデアズ・マイニングワークショップ」を行ってきた。（アイデアズ・マイニング：ミュンスター大学（ドイツ）が独自に開発した手法で、人間の創造性に関する心理学の知見を踏まえて、参加者の創造性を意図的に高める工夫がなされている課題解決型セミナー。本学ではその手法を発展させた「広島モデル」を用い、国内外の学生を対象に対面式・バーチャルのセミナーを数多く開催）

○日印交流プログラムオンライン学生ワークショップ

本学の2017年度採択の大学の世界展開力強化事業（インド）では、2020年に学生ワークショップを開催した。ワークショップには、上記事業の海外連携大学を中心に、インドとの交流事業を実施する大学（インド工科大学ムンバイ校/マドラス校/グワハティ校、ビルラ技術科学大学ピラニ校、北海道大学、岐阜大学）の学生が自身の活動成果の発表を行った。

○日印共同研修「まちづくりを考える学生シンポジウム」の開催

本学の2017年度採択の世界展開力強化事業（インド）は、2019年に日印協働研修の成果をもとに学生シンポジウムを開催した。シンポジウムには、インド4大学（インド工科大学デリー校/ムンバイ校、ビルラ技術科学大学ピラニ校、インド経営大学院大学アーメダバード校）とテキサス大学オースティン校、同志社大学が参加した。過疎化が進む地区の観光開発についての提案発表と専門家とのパネルディスカッションを行った。

【計画内容】

○広島大学型・アイデアズ・マイニングワークショップ（初回・最終回）

「AGILEワークショップ」の初回の起業計画立案と最終回の企画発表の部分で実施予定の「広島大学型・アイデア発掘型学生セミナー」では、創造性及びアイデアを生成する能力を高めるためにデザインされたアイデア発掘型セミナーを体験しつつ、多様なバックグラウンドを持つ学生と議論する。本セミナーは、モデレーターを教員等が担当するが、内容の大部分は学生自身及びチームで検討し、参加者の主体性によって実施される。

○学習成果報告会の実施

上記ワークショップに参加した学生は、お互いの学習成果を共有する帰国後の報告会を、学生主体で計画・立案・オンラインで実施し、学びの定着を図るとともに、その後のセメスター留学やインターンシップへの参加意欲の醸成を促す。

④-3 オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム 【1ページ以内】

【実績・準備状況】

○JV-Campusの利用状況について

本学は、既にJV-Campusの個別機関Boxを試行中であり、「大学の国際化促進フォーラム」の正会員として、JV-Campusの特設ページ「留学生応援特別ボックス」に、以下の動画を掲載した。同プラットフォームの2024年の本格事業開始に向け、本学や我が国のプレゼンス向上や国内外の学習者への学習機会の拡大のためのコンテンツの拡充や更なる活用に向けて学内での議論を実施している。

<授業・模擬授業>

- ・ The NERPS Webinar Series
- ・ Enhance your knowledge -Hiroshima University 100 special lectures

<大学紹介>

- ・ 日本と日本の大学を知ろう（日・英）
- ・ 広島大学案内（日・英）
- ・ EXPERIENCE HU/All seasons（英のみ）
- ・ EXPERIENCE HU/Winter（英のみ）
- ・ EXPERIENCE HU/Autumn（英のみ）
- ・ EXPERIENCE HU/Summer（英のみ）
- ・ EXPERIENCE HU/Spring（英のみ）

○e-STARTプログラムの実施

本学では、本学学生が、異なる文化的背景を持つ海外大学等の学生と、オンラインツールを利用して課題に協働で取り組むことで、ポストコロナに求められる新たな国際スキルやグローバル人材としての資質を身に付け、国際交流や長期留学への関心を高めることを目的とするe-STARTプログラムを2020年から開始、2021年度は21コース、397人の参加があった。

○オンラインを活用した多国間協働学習プログラムの実施

2017年度採択の大学の世界展開力強化事業（インド）では、コロナウィルスの世界的流行のために国際交流プログラムのオンライン化に取り組んだ。その結果、小規模農家の気候変動対策に関する4カ国比較をテーマとする日印協働研修には、日本とインドに加えて、アメリカ、ネパールの大学生が参加した。本研修は、4カ国のオンラインプログラムとして2回開催、2022年度は、オンラインと実渡航を合わせたプログラムとして実施することで合意している。

○さくらサイエンス・オンライン交流事業の実施

2020年からのコロナウィルスの世界的流行を背景に、インドの大学との学部生の交流プログラムや、遠隔カメラ操作による高速ビジョンシステムに関する研修のほか、ペルー、マレーシア、フィリピン、台湾とのオータムスクールなどを開催した。

【計画内容】

○海外連携大学への周知、広報活動及び留学フェア等の開催

海外連携大学に対してJV-Campusの周知広報を実施し、海外連携4大学内での利活用を促進するとともに、海外連携大学の英国・インド・オーストラリア国内でのネットワークを利用し、3か国の教育機関等にも広くJV-Campusの周知を図り、個別機関Boxの取得や戦略的Boxへの講義パッケージ等の登録を促す。また、本事業の実施および本学への優秀な留学生の獲得のため、連携大学において、プログラム説明会と本学への留学相談会を実施する。なお、海外連携大学からは本事業採択後に、個別機関Box利用の同意書を取得する予定。

○COIL型協働学習等におけるJV-Campusの活用

本学はJV-Campusのテスト運用に参加しており、国内外の大学が可能な本プラットフォームの更なる活用の機会を検討している。4か国5大学が参画する本事業においても、事業内で提供するプログラムの第一段階であるCOIL型協働学習におけるJV-Campusでの講義資料の配信、講義の実施等での活用を図る。また、JV-Campusの事業運営状況に合わせ、本事業における公開イベントやセメスター留学を希望する学生に対する渡日前教育等のJV-Campus上での実施についても検討する。

○本事業で構築するプログラムの一部のパッケージ化及びJV-Campusへの提供

本事業で実施するe-START（COIL型協働学習プログラム）にて使用する講義パッケージの一部、本事業で開発する教育手法、学生が主体となって作成する本事業に関する報告ビデオ、及び本学・我が国への留学を促すリクルーティングビデオ等を5大学の連携プログラムとしてパッケージ化し、2024年度までに、個別機関Boxにて配信することで、本事業の成果を広く公開し、国内外の起業家的思考の醸成を希望する個人及び教育機関等への活用を促すとともに、海外連携大学へ留学フェア等での活用を促進し、英国・インド・オーストラリアから本学・我が国への留学の促進を図る。

⑤ 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 【4ページ以内】

【実績・準備状況】

○相手大学の公的な認可等

シェフィールド大学は、国立大学として国王の設立勅許状(Royal Charter)により認可されている。ニューサウスウェールズ大学は、公立大学として、オーストラリアの教育・訓練省（現：教育・技術・雇用省）から認可を受けている。ピラ技術科学大学ピラニ校は私立大学であり、インドの高等教育機関の認可制度である Institutes of Eminence (IoE)ステータスが付与されている。インド経営大学院バンガロール校は、国立大学としてインド国立評価認証評議会(National Assessment and Accreditation Council)から認可を受けている。

○厳格な成績管理・単位付与・学修目標の明確化

本学は、2006年に学士課程において「到達目標型教育プログラム (HiPROSPECTS®)」を導入し、ルーブリックを用いた各授業科目の到達目標を定め、具体的な達成水準を明確にしている。また、全学的に算出方法を統一した GPA 制度も2006年度から導入し、GPA制度を履修登録の上限設定に活用している。また、GPAの基盤となる厳格で適正な成績評価を実施するため、2013年度から偏った評価の禁止などの成績評価のガイドラインを適用している。成績評価の責任については、教養教育科目は全学教育本部、専門科目は各プログラム教員会にあると定め、厳正で適正な成績評価に努めている。更に、シラバス内容の統一化（到達目標や学生の学修内容、準備学修の内容、成績評価方法・基準の明示）、eラーニングシステム、講義アーカイブ、ケースメソッド教育展開などの取組みを通して、学生の学修時間の確保と実質化につなげている。全てのシラバスは日英で公開し、教育内容の公開に努めている。連携大学には、本学の上記の取組みを説明した上で、本事業で実施するプログラムにおいても厳格な成績管理や単位付与を行い、学修目標を明確にすることで合意している。

○学位授与に至るまでのプロセスの明確化

本学は、学位プログラム毎に3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）を定め、ホームページ上で日・英で公開している。また、コースナンバリングを全ての授業に表示し、プログラムの体系化を明示している。更に、学士課程における全ての授業科目は、到達目標型教育プログラムによる成績管理を実施している。連携大学には、本学のこれらの取組みを説明した上で、本事業においても学生の受入方針、カリキュラム方針、修了方針を作成することで合意している。2018年度から実施している国際共創プログラムでは、ラーニングポートフォリオを導入し、入学から卒業まで分野を横断する英語による体系的学部教育プログラムを構築した実績がある。

○英語による教育の実績

本学は、1年生向けの教養教育科目から積極的に英語での学習を推進し、2021年度には6,088科目を使用言語が英語で開講した。学部の専門プログラムとして2018年度に入学試験から卒業まで英語で完結する国際共創プログラムを設置し、日本人学生と様々な国籍の留学生と一緒に学んでいる。このプログラムの授業はHUSAの短期留学生も自由に受講できる。

○単位の互換・アカデミックカレンダーへの対応

本学は、2000年より全学的な交換留学事業の学業成績の単位認定にUMAP単位互換制度 (UCTS) を導入し、世界中の協定大学との単位互換・成績管理を行っている。2015年度からは、4ターム制を導入することで、世界の多様な教育システムにも対応することが可能となり、学生の留学や編入等を容易にしている。広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム (1996年度～)、欧州4大学との国際協働教育プログラムでの学生受入 (2010年～) やこれまで採択された6件の大学の世界展開力強化事業等、多くの留学プログラムを長期展開し、単位互換の実績を積んでいる。特にインドの大学とは2017年度からの大学の世界展開力強化事業の実施を通じて、本事業を実施するための基盤となっている。この度の交流事業では、UCTSに基づき、(1) シェフィールド大学：(広大) 2単位 = (シェフィールド大) 6単位 (英国CATSシステムとの換算)、(2) UNSW：(広大) 4単位 = (UNSW) 6単位 (UNSWの1単位 = 28学習時間数の規定から)、そして、インドの2校については、今後、具体的な単位互換の換算方法について、協議を続ける。なお、実際に単位互換は科目内容の互換性が非常に重要であるため、協定大学それぞれの代表と定期的に協議するアジャイル型協働学習検討部会を設置し、それぞれの協定大学との実質的な単位互換の促進に努める。

○外国人教員等の配置による教育体制の充実

本学は全学の人事委員会において教員採用人事の一元管理・調整を行っている、戦略的かつ厳格な基準による国際公募を原則とし、一貫した採用制度を構築・運用している。スーパーグローバル大学創成支援事業 (SGU) では、外国人教員等(日本人長期海外在住経験者含む)の割合を2023年までに53%まで引き上げることとしている。また、英語による授業や海外大学との共同教育も推進し、海外の協定大学等からの教員招聘や、英語で授業担当できることを必要条件とする教員採用を行っている。更に、若手教員に、本学のサバティカル研修制度や日本学術振興会の国際交流事業等を活用し、外国での長期教育・研究経験を積むことを奨励している。

○OFDによる教育力の向上

本学は、全学主催と各部局主催のFDを組み合わせた教員の教育力の向上に取り組んでいる。加えて、コロナ禍の2020年度からは、COIL型教育や遠隔講義に関するFDを複数回提供するなど、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、COIL型教育等への理解を全学的に進めている。

○アントレプレナーシップ分野における人材育成実績

本学は、平成26年に文部科学省のグローバルアントレプレナー育成事業（EDGE: Exploration and Development of Global Entrepreneur）に採択され、「ひろしまアントレプレナーシッププログラム」をはじめ様々な教育活動に取り組んできた。「ひろしまアントレプレナーシッププログラム」とは、国・地域におけるイノベーション創出の活性化のため、大学等の研究成果を基にしたベンチャーの創業や、既存企業による新事業の創出を促進する人材の育成、並びにその人材が活躍できるイノベーション・エコシステムの形成を目的としたものである。さらに、平成29年度からは、次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）においてこの取組が継承され、九州大学を主幹機関とするコンソーシアムの協力大学として活動した。他方、本学の産学連携推進部のスタートアップ推進部門では、教育・研究・社会貢献の三つの柱が一体となった活動を展開している。具体的には、研究プロジェクトで新しい知識・技術を習得し、これらを活用したベンチャービジネス創出などを通じて成果を社会に発信・還元する。さらに、その活動は現在だけでなく地域の将来も見据えたビジョン主導型の実務教育を展開している。これらの活動の企画発案・運営を推進し、また、学生・教職員や地域住民への広報を積極的に展開している。さらに学生向けとして、教養教育科目の「アントレプレナーシップ」、「MOT教育」、「イノベーション演習」、社会人と共に学ぶ「ひろしまアントレプレナーシッププログラム」、海外の大学生と共に学ぶ「国際夏の学校」などの教育プログラムを提供している。起業を目指す学生だけでなく、様々なことにチャレンジしたい学生が、アントレプレナーシップを発揮するための思考、行動とスキルを習得できるように、教育プログラムやプロジェクト支援を行っている。

○留学生向けインターンシップの実施

本学では、公益財団法人ひろしま国際センターと共同で、企業見学ツアー、就業体験等を伴った「外国人留学生向けインターンシップ」、日本企業への就職を目指す留学生（学部3年、修士1年）を対象とした、自己分析・企業分析・エントリーシートの書き方・面接対策等、就職活動に必要な知識やスキルの習得を目指す「留学生のための就職活動実践セミナー」、及び広島県内での就職を希望する留学生と、留学生の採用を予定している広島県内企業を対象にした「合同企業説明会」を、オンライン・対面の両形式にて実施している。

○国際関係課程の構築

本学は、2020年度に大学院人間社会科学部研究科広島大学・グラーツ大学国際連携サステナビリティ学専攻、および、大学院先進理工系科学研究科広島大学・ライプツィヒ大学国際連携サステナビリティ学専攻を設置した。それぞれ、広島大学とグラーツ大学、広島大学とライプツィヒ大学で1年ずつ学ぶ2年の修士課程プログラムである。プログラムでは、大学を横断して、SDGs達成に向けた地域と世界の喫緊の課題について、他者と協働できる高いコミュニケーション能力を有する人材の育成に取り組んでいる。

○インドと連携した修了証プログラム実績「ひろしまバイオデザイン」

デザイン思考をベースにした医療機器イノベーションを牽引するスタンフォードの人材育成プログラムを基に、広島県とインド政府関係機関やインドバイオデザインを構成するインド医科大学、インド工科大学デリー校との連携で、「ひろしまバイオデザイン」プログラムを設置し、グループワーク、座学、実習、議論、ワークショップを組み合わせた教育を提供した。本プログラムは、科目履修生として社会人等を中心に受け入れ、大学院の関連科目の履修により、正規の単位を付与し、研修に必要な知識とスキルを修得する修了証プログラムとなっており、社会人等の多様なニーズに応じた学習機会を確保している。

○マイクロクレデンシャルや学習計画のデジタル化への取組

UNESCOの「東京規約」（2011）に基づき、本学では、今後、どのように「非伝統的教育」の資格・成績証明等を承認していくか喫緊の課題としてすでに検討を始めている。マイクロ・クレデンシャルについても、政府やNIC-Japan等が発信する各種報告等をはじめ、OECD等の国際会議からも情報を収集している。

【計画内容】

○英国・インド・オーストラリアの連携大学との教育連携

本事業は、日英豪印の4カ国5大学が共同の教育連携体制と学生支援体制を構築し、円滑かつ効果的に学生の国際的な学習を進めるための指導・支援を行う。

（1）単位制度と単位の相互認定

本事業は、本学が海外との単位互換に利用しているUTCS/ECTSを基本として、相互に単位認定を行う。受入と派遣大学が事前に合意された学習計画にもとづく履修と共通尺度を用いて学修量と成績を換算する。

（2）学生の履修順序

本事業の学びと実践を繰り返すアジャイル型教育は、4段階の学びのステップの履修順序について、授業科目と教育目標の関係を示したカリキュラムマップを作成し、5大学間で共有、コンピテンシーの修得状況に応じた履修指導を行う。また、HUSAでは、学生が適切なレベルの授業科目を体系的に選択できるようナンバリングをもとに学修指導を行う。

（3）単位の付与・相互認定や成績管理のプロセス

本学の短期交換留学プログラムで長年の利用実績があるUMAP単位互換制度（UCTS）を基に、それぞれの協定大学の単位規定と照らし合わせながら、互換の換算方法を協働で開発し、相互に活用する。また、実際の単位互換は、それぞれの専門分野の教育内容・学習成果の互換性が非常に重要になるため、協定大学の部局の教員を適宜、含めた「アジャイル型協働学習検討部会」を設置し、それぞれの協定大学と、個々の事例について、その都度、検討していく。

(4) アカデミックカレンダーの相違への対応

本事業の実施については、毎年5大学間でアカデミックカレンダーを共有する。オンラインや短期の交流は、各大学のアカデミックカレンダーを考慮した運営を行う。また、JV-Campusやオンラインコラボレーションソフトなどを活用し、学生自身や学生チームが自主的に活動できるような環境を提供する。長期の留学では、本学のクォーター制度の活用や日本語の集中講義の提供など、留学中のインターシップ時間の確保ができるような履修指導を行う。各プログラムを下記の時期に実施することで連携大学と基本的に合意している。これにあわせて、学生の募集選考日程等を決定する。

- 2-3月：e-STARTプログラム（COIL型協働教育）の実施
- 8月：国際ワークショップ [オンサイト学習] の実施
- 9/10月：HUSAプログラム（セメスター留学）による派遣・受入
- 10-11月：インターンシップの実施

(5) プログラムの3つのポリシーの設定と共有

本事業の実施のための共同プログラムについての3つのポリシー（学生の受入方針、カリキュラム方針、修了方針の共有）を設定するとともに、4つのステップそれぞれにも受入方針、カリキュラム方針、到達目標（修了方針）等を定め、5大学が方針に沿ってプログラムを運営する。

区分	内 容
受入方針	技術革新や新たな価値創造に関心のある学生、異なる文化や分野の専門家との協働に関心のある学生、また、それらの成果と社会課題をつなぎ合わせた新たなビジネスの創造に関心のある学生で、高い勉学意欲を備えた学生を受け入れる。
カリキュラム方針	先行きが不透明で将来の予測が困難な時代のグローバル社会を生き抜くには、異なる文化や分野の専門家との協働とともに、機敏かつ柔軟に適応する異文化アジリティが求められる。このため、あらゆる職場に新たな価値をもたらすマインドセットであるアジャイルアントレプレナーシップを醸成する教育を行う。
修了方針	VUCA時代のグローバル社会で活躍するため、異なる文化や分野をつなげる力と新たな物事にチャレンジするアントレプレナーシップ、とりわけ起きるべき変化に迅速かつ柔軟に適応し、新たな価値創造をもたらすアジャイルアントレプレナーシップを有する人材を育成する。プログラムは、それぞれのコースの修了要件を満たし、プログラムが求める能力達成基準（コンピテンシー）を身につけた学生に対して、修了証を授与する。

○学生交流プログラムの形態

本事業の各教育ステップは、日本・英国・インド・オーストラリアの学生が共に学ぶアジャイル型の教育プログラムとして、グループワークやプロジェクト等の協働学習を含むプログラム設計としている。学生同士は、互いの多様なバックグラウンドを越えて、協働することで、異文化アジリティを身につける設計としている。また、5大学以外の国内外の学生も段階的に展開することで、より多様性の高い教育環境の提供を目指す。

○修了証プログラム

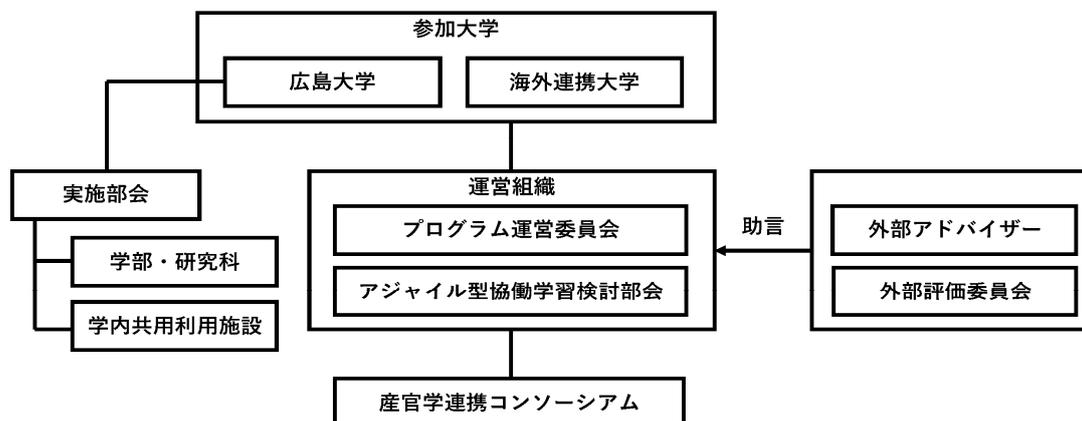
本事業は、オンライン東京規約において推奨する「部分的な修学」や「非伝統的な資格取得の形態」などの多様な学びにあたる到達目標型のプログラムとして実施する。e-STARTおよびAGILEワークショップ、インターンシップについても単位化し、GPAに基づく修了証を発行する。将来的には、本学の学習歴証明のデジタル化等の方針ともあわせて、国内外に広く展開する修了証プログラムとしてパッケージ化し、国内外で展開を図る。

○自己点検・質保証・運営体制

本事業は、本学及び海外連携大学の学長のリーダーシップの下、本事業における意思決定組織として、連携大学によるプログラム運営委員会を設置する。

加えて、本学においては、学部・研究科及び学内の研究センター等による全学の実施部会を設置する。

また、外部評価委員会の設置及び外部アドバイザーを置く。外部評価委員会は、他国との国際教育交流、グローバル化企業の専門家等を委員とし、事業の評価改善に取り組む。更に、アントレプレナーシップ分野に精通する専門家や起業家を外部アドバイザーとして、適宜助言を得て、プログラムの改善に努める。



(大学名： 広島大学) (主な交流先： 英国・インド・オーストラリア)

○マイクロクレデンシャルや学習計画のデジタル化への取組

本事業では、補助期間終了までに、あくまでもパイロット的な試みとして、本学の既存の「特定プログラム」制度を活用し、一定の科目履修並びにインターンシップへの参加に基づいて、成績証明書並びに修了認定書を発行する（仮称）「アジャイル型マイクロ・アントレプレナーシップ」コースを立ち上げようと計画している。また、可能であれば、協定大学の特にオンライン科目を含め、共通の学習成果の指標を評価する国際的ジョイント・スタディーコースとして、発展を目指す。さらに、上記のマイクロ・クレデンシャル型教育プログラムについては、留学前に記載するUMAP学修計画書のデジタル化に加え、成績並びに修了認定書等も、試行的に個々の証明書にID番号を付け、プログラム長のサインの下、強固なセキュリティーの伴った電子証明書として発行し、本学の電子証明書の発行の先駆的試みとして実践して行く計画である。なお、本証明書の電子化については、英国の資格承認情報センター(UK-ENIC)やオーストラリア政府内の情報センター並びに両国の協定大学の担当者からも助言を仰ぎながら、適宜、その質を向上させていく計画である。

達成目標 【①～④合わせて7ページ以内】

① 将来の関係を見据えた連携強化に資する目標について

(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2026年度まで）

本事業は、これまで本学がインド太平洋地域で展開してきた教育交流や学術交流を基盤にしつつ、英国・インド・オーストラリアの連携実績のある4大学と協力し、自由・民主主義・法の支配といったインド太平洋地域における基本的価値と、高度な制度設計が作り出す共創と競争が協奏する環境において、先行きが不透明で将来の予測が困難なVUCA時代においても、広く産官学にわたりグローバルに活躍し、学びと実践を繰り返すアジャイル・アントレプレナーシップを備えたりーダーの育成と、その教育のための、国際通用性のある質保証を伴った、実渡航とオンライン形式を組み合わせた多国間国際協働学習プログラムの構築の確立を目的とする。

また、広島大学が育成を目指す「平和を希求しチャレンジする国際的教養人」として必要な資質のうち、全学教育として育成してきた「平和を理解し、考える力（平和科目）」、「持続可能性（SDGs）（共通科目）」、「複数他者理解（世界展開力アフリカ）」、「ダイバーシティ&インクルージョン（世界展開力アジア）」に加え、学びと実践を繰り返す「アジャイル・アントレプレナーシップ」を第5の資質として加えたものを、全学教育の教養としてグローバル人材に必要な資質として確立する。この目的を達成するため、本事業では、事業の活動実績（アウトプット）と事業の成果（アウトカム）として下記のとおり達成目標を設定する。

○本事業のアウトプット

(1) 国際交流を通じて教養としてのアジャイル・アントレプレナーシップを身につけた人材の育成

広島大学は、人材育成目標「平和を希求しチャレンジする国際的教養人」の育成のため、学部・学科の枠を超えて4つの国際協働プログラム、①平和を理解し、考える力（平和科目）、②持続可能性（SDGs共通科目）、③複数他者理解（世界展開力アフリカ）、④ダイバーシティ&インクルージョン（世界展開力アジア）を展開してきた。本事業は、これに加える第5の資質である⑤アジャイル・アントレプレナーシップを国際交流を通じて醸成し、その育成基盤の強化を図ることで、学生の学びの選択肢を広げ、世界中から優秀な学生を惹きつけ、多様な世界的課題の解決において、先導的役割を果たす優れた人材を持続的に世界に向けて育成する。

(2) 国際通用性のある質保証を伴ったアジャイル型多国間国際協働学習プログラムの確立

本学は、自由、民主主義、法の支配といった基本的な価値を共有する4カ国5大学の共同による、学びと実践を繰り返すアジャイル型教育プログラムの実施を通して、国際的に質が保証された多国間国際協働学習プログラムを確立する。これにより、本学の国際戦略の実効性を高め、産業界および地域等との戦略的パートナーシップに基づく産官学の連携による国際協働を推進する。

○本事業のアウトカム

(1) インド太平洋地域における多国間学生交流モデルの横展開

本事業において産官学連携で構築した、国際通用性のある質保証を伴った、インド太平洋地域の多国間の国際協働学習を通じた交流モデルを、自由、民主主義、法の支配といった基本的価値を同じくするその他の国々の大学と協力・連携することにより、世界との協働を目指した横展開を図る。

(2) インド太平洋地域における学術交流基盤の拡大

本事業の学生交流を基盤に、産官学の共同研究、研究者交流など具体的な学術交流を展開し、日-インド太平洋の学術ネットワークの拡大、共同研究分野の増加などの相乗効果による、本学の研究力強化に貢献する。

(3) 海外連携大学との共同によるマイクロ・クレデンシャル型教育プログラム及び国際共同大学院プログラムへの発展

本事業の終了時までには、本学の既存の「特定プログラム」制度を活用し、一定の科目履修並びにインターンシップへの参加に基づいて、成績証明書並びに修了認定書を発行する（仮称）「アジャイル型マイクロ・アントレプレナーシップ」コースを立ち上げる。また、可能であれば、協定大学の特にオンライン科目を含め、共通の学習成果の指標を評価する国際的ジョイント・スタディーコースとして、発展を目指す。国際共同大学院プログラムへの構築へとつなげる。

(大学名： 広島大学) (主な交流先： 英国・インド・オーストラリア)

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2023年度まで）

本事業は、先行きが不透明で将来の予測が困難なVUCA時代においても、広く産官学にわたりグローバルに活躍する、アジャイル・アントレプレナーシップを備えた、先導的役割を果たす優れた人材の育成と、その教育のための、4カ国5大学の共同による、学びと実践を繰り返すアジャイル型教育プログラムの実施を通して、国際的に質が保証された多国間国際協働学習プログラムを確立するため、中間評価までに以下の目標達成に取り組む。

(1) ステップアップ型教育プログラム

4カ国5大学と本事業実施に係る協定を速やかに締結し、COIL型協働学習、学生提案型ワークショップ、 Semester留学、インターンシップの4つのアジャイル型教育プログラムを基礎から応用へと連結し、段階的にアントレプレナーシップを醸成させるステップアップ型教育プログラムを開始する。

(2) 国際社会の解決すべき課題をテーマとする教材の開発

本学の研究・社会貢献の強みを国際協働学習へつなげ、国際社会の解決すべき課題であるカーボンニュートラル、SDGs、防災・減災の分野の産官学の連携による教育を提供するため、4カ国5大学と連携した教材の開発を行う。

(3) 異文化アジリティの育成のためのPBL学習環境の整備

学生同士が、各国・各地の抱える諸問題を共有しながら、同期・非同期で常に協働しながら学習を進める異文化アジリティの育成のために、グローバルなPBL学習を可能とするICT環境を整備する。

② 養成しようとするグローバル人材像について

(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2026年度まで）

本事業で育成するグローバル人材像は、先行きが不透明で将来の予測が困難なVUCA時代において、社会経済、歴史・文化などに起因する多様性を踏まえた柔軟な解決策を提案し、困難を打開しながら実行を先導し、学びと実践を繰り返すアジャイル・アントレプレナーシップを備えたリーダーである。具体的には次の3つの人材像を想定している。

- ①新たなビジネスモデルを通じた新しい価値創造に取り組む**起業家・イノベーター**
- ②企業や機関において新しい価値創出に取り組む**イントラプレナー（組織内起業家）**
- ③世界的視野を備え、実践的な展開を見据えた研究開発を展開する**科学者・研究者**

本事業はこの目標となる人材の育成のために受入方針、カリキュラム方針、修了方針の3つのポリシーと、その人材に必要な能力を明示している（様式1⑤参照）。

学生は、アジャイル・アントレプレナーシップを身につけた人材として、卒業後には、教育・研究機関、グローバル企業、国際機関、政府機関・自治体、国際NGO等にあらゆる職場において活躍することが期待される。

更に、卒業後も学業を継続し、アジャイル・アントレプレナーシップを有しつつ、自らの専門性を追求し深化させるために、大学院に進学することも想定される。この場合、出身大学の大学院への進学だけでなく、本事業における連携大学に進学することも推奨される。

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2023年度まで）

○学生交流の実施

2022年度より、学生派遣受入の準備を開始する。なお、2022年度及び2023年度に本事業にて実施するプログラムは以下のとおりである。本事業でのプログラムを着実に実施することで、本事業が目指す人材の育成を行う。

- ①e-START（COIL型学習プログラム）
【参加学生募集】2022年11月、【参加学生決定】2022年12月、【プログラム実施】2023年2～3月
- ②AGILEワークショップ
【参加学生募集】2022年11月、【参加学生決定】2022年12月、【プログラム実施】2023年8～9月
- ③HUSAプログラム（Semester留学）
【参加学生募集】2022年12月、【参加学生決定】2023年1月、【プログラム実施】2023年9月～
- ④インターンシップ
【参加学生募集】2022年12月、【参加学生決定】2023年2月、【プログラム実施】2023年11月～

○キャリア支援

参加学生に対して、本事業の連携機関での視察や意見交換のほか、本事業で育成した人材が活躍する分野の専門家の講演などの多様な教育機会を提供し、派遣学生へはグローバルなキャリア形成への動機付け、受入学生へは日本での高度人材としてのキャリア形成の動機付けへつなげ、学生のキャリアの拡大、学生自身のネットワーク拡大を支援する。

③-1 学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする日本人学生数の推移について

(i) 本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標

単位：人（延べ人数）

	外国語力基準	達成目標	
		中間評価まで (事業開始～ 2023年度まで)	事後評価まで (事業開始～ 2026年度まで)
	【参考】本事業計画において派遣する日本人学生合計数	27	98
1	TOEIC L&R 730以上 (TOEFL-iBT 80点レベル相当)	9	37
2	TOEIC L&R780以上 (TOEFL-iBT 86点レベル相当)	3	9
3			

(ii) 外国語力基準を定めた考え方

本学は2014年にスーパーグローバル大学創成支援事業（タイプA）に採択され、その事業構想において、学生の外国語力基準について、2023年度までの達成目標を次のように設定した。

- 学部学生：その30%以上の学生がTOEIC730点（TOEFL-iBT80点レベル相当）のスコアを越えること
- 大学院生：その60%以上の学生がTOEIC730点（TOEFL-iBT80点レベル相当）のスコアを越えること

本学は、英語能力の測定のため、学部1年次の5月のTOEIC受験を必須としている。更に、3年次または4年次にもTOEICの受験を課し、学生の語学能力の成長を確認している。また、大学院学生を含む、全学生の希望者に対して、5月又は11月のTOEIC受験機会を提供している。これらのTOEIC受験経費については、大学が負担することで、学生の経済的状況から受験を躊躇うことがないようにしている。本事業では、こうした取組みと留学先での学習活動、生活に必要な英語能力を総合的に考慮して、外国語力基準の目標を以下のとおり定めた。

Oe-START（COIL型協働学習プログラム）参加学生

プログラム参加者の本学学生50人のうち、15人（30%）が、TOEIC L&R730点を卒業までに越えること。アーリーエクスポージャーの観点から、できるかぎり多くの学生に海外の学生との交流の機会を与えて、外国語を学習する動機付けを行う。

○AGILEワークショップ参加学生

ワークショップ参加者における本学学生20人（インド開催）のうち、8人（40%）が、TOEIC L&R730点を卒業までに越えること。オンラインで交流した海外大学の学生と現地で実際に会うことにより、外国語能力の向上を図る。

○HUSAプログラム参加学生

プログラム参加者における本学学生28人のうち、14人（50%）が、TOEIC L&R730点を卒業までに越えること。自らの専門性を深めるために外国語を手段として用いることによって、より高度な外国語能力の向上を図る。

(大学名： 広島大学) (主な交流先： 英国・インド・オーストラリア)

(iii) 事業計画全体の目標達成に向けたプロセス（事業開始～2026年度まで）

○学生の選抜

e-STARTプログラムは、当該年度の参加学生を11月に募集、書類審査後、12月に審査結果を発表する。AGILEワークショップは、11月に募集、書類審査後、12月に審査結果を発表する。HUSAプログラムは、次年度の派遣学生を12月に募集、書類と面接審査後、1月に派遣学生を決定する。インターンシップは、12月に募集、書類審査後、2月に審査結果を発表する。なお、2022年度は事業初年度となるため募集開始、受入・派遣決定スケジュールが遅れる予定である。本事業は、派遣・受入共に、語学能力の試験結果を審査項目の1つとする。

e-STARTプログラムについては、オンラインでの学生交流に必要な語学力として、TOEIC680点以上のスコアを原則とするものの、アーリーエクスポージャーの観点からできる限り幅広い学生の参加を促し、早期の外国語学習の動機付けを図るため、参加者の約半数が基準を満たせばよいものとする。AGILEワークショップについては、ワークショップや学生交流に必要な語学力として、原則TOEIC680点以上のスコアを有する学生を参加対象とする。HUSAプログラムについては、派遣先での授業の履修や研究活動など、専門性の高い学習を進めることに加えて、派遣先での自らの安全を確保し、リスクを管理するうえで、必要不可欠なものであることを踏まえて、原則TOEIC700点以上のスコアを有する学生を派遣対象とする。

○語学力の成長の確認

e-STARTプログラム参加学生については、研修終了後の7月のTOEICの受験を必須とする。7月のTOEIC受験で目標スコアを達成しない学生については、卒業までにスコアを達成するように、本学の語学クラスの受講やオンライン講座の受講等の指導/カウンセリングを行う。

AGILEワークショップ参加学生については、研修終了後の11月のTOEICの受験を必須とする。11月のTOEIC受験で目標スコアを達成しない学生については、卒業までにスコアを達成するように、本学の語学クラスの受講やオンライン講座の受講等の指導/カウンセリングを行う。

HUSAプログラム参加学生についても、帰国後のTOEIC受験を必須として、語学力の成長を確認する。目標スコアを達成しない学生についてもSTARTプログラムと同様に、語学学習について、卒業までにスコアを達成できるように指導を行う。

(iv) 中間評価までの目標達成に向けたプロセス（事業開始～2023年度まで）

○学生の選抜

学生募集要項には、語学要件（英語でのコミュニケーション）を明記する。具体的には、①受験時には原則としてTOEIC680点、HUSAについてはTOEIC700点以上が望ましいレベルであること、②プログラムの修了後から卒業時までに達成すべき語学能力としてTOEIC730点、③到達が望まれる語学能力としてTOEIC780点として、募集要項に示す。語学力については、必要に応じて英語での面接を実施し、学生の語学力と語学学習に対する意欲を審査する。教育プログラムの参加が学生のキャリア形成上必要であると考えられるが、語学力が不足している学生については、本学の外国語教育研究センターが提供する英語研修やオンライン教材を活用した学習を進めるよう指導する。

○英語資格試験スコアのモニタリングと学生指導

本プログラムの参加学生は参加申込時に、それぞれのプログラムの修了後のTOEIC受験を必須として、学生TOEICスコアの伸長をモニタリングするとともに、外国語学習について指導とカウンセリングを行う。

(大学名： 広島大学) (主な交流先： 英国・インド・オーストラリア)

③-2 学生に修得させる具体的能力のうち、「③-1」以外について

(i) 事業計画全体の達成目標 (事業開始～2026年度まで)

本事業は、日本と英国、オーストラリア、インドの架け橋となる人材として、先行きが不透明で将来の予測が困難なVUCA時代において求められる、社会経済、歴史・文化などに起因する多様性を踏まえた柔軟な解決策を提案できる、アジャイル・アントレプレナーシップを備えたリーダーを育成する。本事業は、4カ国の様々なバックグラウンドの学生が、カーボンニュートラル、SDGs、防災・減災の世界的課題について協働するために、知識の習得と実践を重層的に繰り返す構造を有するプログラムを提供する。アジャイル・アントレプレナーシップに必要なコンピテンシーとして、①システム思考、②アントレプレナーシップ、③異文化アジリティ、④批判的思考、⑤リスクマネジメント、⑥レジリエンスの6つを導入し、それぞれに5つのレベルを設定した。こうした能力は、従来の学位課程の学修だけでは、十分修得することが出来ない能力であり、学位プログラムと補完的に実施する到達目標型の修了証プログラムとして、学生の成長に、大きな効果を与えるものである。本事業が育成する人材の活躍が想定される業種や機関からも、こうしたこれまでに無い経験を有する起業家・イノベーター、イントラプレナー(組織内起業家)、研究者など、様々なセクターから大きな期待が寄せられている。本事業では、この目標となる人材に必要な能力として、6つのコンピテンシーを設定した。参加学生は、プログラム修了時に、BEVIテストで自身の学習・成長・変化のプロセスや成果を客観的に理解することに加えて、自己評価や担当教員からの評価等によって、自らのコンピテンシーの到達状況を確認する。プログラムは、学生の到達目標の達成をもとにプログラムの修了を認定する。

【6つのコンピテンシーと成果水準】

区分	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
	複雑な課題の因果関係を深く理解し、解決に向けて実践的な解決策を見いだす				
システム思考	本プログラムでの学びを通して、社会が直面する課題には様々な要因が複雑に関係していることが理解できる	本プログラムでの学びを通して、社会が直面する課題の複雑性とその相互関係について理解できる	本プログラムでの学びを通して、社会が直面する課題の複雑性と関係性を理解し、その解決のための手段を考えることができる	本プログラムでの学びを通して、社会が直面する課題の複雑性と関係性から問題構造を理解し、その解決に向けて必要な知識や技術を想定できる	本プログラムでの学びを通して、社会が直面する課題の複雑性と関係性の因果関係を深く理解し、解決に向けて実践的な解決策を見いだすことができる
	創造的・革新的なアイデアを出し、具体的な計画を立て、リーダーシップを発揮し、行動に移すことができる				
アントレプレナーシップ	グループディスカッション等において創造的・革新的なアイデアを出すことができる	グループディスカッション等において創造的・革新的なアイデアを出し、具体的な計画を立てることができる	グループディスカッション等において創造的・革新的なアイデアを出し、実現に向けた具体的な計画を立て、グループメンバーに説明することができる	グループディスカッション等において創造的・革新的なアイデアを出し、実現に向けた具体的な計画を立て、グループメンバーと共に行動に移すことができる	グループディスカッション等において創造的・革新的なアイデアを出し、実現に向けた具体的な計画を立て、リーダーシップを発揮し、グループ全体として行動に移すことができる
	多様性を有する集団の中で責任を持って行動する				
異文化アジリティ	本プログラムでは、異なる文化的・社会的背景を持つ人で学習集団が構成されていることが理解できる	本プログラムでの学びの中で、異なる文化的・社会的背景を持つ学習集団に対応し、他人に配慮して行動できる	本プログラムでの学びの中で、異なる文化的・社会的背景を持つ学習集団の中で、目的をもって行動できる	本プログラムでの学びの中で、異なる文化的・社会的背景を持つ学習集団として協働できる	本プログラムでの学びの中で、異なる文化的・社会的背景を持つ学習集団として協働し、学びの成果を出すことができる
	複雑な問題を多面的な視点から、批判的・客観的に捉える				
批判的思考	情報を見聞きしたり、ディスカッションをする際、批判的・客観的な視点の必要性を理解できる	情報を見聞きしたり、ディスカッションをする際には、批判的・客観的な視点の必要性を理解し、物事を懐疑的に見ることができ	情報を見聞きしたり、ディスカッションをする際には、批判的・客観的な視点の必要性を理解し、懐疑的視点から物事の構造を多面的に捉えることができる	情報を見聞きしたり、ディスカッションをする際には、批判的・客観的な視点で物事を考え続け、懐疑的視点から物事の構造を振り下げるができる	情報を見聞きしたり、ディスカッションをする際には、批判的・客観的な視点で物事を考え続け、物事の本質を見極め、必要な行動を見いだすことができる
	絶えず変化する環境の中で行動に対して、起こりうるリスクに向き合い、適切に対応する				
リスクテイク	本プログラムでの活動において、行動に対して起こりうるリスクがあることを理解できる	本プログラムでの活動において、行動に対して起こりうるリスクを想定して、行動できる	本プログラムでの活動において、行動に対して起こりうるリスクを想定し、予防策や代替案を考えて行動できる	本プログラムでの活動において、行動に対して起こりうるリスクを想定し、複数の予防策と代替案を備えて、行動できる	本プログラムでの活動において、行動に対して起こりうるリスクを想定し、複数の予防策と代替案を備えて、情熱を持って行動し続けることができる
	変化に対して柔軟に対応し、困難な状況でもパフォーマンスを上げる				
レジリエンス	本プログラムでの学びの中で遭遇する困難や課題の内容を客観的にとらえることができる	本プログラムでの学びの中で遭遇する困難を客観的かつ多面的にとらえることができる	本プログラムでの学びの中で遭遇する困難を客観的かつ多面的にとらえ、その困難を引き起こした背景や原因を考えることができる	本プログラムでの学びの中で遭遇する困難を客観的かつ多面的にとらえなおし、肯定的で新たな考え方を導き出すことができる	本プログラムでの学びの中で遭遇する困難を客観的かつ多面的にとらえなおし、肯定的で新たな考え方を導き出し、パフォーマンスを上げることができる

(ii) 中間評価までの達成目標 (事業開始～2023年度まで)

○プログラムの修了

到達目標型プログラムとして、5大学および関係機関の協議のもと、それぞれのプログラムにおいて到達すべき水準を設定し、参加学生があらかじめ定められた期間のプログラムに参加し、担当教員によるプログラムの到達目標が達成された確認と成績評価をもって、修了を認定する。修了者には学習量について明記した修了証を発行する。プログラムの参加学生の学習状況、修了状況については5大学間で定期的に確認する。

○到達目標型プログラム運営

個々のプログラムの担当教員は、自分の担当する学生ごとの到達目標の達成状況を把握し、プログラム終了後に、学生評価をプログラム会議に報告する。プログラム会議は、学生が適切に到達目標を達成しているかを確認をもって、プログラムが適切に運営されているかを確認する。必要に応じて担当教員や参加学生、関係者にヒアリングを行い、有効なプログラム運営に努める。

④ 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組について

(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2026年度まで）

○学生交流附属書の締結

本学と海外連携大学とは既に交流協定を締結済みであるが（インド経営大学院バンガロール校を除く）、質の保証を伴った大学間交流、学生の生活と安全確保を行うために必要な項目を定めた学生交流附属書を締結する。

○単位互換・成績管理

本学と他大学の単位制度の違いをUCTSの概念に照らし合わせて、単位互換の換算方法をそれぞれの海外連携大学と共同で構築し、「アジャイル協働学習検討部会」の協議会を通して、個々のケースの学習成果の互換性と達成度を細かく検討し、学生に不利にならないように単位・成績の互換を実施する。また、学生には、科目等を履修する前に学習計画書の作成を依頼し、事前に単位互換の可否については、3者で合意を得るように学習計画書(Learning Agreement)を活用する。

○学生の募集と選考

学生の受入方針に沿って、それぞれの大学で学生募集を行う。選考は二段階選抜とし、第一段階は、各派遣元大学でスクリーニングを実施し、候補者を絞り、第二段階では、受入大学が審査を行う。その際、必要に応じて面接審査を派遣元大学、派遣先大学の双方の教員が参加して実施する。審査結果を基に、本学と海外連携大学合同のプログラム運営委員会で、参加学生の合格について審議する。

○修了証の授与

本学と海外連携大学は、参加学生の学修情報を共有し、学修内容とコンピテンシーの修得を確認する。連携大学合同の運営委員会で、修了証の授与について審議する。

○大学間交流の枠組みの形成と拡大

事業内容について広く公表すること、事業成果発信のためのシンポジウムやセミナーを開催する。また、必要な教材を共同で開発するための、共同セミナー（FD）を開催し、幅広い学術交流への発展に向けて積極的に検討する。

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2023年度まで）

○学生交流の開始

2022年度は、連携大学間で学生交流附属書を締結し、本事業内容を広く公表するためのキックオフ会議を開催する。連携大学合同で、プログラムに参加する優秀な学生を選抜する。

○修了証の授与

参加学生の学修内容とコンピテンシーの修得状況を確認し、プログラム運営委員会で審議のうえ、修了証を授与する。

○FDの実施

連携大学間で共同セミナーをオンラインで開催し、必要な教材の開発に努める。

○外部評価委員会の開催

プログラム運営の点検と改善のための外部評価委員会を開催する。

(大学名： 広島大学) (主な交流先： 英国・インド・オーストラリア)

⑤ 本事業計画において海外に留学する日本人学生数の推移【1 ページ以内】

現状(2022年5月1日現在)※1 (単位:人) 48

(i) 日本人学生数の達成目標

単位: 延べ人数

事業計画全体の達成目標(事業開始～2026年度まで)	98
中間評価までの達成目標(事業開始～2023年度まで)	27

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス(事業計画全体、中間評価までの双方について)

単位: 人

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	合計
実際に渡航する学生	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	10	10	10	10	10	50
実渡航とオンライン受講を行う学生	0	7	17	7	17	48
合計人数	10	17	27	17	27	98

(a) 実渡航による交流

本事業は、学生の学習プロセスと修得能力に応じて、e-START(COIL型協働学習)、AGILEワークショップ(短期受入)、HUSAプログラム(中期受入)、グローバルインターンシップの4ステップに挑戦できるようなプログラムを提供する。事業全体としてハイブリッド型の体系性と階層性を備えたブレンディットプログラムとして実施するため、実渡航のみの学生は計画していない。

(b) オンライン交流

○e-STARTプログラム(COIL型協働学習)

e-STARTプログラムは、本プログラムのステップアップ型教育の導入プログラムとして提供する。本プログラムを基盤として、次のステップへの参加への動機づけを行う。プログラムでは、多国間の少人数の学生チームが、カーボンニュートラル、SDGs、防災・減災等をテーマに、基礎的な知識と技術、その応用を学ぶ。新型コロナウイルスの感染状況の影響を受けることなく、各大学の学生がオンラインで協働して学習する機会を幅広く提供するために、各大学から10人、計50人の参加とした。

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

○AGILEワークショップ(インド開催)(短期派遣)

本ワークショップは広島大学、ビルラ技術科学大学ピラニ校(インド)で隔年開催とし、ビルラ技術科学大学ピラニ校で、2024年、2026年に実施する。学生は、講義やフィールド調査のほか、創造性及びアイデアを生成する能力を高めるためにデザインされたアイデア・マイニング活動を体験しつつ、多様なバックグラウンドを持つ学生と議論する学生提案型ワークショップやセミナーを提供する。派遣する日本人学生数は、派遣先大学における教育の質の確保と授業クラスのキャパシティ、提供できる安全な宿舎、学生の健康と安全確保等を考慮し10人とした。

○HUSA(セメスター留学)

シェフィールド大学(英国)、ビルラ技術科学大学ピラニ校(インド)、ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)に各2人、インド経営大学院バンガロール校(インド)に1人を、1セメスター派遣する。派遣学生は、自らの専門性に立脚してアジャイル・アントレプレナーシップ醸成に資する学習を行う。派遣先大学にてUMAP単位互換制度により8単位相当を履修する。

○グローバルインターンシップ

学生は、HUSAでの滞在中に、自らのキャリアデザインに応じて、受入大学のインターンシッププログラムに参加し、グローバルな就業経験を通じた、アジャイル・アントレプレナーシップの実践に取り組む。

【中間評価までのプロセス】

○連携大学間で学生交流附属書を締結し、授業料の相互不徴収を明記する。

○単位互換: 連携大学間で主要科目の単位互換表の作成等、学生が円滑に留学できる環境を整備する。

○シラバス等の作成: 本事業で展開する教育科目について、シラバスや学生交流のための順守事項等を示したガイドラインを作成し、連携大学間で共有する。

※1 現状は、事業の取組単位(全学、学部等)における2022年5月1日現在の人数。

(大学名: 広島大学) (主な交流先: 英国・インド・オーストラリア)

⑥ 本事業計画において受け入れる外国人学生数の推移【1ページ以内】

現状（2022年5月1日現在）※1 （単位：人） 1638

(i) 外国人学生数の達成目標

単位：延べ人数

事業計画全体の達成目標（事業開始～2026年度まで）	268
中間評価までの達成目標（事業開始～2023年度まで）	107

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）

単位：人

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	合計
実際に渡航する学生	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	40	40	40	40	40	200
実渡航とオンライン受講を行う学生	0	27	7	27	7	68
合計人数	40	67	47	67	47	268

(a) 実渡航による交流

本事業は、学生の学習プロセスと修得能力に応じて、e-START（COIL型協働学習）、AGILEワークショップ（短期受入）、HUSAプログラム（中期受入）、グローバルインターンシップの4ステップに挑戦できるようなプログラムを提供する。事業全体としてハイブリッド型の体系的性と階層性を備えたブレンディットプログラムとして実施するため、実渡航のみの学生は計画していない。

(b) オンラインによる交流

○e-STARTプログラム(COIL型協働学習)

e-STARTプログラムは、本プログラムのステップアップ型教育の導入プログラムとして提供する。本プログラムを基盤として、次のステップへの参加への動機づけを行う。プログラムでは、多国間の少人数の学生チームが、カーボンニュートラル、SDGs、防災・減災等をテーマに、基礎的な知識と技術、その応用を学ぶ。新型コロナウイルスの感染状況の影響を受けることなく、各大学の学生がオンラインで協働して学習する機会を幅広く提供するために、各大学から10人、計50人の参加とした。

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

○AGILEワークショップ(日本開催)(短期派遣)

本ワークショップは広島大学、ピラ技術科学大学ピラニ校(インド)で隔年開催とし、広島大学で、2023年、2025年に実施する。学生は、講義やフィールド調査のほか、創造性及びアイデアを生成する能力を高めるためにデザインされたアイデア・マイニング活動を体験しつつ、多様なバックグラウンドを持つ学生と議論する学生提案型ワークショップやセミナーを提供する。本学で受け入れる海外連携大学の学生数は、教育の質の確保と授業クラスのキャパシティ、提供できる安全な宿舎、学生の健康と安全確保等を考慮し4カ国4大学から各5人、計20人とした。

○HUSA(セメスター留学)

シェフィールド大学(英国)、ピラ技術科学大学ピラニ校(インド)、ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)から各2人、インド経営大学院バンガロール校(インド)から1人を、1セメスター受け入れる。派遣学生は、自らの専門性に立脚してアジャイル・アントレプレナーシップ醸成に資する学習を行う。派遣先大学にてUMAP単位互換制度により8単位相当を履修する。

○グローバルインターンシップ

学生は、HUSAでの滞在中に、自らのキャリアデザインに応じたインターンシップに参加する。学生は、アントレプレナーシップの醸成とアジャイルの実践として、本学の好きじやけんコンソーシアムのバックアップを得て、ベンチャー企業やNPO、国際機関等でインターンとして就業する。

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における2022年5月1日現在の人数。

(大学名： 広島大学) (主な交流先： 英国・インド・オーストラリア)

⑦ 交流学生数について（2022年度は事業開始以後の人数）（単位：人）

(i) 本事業で計画している交流学生数

各年度の派遣及び受入合計人数 (交流期間、単位取得の有無等の内訳は (iii) 表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	10	40	17	67	27	47	17	67	27	47	98	268
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラム をオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	10	40	10	40	10	40	10	40	10	40	50	200
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	7	27	17	7	7	27	17	7	48	68

(ii) 国内大学及び交流プログラムごとの交流学生数

交流形態	①	単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	学生別	A	学部生	実 オ ハ	実 オンライン ハイブリッド
	②	単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		B	大学院生		
	③	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流					
	④	上記以外の交流期間30日未満の交流					
	⑤	上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流					
	⑥	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流					

1. 【代表申請大学】

大学名		広島大学																	
交流プログラム名 (相手大学名)	交流方向	交流形態	学生別	2022年度			2023年度			2024年度			2025年度			2026年度			合計
				実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	
e-STRAT (シェフィールド大学、ビルラ技術科学大学ピラニ校、インド経営大学院バンガロール校、ニューサウスウェールズ大学)	派遣	②	A	0	10	0	0	10	0	0	10	0	0	10	0	0	10	0	50
e-STRAT (シェフィールド大学、ビルラ技術科学大学ピラニ校、ニューサウスウェールズ大学)	受入	②	A	0	30	0	0	30	0	0	30	0	0	30	0	0	30	0	150
e-STRAT (インド経営大学院バンガロール校)	受入	②	B	0	10	0	0	10	0	0	10	0	0	10	0	0	10	0	50
AGILEワークショップ (ビルラ技術科学大学ピラニ校)	派遣	①	A	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	10	20
AGILEワークショップ (シェフィールド大学、ビルラ技術科学大学ピラニ校、ニューサウスウェールズ大学)	受入	①	A	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	15	0	0	0	30
AGILEワークショップ (インド経営大学院バンガロール校)	受入	①	B	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5	0	0	0	10
HUSAプログラム (シェフィールド大学、ビルラ技術科学大学ピラニ校、ニューサウスウェールズ大学)	派遣	③	A	0	0	0	0	0	6	0	0	6	0	0	6	0	0	6	24
HUSAプログラム (インド経営大学院バンガロール校)	派遣	③	B	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	4
HUSAプログラム (シェフィールド大学、ビルラ技術科学大学ピラニ校、ニューサウスウェールズ大学)	受入	③	A	0	0	0	0	0	6	0	0	6	0	0	6	0	0	6	24
HUSAプログラム (インド経営大学院バンガロール校)	受入	③	B	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	4
インターンシップ (シェフィールド大学、ビルラ技術科学大学ピラニ校、ニューサウスウェールズ大学)	派遣	④	A	0	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	12
インターンシップ (インド経営大学院バンガロール校)	派遣	④	B	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	4
インターンシップ (シェフィールド大学、ニューサウスウェールズ大学)	受入	④	A	0	0	0	0	0	4	0	0	4	0	0	4	0	0	4	16
インターンシップ (インド経営大学院バンガロール校)	受入	⑤	B	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	4

2. 【国内連携大学等】

大学名																			
交流プログラム名 (相手大学名)	交流方向	交流形態	学生別	2022年度			2023年度			2024年度			2025年度			2026年度			合計
				実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	
	派遣																		0
	受入																		0
	派遣																		0
	受入																		0

(大学名： 広島大学) (主な交流先： 英国・インド・オーストラリア)

(iii) 本事業で計画している交流学生数（派遣・受入別 各内訳の集計）

【日本人学生の派遣】		2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	合計
年度別合計人数	学生別	10	21	31	21	31	114
【交流形態別 内訳】							
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流		0	0	10	0	10	20
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	10	0	10	20
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		10	10	10	10	10	50
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	10	10	10	10	10	50
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0	7	7	7	7	28
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	7	7	7	7	28
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流		0	4	4	4	4	16
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	4	4	4	4	16
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0

(大学名： 広島大学) (主な交流先： 英国・インド・オーストラリア)

【外国人学生の受入】		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	合計
年度別合計人数	学生別	40	72	52	72	52	288
【交流形態別 内訳】							
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流		0	20	0	20	0	40
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	20	0	20	0	40
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		40	40	40	40	40	200
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	40	40	40	40	40	200
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0	7	7	7	7	28
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	7	7	7	7	28
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流		0	4	4	4	4	16
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	4	4	4	4	16
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	1	1	1	1	4
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	1	1	1	1	4
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0

(大学名： 広島大学) (主な交流先： 英国・インド・オーストラリア)

(iv) 派遣・受入別 交流プログラム学生数の詳細

①日本人学生の派遣【計画】

年度	交流期間		派遣元大学	派遣先大学	派遣相手国	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	学生別	交流学生数	(内訳)		
										喫渡航	オンライン	ハイブリッド
R4	2023.02	~ 2023.03	広島大学	シェフィールド大学 ピラ技術科学大学ピラ二校 インド経営大学院バンガロール校 ニューサウスウェールズ大学	英国 インド オーストラリア	e-STARTプログラム	②：単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	A	10		10	
R5	2023.10	~ 2024.03	広島大学	シェフィールド大学	英国	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2023.10	~ 2024.03	広島大学	ピラ技術科学大学ピラ二校	インド	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2023.10	~ 2024.03	広島大学	インド経営大学院バンガロール校	インド	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	1			1
	2023.10	~ 2024.03	広島大学	ニューサウスウェールズ大学	オーストラリア	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2024.01	~ 2024.01	広島大学	シェフィールド大学	英国	インターンシップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	1			1
	2024.01	~ 2024.01	広島大学	ピラ技術科学大学ピラ二校	インド	インターンシップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	1			1
	2024.01	~ 2024.01	広島大学	インド経営大学院バンガロール校	インド	インターンシップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	B	1			1
	2024.01	~ 2024.01	広島大学	ニューサウスウェールズ大学	オーストラリア	インターンシップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	1			1
R6	2024.09	~ 2024.09	広島大学	ピラ技術科学大学ピラ二校	インド	AGILEワークショップ	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	10			10
	2024.10	~ 2025.03	広島大学	シェフィールド大学	英国	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2024.10	~ 2025.03	広島大学	ピラ技術科学大学ピラ二校	インド	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2024.10	~ 2025.03	広島大学	インド経営大学院バンガロール校	インド	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	1			1
	2024.10	~ 2025.03	広島大学	ニューサウスウェールズ大学	オーストラリア	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2025.01	~ 2025.01	広島大学	シェフィールド大学	英国	インターンシップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	1			1
	2025.01	~ 2025.01	広島大学	ピラ技術科学大学ピラ二校	インド	インターンシップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	1			1
	2025.01	~ 2025.01	広島大学	インド経営大学院バンガロール校	インド	インターンシップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	B	1			1
	2025.01	~ 2025.01	広島大学	ニューサウスウェールズ大学	オーストラリア	インターンシップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	1			1
	2025.02	~ 2025.03	広島大学	シェフィールド大学 ピラ技術科学大学ピラ二校 インド経営大学院バンガロール校 ニューサウスウェールズ大学	英国 インド オーストラリア	e-STARTプログラム	②：単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	A	10		10	
R7	2025.10	~ 2026.03	広島大学	シェフィールド大学	英国	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2025.10	~ 2026.03	広島大学	ピラ技術科学大学ピラ二校	インド	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2025.10	~ 2026.03	広島大学	インド経営大学院バンガロール校	インド	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	1			1
	2025.10	~ 2026.03	広島大学	ニューサウスウェールズ大学	オーストラリア	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2026.01	~ 2026.01	広島大学	シェフィールド大学	英国	インターンシップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	1			1
	2026.01	~ 2026.01	広島大学	ピラ技術科学大学ピラ二校	インド	インターンシップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	1			1
	2026.01	~ 2026.01	広島大学	インド経営大学院バンガロール校	インド	インターンシップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	B	1			1
	2026.01	~ 2026.01	広島大学	ニューサウスウェールズ大学	オーストラリア	インターンシップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	1			1
R8	2026.02	~ 2026.03	広島大学	シェフィールド大学 ピラ技術科学大学ピラ二校 インド経営大学院バンガロール校 ニューサウスウェールズ大学	英国 インド オーストラリア	e-STARTプログラム	②：単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	A	10		10	
	2026.09	~ 2026.09	広島大学	ピラ技術科学大学ピラ二校	インド	AGILEワークショップ	①：単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	10			10
	2026.10	~ 2027.03	広島大学	シェフィールド大学	英国	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2026.10	~ 2027.03	広島大学	ピラ技術科学大学ピラ二校	インド	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2026.10	~ 2027.03	広島大学	インド経営大学院バンガロール校	インド	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	B	1			1
	2026.10	~ 2027.03	広島大学	ニューサウスウェールズ大学	オーストラリア	HUSAプログラム	③：単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2027.01	~ 2027.01	広島大学	シェフィールド大学	英国	インターンシップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	1			1
	2027.01	~ 2027.01	広島大学	ピラ技術科学大学ピラ二校	インド	インターンシップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	1			1
	2027.01	~ 2027.01	広島大学	インド経営大学院バンガロール校	インド	インターンシップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	B	1			1
	2027.01	~ 2027.01	広島大学	ニューサウスウェールズ大学	オーストラリア	インターンシップ	④：上記以外の交流期間30日未満の交流	A	1			1
2027.02	~ 2027.03	広島大学	シェフィールド大学 ピラ技術科学大学ピラ二校 インド経営大学院バンガロール校 ニューサウスウェールズ大学	英国 インド オーストラリア	e-STARTプログラム	②：単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	A	10		10		

(大学名： 広島大学

) (主な交流先： 英国・インド・オーストラリア

②外国人学生の受入【計画】

年度	交流期間		派遣元大学	派遣相手国	派遣先大学	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	学生別	交流学生数	(内訳)		
										実渡航	オンライン	ハイブリッド
R4	2023.02	~ 2023.03	シェフィールド大学 ビルラ技術科学大学ピ ラニ校 ニューサウスウェル ズ大学	英国 インド オーストラリア	広島大学	e-STARTプログラム	②: 単位取得を伴う交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	A	30		30	
	2023.02	~ 2023.03	インド経営大学 院バンガロール校	インド	広島大学	e-STARTプログラム	②: 単位取得を伴う交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	B	10		10	
R5	2023.09	~ 2023.09	シェフィールド大学 ビルラ技術科学大学ピ ラニ校 ニューサウスウェル ズ大学	英国 インド オーストラリア	広島大学	AGILEワークショップ	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	15			15
	2023.09	~ 2023.09	インド経営大学 院バンガロール校	インド	広島大学	AGILEワークショップ	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	B	5			5
	2023.10	~ 2024.03	シェフィールド大学	英国	広島大学	HUSAプログラム	③: 単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2023.10	~ 2024.03	ビルラ技術科学 大学ピラニ校	インド	広島大学	HUSAプログラム	③: 単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2023.10	~ 2024.03	インド経営大学 院バンガロール校	インド	広島大学	HUSAプログラム	③: 単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	B	1			1
	2023.10	~ 2024.03	ニューサウス ウェルズ大学	オーストラリア	広島大学	HUSAプログラム	③: 単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2024.01	~ 2024.01	シェフィールド大学	英国	広島大学	インターンシップ	④: 上記以外の交流期間30日未 満の交流	A	2			2
	2024.01	~ 2024.02	インド経営大学 院バンガロール校	インド	広島大学	インターンシップ	⑤: 上記以外の交流期間30日以 上3ヶ月未満の交流	B	1			1
	2024.01	~ 2024.01	ニューサウス ウェルズ大学	オーストラリア	広島大学	インターンシップ	④: 上記以外の交流期間30日未 満の交流	A	2			2
	2024.02	~ 2024.03	シェフィールド大学 ビルラ技術科学大学ピ ラニ校 ニューサウスウェル ズ大学	英国 インド オーストラリア	広島大学	e-STARTプログラム	②: 単位取得を伴う交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	A	30		30	
	2024.02	~ 2024.03	インド経営大学 院バンガロール校	インド	広島大学	e-STARTプログラム	②: 単位取得を伴う交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	B	10		10	
	2024.10	~ 2025.03	シェフィールド大学	英国	広島大学	HUSAプログラム	③: 単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2024.10	~ 2025.03	ビルラ技術科学 大学ピラニ校	インド	広島大学	HUSAプログラム	③: 単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2024.10	~ 2025.03	インド経営大学 院バンガロール校	インド	広島大学	HUSAプログラム	③: 単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	B	1			1
2024.10	~ 2025.03	ニューサウス ウェルズ大学	オーストラリア	広島大学	HUSAプログラム	③: 単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2	
2025.01	~ 2025.01	シェフィールド大学	英国	広島大学	インターンシップ	④: 上記以外の交流期間30日未 満の交流	A	2			2	
2025.01	~ 2025.02	インド経営大学 院バンガロール校	インド	広島大学	インターンシップ	⑤: 上記以外の交流期間30日以 上3ヶ月未満の交流	B	1			1	
2025.01	~ 2025.01	ニューサウス ウェルズ大学	オーストラリア	広島大学	インターンシップ	④: 上記以外の交流期間30日未 満の交流	A	2			2	
2025.02	~ 2025.03	シェフィールド大学 ビルラ技術科学大学ピ ラニ校 ニューサウスウェル ズ大学	英国 インド オーストラリア	広島大学	e-STARTプログラム	②: 単位取得を伴う交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	A	30		30		
2025.02	~ 2025.03	インド経営大学 院バンガロール校	インド	広島大学	e-STARTプログラム	②: 単位取得を伴う交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	B	10		10		
R7	2025.09	~ 2025.09	シェフィールド大学 ビルラ技術科学大学ピ ラニ校 ニューサウスウェル ズ大学	英国 インド オーストラリア	広島大学	AGILEワークショップ	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	A	15			15
	2025.09	~ 2025.09	インド経営大学 院バンガロール校	インド	広島大学	AGILEワークショップ	①: 単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	B	5			5
	2025.10	~ 2026.03	シェフィールド大学	英国	広島大学	HUSAプログラム	③: 単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2025.10	~ 2026.03	ビルラ技術科学 大学ピラニ校	インド	広島大学	HUSAプログラム	③: 単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2025.10	~ 2026.03	インド経営大学 院バンガロール校	インド	広島大学	HUSAプログラム	③: 単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	B	1			1
	2025.10	~ 2026.03	ニューサウス ウェルズ大学	オーストラリア	広島大学	HUSAプログラム	③: 単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2026.01	~ 2026.01	シェフィールド大学	英国	広島大学	インターンシップ	④: 上記以外の交流期間30日未 満の交流	A	2			2
	2026.01	~ 2026.02	インド経営大学 院バンガロール校	インド	広島大学	インターンシップ	⑤: 上記以外の交流期間30日以 上3ヶ月未満の交流	B	1			1
	2026.01	~ 2026.01	ニューサウス ウェルズ大学	オーストラリア	広島大学	インターンシップ	④: 上記以外の交流期間30日未 満の交流	A	2			2
	2026.02	~ 2026.03	シェフィールド大学 ビルラ技術科学大学ピ ラニ校 ニューサウスウェル ズ大学	英国 インド オーストラリア	広島大学	e-STARTプログラム	②: 単位取得を伴う交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	A	30		30	
2026.02	~ 2026.03	インド経営大学 院バンガロール校	インド	広島大学	e-STARTプログラム	②: 単位取得を伴う交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	B	10		10		
R8	2026.10	~ 2027.03	シェフィールド大学	英国	広島大学	HUSAプログラム	③: 単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2026.10	~ 2027.03	ビルラ技術科学 大学ピラニ校	インド	広島大学	HUSAプログラム	③: 単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2026.10	~ 2027.03	インド経営大学 院バンガロール校	インド	広島大学	HUSAプログラム	③: 単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	B	1			1
	2026.10	~ 2027.03	ニューサウス ウェルズ大学	オーストラリア	広島大学	HUSAプログラム	③: 単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	A	2			2
	2027.01	~ 2027.01	シェフィールド大学	英国	広島大学	インターンシップ	④: 上記以外の交流期間30日未 満の交流	A	2			2
	2027.01	~ 2027.02	インド経営大学 院バンガロール校	インド	広島大学	インターンシップ	⑤: 上記以外の交流期間30日以 上3ヶ月未満の交流	B	1			1
	2027.01	~ 2027.01	ニューサウス ウェルズ大学	オーストラリア	広島大学	インターンシップ	④: 上記以外の交流期間30日未 満の交流	A	2			2
	2027.02	~ 2027.03	シェフィールド大学 ビルラ技術科学大学ピ ラニ校 ニューサウスウェル ズ大学	英国 インド オーストラリア	広島大学	e-STARTプログラム	②: 単位取得を伴う交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	A	30		30	
2027.02	~ 2027.03	インド経営大学 院バンガロール校	インド	広島大学	e-STARTプログラム	②: 単位取得を伴う交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	B	10		10		

(大学名: 広島大学)

(主な交流先: 英国・インド・オーストラリア)

⑧ 海外相手大学との単位互換について

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

単位互換を実施する 海外相手大学数	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4	16	16

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：広島大学】

相手大学名		学生 別	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	合計
シェフィールド大学	認定者数	A	0	2	2	2	2	8
	認定単位数	A	0	16	16	16	16	64
ビルラ技術科学大学ピラニ校	認定者数	A	0	2	2	2	2	8
	認定単位数	A	0	16	16	16	16	64
インド経営大学院バンガロール校	認定者数	B	0	1	1	1	1	4
	認定単位数	B	0	8	8	8	8	32
ニューサウスウェールズ大学	認定者数	A	0	2	2	2	2	8
	認定単位数	A	0	16	16	16	16	64
年度別認定者数合計			0	5	5	5	5	20
年度別認定単位数合計			0	40	40	40	40	160

2. 国内連携大学 【大学名： 】

相手大学名		学生 別	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	合計
	認定者数							0
	認定単位数							0
	認定者数							0
	認定単位数							0
	認定者数							0
	認定単位数							0
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0	0

(大学名： 広島大学) (主な交流先 英国・インド・オーストラリア)

⑨ 学生主催イベント・ワークショップの開催数、参加規模について

	イベント・ワークショップ名	開催年月	開催回数	参加人数	参加国
1	アイデアズ・マイニングワークショップ	2023年8月	1	30	日本、英国、インド、オーストラリア
2	アイデアズ・マイニングワークショップ	2024年8月	1	20	日本、英国、インド、オーストラリア
3	アイデアズ・マイニングワークショップ	2025年8月	1	30	日本、英国、インド、オーストラリア
4	アイデアズ・マイニングワークショップ	2026年8月	1	20	日本、英国、インド、オーストラリア
5					

(大学名： 広島大学) (主な交流先 英国・インド・オーストラリア)

⑩ インターンシップの実施計画について（2022年度は事業開始以後の人数）

（単位：人）

（i）本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数

各年度の派遣及び受入合計人数 （交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0	4	5	4	5	4	5	4	5	16	20
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	4	5	4	5	4	5	4	5	16	20

（ii）国内大学及びプログラムごとのインターンシップに参加する学生数

① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	学生別	A	学部生	実	実渡航
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		B	大学院生	オ	オンライン
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流				ハ	ハイブリッド
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流					
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流					
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流					

1. 【代表申請大学】

大学名		広島大学																	
プログラム名 (相手大学名)	交流方向	交流形態	学生別	2022年度			2023年度			2024年度			2025年度			2026年度			合計
				実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	
インターンシップ（シェフィールド大学）	派遣	④	A	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	4
インターンシップ（シェフィールド大学）	受入	④	A	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	8
インターンシップ（ピルラ技術科学大学ピラニ校）	派遣	④	A	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	4
インターンシップ（インド経営大学院バンガロール校）	派遣	④	B	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	4
インターンシップ（インド経営大学院バンガロール校）	受入	⑤	B	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	4
インターンシップ（ニューサウスウェールズ大学）	派遣	④	A	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	4
インターンシップ（ニューサウスウェールズ大学）	受入	④	A	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	8

2. 【国内連携大学等】

大学名																			
プログラム名 (相手大学名)	交流方向	交流形態	学生別	2022年度			2023年度			2024年度			2025年度			2026年度			合計
				実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	
	派遣																		0
	受入																		0
	派遣																		0
	受入																		0

（大学名： 広島大学 ）（主な交流先： 英国・インド・オーストラリア ）

(iii) 本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加する学生数（派遣・受入別 各内訳の集計）

【日本人学生の派遣】		2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	合計
年度別合計人数	学生別	0	4	4	4	4	16
【交流形態別 内訳】							
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流		0	4	4	4	4	16
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	4	4	4	4	16
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0

(大学名： 広島大学) (主な交流先： 英国・インド・オーストラリア)

【外国人学生の受入】		2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	合計
年度別合計人数	学生別	0	5	5	5	5	20
【交流形態別 内訳】							
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流		0	4	4	4	4	16
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	4	4	4	4	16
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	1	1	1	1	4
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	1	1	1	1	4
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0

(大学名： 広島大学) (主な交流先： 英国・インド・オーストラリア)

⑪ 国際プレゼンスの向上等について

(設定指標)

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	合計
(指標1) 本事業の参加学生製作による報告ビデオのJV-Campusへの掲載数	1	4	5	6	7	23
(指標2) リクルーティングビデオのJV-Campusへの掲載数	1	2	3	4	5	15
(指標3) 英国・インド・オーストラリアの学生に対するオンラインを通じた留学フェア等のイベントの参加者数	30	40	50	60	70	250
(指標4)						0
(指標5)						0

【計画内容】

指標1：参加学生製作による報告ビデオのJV-Campusへの掲載数

本事業に参加した学生により各プログラムの報告ビデオを作成し、JV-Campus（本学の個別機関Box上に設置予定の、本事業に関するコンテンツがパッケージ化されたもの）に掲載・公開する。

指標2：リクルーティングビデオのJV-Campusへの掲載数

英国・インド・オーストラリアを含む海外からの新たな留学生層の掘り起こしを図るため、本事業の様子や内容についての画像や動画を含む、本学や我が国への留学を促進させる紹介ビデオを新規で作成し、JV-Campus（本学の個別機関Box上に設置予定の、本事業に関するコンテンツがパッケージ化されたもの）に掲載・公開する。

指標3：学生に対するオンラインを通じた留学フェア等のイベントの参加者数

英国、インド、オーストラリアの学生を対象に開催される留学フェアに参加するとともに、これまでの交流実績やネットワークを活かして留学フェアを主催し、英国・インド・オーストラリアからの新たな留学生の開拓を図る。東京大学が主催する、文部科学省委託事業「日本留学海外拠点連携推進事業（重点地域南西アジア）」インドを中心とした南西アジア向けオンライン日本留学セミナー等への参加を予定している。

⑫ ⑪を除く、学内・学外への事業の波及効果について

(設定指標)

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	合計
(指標1) 英国、インド、オーストラリアの大学との交流協定数	1	1	2	2	3	9
(指標2) 本事業以外での本学と英国、インド、オーストラリアの高等教育機関との学生交流数（オンライン含む）	10	10	10	10	10	50
(指標3) 本事業以外での本学と英国、インド、オーストラリアの高等教育機関との研究者交流（オンライン含む）	3	3	3	3	3	15
(指標4)						0
(指標5)						0

【計画内容】

上記3つの指標については、毎年本学で実施している「国際交流等調査」等により集計する。

○指標1：英国、インド、オーストラリアの大学との交流協定数

海外連携大学のネットワークも活用しつつ、本事業の連携国（英国、インド、オーストラリア）における、本学のプレゼンスを高め、協定校の拡大、本学の国際的ネットワークの拡充を図る。

○指標2：本事業以外での本学と英国、インド、オーストラリアの高等教育機関との学生交流数（オンライン含む）

国別・目的別に、異なる留学期間・形態で学生一人ひとりのニーズに応じた学びができるよう設計、提供していくことにより、国際交流を発展させていく。

○指標3：本事業以外での本学と英国、インド、オーストラリアの高等教育機関との研究者交流（オンライン含む）

教材開発、オンライン講義など教育プログラムの交流を通じ、研究者交流を促進し、共同研究へと繋げていく。

(大学名： 広島大学) (主な交流先： 英国・インド・オーストラリア)

⑬ 加点事項に関する取組【2ページ以内】

【実績・準備状況】

○アントレプレナーシップの育成

(1) 大学教育

広島大学は、全学的な教養教育や大学院教養科目としてアントレプレナーシップやMOT教育、イノベーション演習を全学に提供している。また、文科省グローバルアントレプレナー育成事業（EDGE）「ひろしまアントレプレナーシッププログラム」（2014年採択～）、次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）（2017～提携大学）等により、大学等の研究成果を基にしたベンチャーの創業、新事業の創出を促進する人材の育成と、その人材が活躍できるイノベーション・エコシステムの形成に取り組んできた。

(2) 大学の世界展開力事業（インド）におけるアントレプレナーシップ教育の実施

広島大学は、大学の世界展開力事業（インド）において、インドの大学と連携した起業家教育に取り組んだ。具体的には、起業案作成演習、プロトタイプ演習を提供した。2022年に行ったプロトタイプ演習では、ビルラ技術科学大学ピラニ校と住友商事HAX Tokyoとの協力のもと、Global Pitch Challengeとして、日印の学生チームのピッチコンテストを開催した。

(3) 社会課題の課題提案型ワークショップ

広島大学は、韓国・タイ・日本の3カ国の文系・理系の様々な学部・大学院に所属する学生が参加する、2泊3日の短期サマースクールを実施しており、社会課題を発見しながら解決策の提案までに多国籍のチームで取り組む課題提案型ワークショップを実施している。

(4) 学生発スタートアップチャレンジの開催

広島大学の産官学連携プラットフォーム「ひろしま好きじゃけんコンソーシアム」が企画し、「広島大学・学生発スタートアップチャレンジ」として、ピッチコンテストを開催。参加学生チームは、社会課題を解決するためのビジネスプランの作成と発表に取り組んだ。

○世界的課題の解決への教育展開

(1) リーディングプログラム「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」

広島大学は、2014年度より博士課程教育リーディングプログラム「たおやかで平和な共生社会創生プログラム（たおやかプログラム）」を開始、インドや中四国の条件不利地域からのイノベーション創出をテーマに、世界的課題や地域課題の実践的な解決のため、米国やインド、ネパールなど多国間が参加するオンサイトプログラムを展開、産官学で広く活躍するリーダーの育成に取り組んでいる。

(2) SDGsインパクトランキング

広島大学は、広島大学FE・SDGsネットワーク拠点を中心に、世界共通の取り組みであるSDGsへの貢献を推進している。THEインパクトランキング（国連の持続可能な開発目標に対する大学の貢献度評価）では、2021年ランキングで国内1位、2022年ランキングで国内3位を獲得した。項目別ではSDG5（ジェンダー平等の実現）及びSDG10（人や国の不平等解消）で国内1位を獲得した。また、SDGsの取り組みに関する情報公開が評価され、THE DataPoints Social Impact Award部門のファイナリストに選出されている。

(3) TOWN&GOWN構想の推進

広島大学は、東広島市とのTOWN&GOWN構想を推進し、産官学民の連携・協働により、社会課題の発見から解決までを日常的に共有し、社会実装に繋げる環境を構築し、地球規模の課題に対する先端的な解決策を世界に先駆けて地域で実践する広島大学「カーボンニュートラルxスマートキャンパス5.0宣言」の実現と、国際競争力を生み出すイノベーションを持続的に創出するエコシステムの構築に取り組んでいる。

○グローバルインターンシップ（Gecko）

広島大学は、本学学生を途上国等に派遣する海外インターンシップを推進、本学学生の海外でのインターンシップ機会の提供によるグローバル人材の育成、大学が創造する研究テーマと国際社会が必要とする研修課題のマッチング方法の確立に取り組んでいる。

○英国・オーストラリアの連携大学について

海外連携大学である、シェフィールド大学（英国）は、2021/22年の「TURING SCHEME」の採択機関である。ニューサウスウェールズ大学（オーストラリア）は「NEW COLOMBO PLAN」の採択機関である。また、いずれも日本の大学へ渡航する学生が在籍しており、両大学とは、本事業の採択後にそれぞれの留学支援制度の活用を検討することで合意している。

○マイクロクレデンシャルや学習計画のデジタル化への取組

UNESCOの「東京規約」（2011）に基づき、本学では、今後、どのように「非伝統的教育」の資格・成績証明等を承認していくか喫緊の課題としてすでに検討を始めている。マイクロ・クレデンシャルについても、政府やNIC-Japan等が発信する各種報告等をはじめ、OECD等の国際会議からも情報を収集している。また、交換留学前に学生が記載するUMAP学修計画書については、すでにデジタル化しており、事務作業の効率化や学生の利便性の向上を図っている。

【計画内容】**○アントレプレナーシップの醸成のための実践的プログラム**

本事業は、アジャイル型教育として、e-START、AGILEワークショップにおいて、日本人学生と外国人留学生がチームを組み、課題の解決に向けた実践に取り組むプログラムである。具体的には、学生は、プログラムを通して、理論や知識を社会に応用するという視点やマインドセットについて学び、世界的課題をテーマとして、5大学を横断する学生チームでビジネス化や実践に向けた計画書の作成を通じた経験的学習を行う。解決に向けた提案では、本学の学術・社会連携室と連携し、本学を中心に、5大学の研究成果や本学や地域が保有する技術や知的財産を活用して、プログラムの実践性を高める。

○世界的課題の解決

本事業では、本学がキャンパスを挙げて取り組むカーボンニュートラル、SDGs、防災・減災の世界的課題を主要なテーマとする。本学は、2021年度にカーボンニュートラルxスマートキャンパスを宣言し、その達成に向けてスマートシティ共創コンソーシアムを設置した。SDGsについては、2018年度に設置した全学のSDGsを推進するためのネットワーク拠点において国内外の大学や多様な機関のトランスディシプリナリー研究を推進している。また、THEインパクトランキング2022で国内3位、SDGs項目別では5項目で世界100位以内にランクインした実績がある。防災・減災については、2018年に従来の防災学・減災学では対応できない豪雨災害などに対応するため、平成30年度西日本豪雨の災害調査をもとに、関係自治体と連携して防災・減災研究センターを設立した。これら3つの取り組みは、大学の教育研究だけではなく、広く中四国の大学や産官学連携の取り組みとして推進している。本事業では、これらの3つの取り組みを中心に、具体的な技術・社会課題の提供のほか、ビジネスモデル等の作成の過程で重要な、顧客や専門家のニーズや市場調査、仮説構築、ビジネスと技術の検証の各プロセスについて、各センターの連携機関の協力を得ながら教育プログラムを推進する。

○留学生向け国内インターンシップの実施

本事業は、HUSA（セメスター留学）学生に、それぞれのキャリア志向を考慮した日本国内でのインターンシップ機会を提供する。インターンシップ参加学生については、日本語研修を含めた事前/事後研修を行い、日本企業で就業に向けて必要な知識等を提供する。また、高度人材の定着を促し、日本の就職について具体的なイメージを持ってもらうために、本学のグローバルキャリアデザインセンターと合同で、日本の企業で活躍する高度外国人材の体験を共有する留学生向けのセミナーを開催する。

○国際ネットワークの構築

本事業の教育プログラムの中心テーマであるカーボンニュートラル、SDGs、防災・減災は、全学をあげて取り組むテーマである。このテーマを中心に、英国・インド・オーストラリアの3カ国と連携し、重点的に教材の開発に取り組む事で、国際共同研究の推進に繋げる計画である。

○架け橋となる人材の育成

本事業では、e-START（オンライン）については、本学の教育研究への取り組みを通して日本への理解を深めること、AGILEワークショップ（短期交流）については、本学の教育研究に加えて、地域や企業との交流によって日本への理解を深めることを目指す。HUSA（セメスター留学）の参加学生のうち、シェフィールド大学（英国）とインド経営大学院バンガロール校（インド）の学生は、日本語を学ぶ学生が中心となる。HUSA受入学生の選抜においては、日本でのキャリア形成に意欲的な学生を選抜し、本学で科目の履修するとともに、レベルに応じた日本語・日本文化プログラムで学ぶ。さらに、HUSA留学中に、インターンシップに参加することで、日本文化への理解を深める。そのほかの長期留学者については、留学中にレベル1（N5相当）の語学力の修得を推奨する。また、受入学生全員に、広島市の平和について学ぶ機会を提供し、日本と広島への理解を深める。

○アウトカム指標

本事業は、アジャイル・アントレプレナーシップを備えたリーダー育成のための国際協働プログラムの構築を通して、本学の国際化の加速、高度人材の日本への定着促進、マイクロクレデンシャルを見据えた社会の多様なステークホルダーに対する質保証のシステムの構築に取り組む。そして、多様な学びや学生のモビリティに対応できる履修管理とそれを実現する国際的な大学間の連携の構築に貢献する。

○マイクロクレデンシャルや学習計画のデジタル化への取組

本事業では、補助期間終了までに、あくまでもパイロット的な試みとして、本学の既存の「特定プログラム」制度を活用し、一定の科目履修並びにインターンシップへの参加に基づいて、成績証明書並びに修了認定書を発行する（仮称）「アジャイル型マイクロ・アントレプレナーシップ」コースを立ち上げようと計画している。また、可能であれば、協定大学の特にオンライン科目を含め、共通の学習成果の指標を評価する国際的ジョイント・スタディーコースとして、発展を目指す。さらに、上記のマイクロ・クレデンシャル型教育プログラムについては、留学前に記載するUMAP学修計画書のデジタル化に加え、成績並びに修了認定書等も、試行的に個々の証明書にID番号を付け、プログラム長のサインの下、強固なセキュリティーの伴った電子証明書として発行し、本学の電子証明書の発行の先駆的試みとして実践して行く計画である。なお、本証明書の電子化については、フローニンゲン宣言ネットワークの加盟機関である国際教育研究コンソーシアム(RECSIE)等との協力を検討しつつ、英国の資格承認情報センター(UK-ENIC)やオーストラリア政府内の情報センター並びに両国の協定大学の担当者からも助言を仰ぎながら、適宜、その質を向上させていく計画である。

外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 【①～③合わせて3ページ以内】

① 日本人学生の派遣のための環境整備

【実績・準備状況】

○**情報提供・相談体制**: 本学は、学生の留学意欲の向上や留学準備に活用するため、学生向けの留学情報ポータルを設置し、情報提供に努めている。また、修学、学生生活、進路・就職の学生サポート情報を、学生情報システム「もみじ」で共有し、学生の留学中でも最新の情報を得られるようにしている。また、留学プログラム担当教員、留学担当の教職員、就職支援担当教職員が、オンラインやメールを通じた個別相談に応じている。

○**履修指導**: 派遣学生には、派遣前ガイダンスにて履修に関する詳細な説明を行い、現地での履修計画及び、帰国後の単位認定の計画を立てさせるとともに、指導教員や所属学部・研究科の職員による学生の個別相談を通じて、留学前から十分な情報提供を行っている。また、留学経験のある日本人学生を留学アドバイザーとして国際部にて雇用し、対面及びオンラインにて、学生の視点から多様な質問に対応している。

○**学生の安全面への配慮**: 留学中の安全管理に関する意識及び能力の向上ため、本学の海外派遣学生全員に、危機管理セミナー(年2回)の受講を義務付け、本学独自の安全管理マニュアルを配付している。また、派遣学生の保険加入を徹底している。保険については、東京海上日動火災保険株式会社 と包括協定を締結し、一般価格よりも安価な保険を学生に提供している。海外渡航時には、外務省の「たびレジ」への登録を義務付けている。

○**国内外でのインターンシップの実施**: 本学は、2007年からグローバル・インターンシッププログラム(G.ecbo)を開始し、海外の外国企業や国際機関等に1～3ヶ月派遣するプログラムを提供している。また、近年、希望者が増加している留学生の国内インターンシップについても、グローバルキャリアデザインセンターが広島県と協力して、インターンシップ受入企業の開拓に取り組んでいる。大学の世界展開力強化事業(AIMS)でも、国内外の機関と連携したインターンシップを行っている。

○**産業界、自治体との連携**: 本学は、本事業が取り組む世界的課題解決について、「カーボンニュートラル×スマートキャンパス 5.0 宣言」(2021～)、広島大学 FE・SDGs ネットワーク拠点(2018～)、広島大学防災・減災研究センター(2018～)において、産業界と連携した取り組みを行っている。

【計画内容】

○**情報提供・相談体制**: 本学ウェブサイト及び学生情報システム「もみじ」を活用し、科目、履修体系・順序、単位の相互認定の手続、アカデミックカレンダー等について、学生の履修に支障がないよう十分な情報提供を行う。また、留学プログラム担当教員、留学担当の教職員、就職支援担当教職員が、オンラインやメールを通じた個別相談に応じている。

○**履修に関するサポート**: 本事業専用のインフォメーション・パッケージを作成し、学生募集時及び派遣前ガイダンスで、履修や学修面について丁寧な情報提供を行う。長期派遣学生には、留学中にも、オンライン等での指導教員による遠隔指導に加えて、本事業の担当教職員が定期的に連絡を取り、精神面や生活面の支援を行う。

○**アカデミックカレンダーの相違への対応**: 本学と海外参加大学の異なる学事暦の間で、スムーズな学生交流を行うため、各大学間でプログラム実施の日程を調整する。

○**学生の安全面への配慮**: 継続して「危機管理セミナー」を継続して開催し、学生に受講を義務付ける。外務省「海外安全ホームページ」や現地大使館からの安全管理に関する情報を収集するとともに、派遣国毎の注意事項をまとめる。

○**産業界、自治体との連携**: 本事業では、カーボンニュートラル、SDGs、防災・減災の分野を中心に、世界的課題解決に取り組む本学の連携企業や自治体の訪問、講義提供など、実践的な学びの場を提供する。学生の派遣先についても、各国が抱える世界的課題解決に取り組む企業や行政機関等を訪問する機会を設ける。

② 外国人学生の受入のための環境整備

【実績・準備状況】

○適切な在籍管理の体制: 本学では留学生を含め、多様な形態の学生身分を有する全ての学生に対し、学生情報システム「もみじ」により、学籍・履修・在留資格等の管理を行っている。2020 年からは、研修等で海外大学から受け入れた短期の留学生の学生身分として、「短期国際交流学生」を新たに設置した。

○留学生支援体制: 留学生受入/支援の情報共有と協議を行うため、全学の「グローバル化機構会議」の下、「グローバル化推進部会」を設置して、留学生の生活支援に関する検討を行っている。履修指導・教育支援については、留学生も含め、学生全員にチューター教員、または、指導教員を配置している。

○生活支援: 本学は、全ての留学生に、来日後の学内外での諸手続きを支援する学生サポーターを配置している(留学生サポーター制度)。また、修学、生活、就職に加えて、メンタルカウンセリングのワンストップサービスを提供している。2019 年度には「ウェルカムデスク」を設置し、日常の相談のほか、弁護士相談の機会も留学生に提供している。学生情報サイト等も日英で情報を提供し、対象と内容に応じて、中国語での情報も提供している。また、学内の学生宿舎に留学生枠を設け、優先的に入居できるようにしている。

○学生の履修に関する情報提供体制: 本学のウェブサイトは、シラバスや学事暦、履修方法等を日英で掲載している。また、学生向け履修ガイダンス等も日英で提供している。短期留学プログラムでは、シラバスのほか、履修上の注意点、単位互換、学内の各種案内を「インフォメーション・パッケージ」として、作成・配布している。

○産業界、地元自治体との連携: 本学のグローバルキャリアデザインセンターは、留学生に対して、企業等へのインターンシップ機会や、産官学の外部講師による講義や講演、会社視察(マツダ等)を提供している。また、留学生向けの国内就職説明会や個別相談を開催し、日本国内への就職を支援している。さらに、広島大学の地域の次世代型産官学連携プラットフォーム「ひろしま好きじゃけんコンソーシアム」を 2021 年に設立し、産業界との更なる連携を図る仕組みを整備している。また、本学は、2020 年度に本学と東広島市の共同事業として、まちと大学が一体となったまちづくりのための Town & Gown Office 事業を開始し、外国人との共生モデルタウン、イノベーション人材育成に取り組んでいる。

○コロナ禍の留学生支援: 本学は、コロナ禍で収入や仕送りが激減し、経済的に困窮した留学生を含む本学学生に対して、経済援助を行うための応急学生支援金を設置し、月額3万円の緊急支援を継続的に行っている。2022 年 2 月までに、1,700 名を超える学生に支援を行った。

【計画内容】

○適切な在籍管理: 本事業で来日した留学生についても、本学で適切な学生身分を付与し、学生情報システムによって、学生の学籍・履修・在留資格の管理を行う。

○受入留学生のサポート: 本事業では、短期間でも高い学習効果をあげるために、修得が難しい日本語科目を中心に、本学学生を TA として配置する。また、受入留学生に学生サポーターを配置する。これらの TA と学生サポーターについては、本事業のプログラムに参加する(または参加した)本学学生を配置することで、学生同士の交流機会を増やし、教育交流の相乗効果を引き出す。また、受入学生に対しても、本学学生と同様に、身体的・精神的健康についてのサポートやキャリア相談を提供する。受入学生の希望者へは、留学生と日本人学生の混住宿舎である国際交流拠点や学生寮を提供する。

○学生の履修に関する情報提供の体制: 本学がこれまでの外国の大学との留学交流の実施により蓄積したノウハウを活用し、本事業用のインフォメーション・パッケージを作成・配布する。内容は年度毎に情報を更新する。

○アカデミックカレンダーの相違への対応: 本学と他の参加大学の異なる学事暦の間で、学生負担の軽減、スムーズな学生交流を行うため、「アジャイル型協働学習検討部会」が、各大学間でプログラム実施の日程を調整する。

○産業界、地元自治体との連携: 本事業では、広島大学の産官学連携プラットフォーム「ひろしま好きじゃけんコンソーシアム」を活用し、障害者の雇用に積極的な企業、特別支援学校、障害者支援を担当する行政機関等と連携として、留学生に視察等の学習機会を提供する。

○日本人学生との交流: 本学で定期的実施している国際交流イベント等への参加を通じて交流を促進する。

③ 関係大学間の連絡体制の整備

【実績・準備状況】

○**連絡・情報共有体制の整備**: 本事業の参加大学(インド経営大学院バンガロール校を除く)とは、大学間協定を有している。本事業の実施の合意のもと、連絡・情報共有を行う体制を構築している。

○**卒業・修了後のサポート体制**: 卒業生・修了生が加盟する本学校友会は、世界各地に16の支部をもち、ネットワークを拡大している。本学は、本学の修了生も対象に、修了後も若手研究者同士あるいは民間企業等の異なるセクターとの交わりの場となる若手研究者ポートフォリオを提供し、継続的サポートを行っている。

○**リスク管理への配慮**: 留学生を含め、本学構成員全員に対し安否確認の訓練を行った。

○**派遣受入時の安全管理体制**: 「危機管理マニュアル(教職員版)」及び「海外渡航リスク管理マニュアル(学生編)」を作成し、危機事象に備えている。2020年2月の新型コロナウイルス感染症の拡大の初期には、全ての学生派遣を中止し、派遣中学生への帰国指示と体調管理、派遣大学との情報共有により学生の安全確保に努めている。

【計画内容】

○**連絡・情報共有体制の整備**: 本事業の参加大学は、合同のプログラム運営委員会を設置し、本事業の企画と事業成果管理、事業評価の共有を行う。各大学は、担当コーディネーターを配置し、コーディネーターを中心に、プログラムの実施について、詳細な調整を行う。

○**卒業・修了後のサポート体制**: 本事業の同窓ネットワークを構築し、修了生のメーリングリストを作成して、継続して情報提供を行う。また、本事業のSNSを開設し、参加学生だけではなく、OB・OGや市民にも積極的な情報/成果発信を行う。継続して参加学生の連絡先を管理し、修了後の活動や活躍を把握できる体制を構築する。

○**安全管理体制、リスク管理への配慮**: 本事業では、本学の学生交流の安全管理に関わるマニュアルを相手大学と共有し、本学の危機管理について理解を求める。また、相手大学との緊急連絡体制を構築する。加えて、相手大学からだけではなく、派遣国の大使館等からも感染症、治安等のリスクに関する情報収集を行い、多層の体制でリスク管理を行うことによって、学生の安全を確保する。

事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 【①～②合わせて2ページ以内】

① 事業の実施に伴う大学の国際化

【実績・準備状況】

○大学の国際化に向けた戦略における本事業の位置付け: 本学はスーパーグローバル大学創成支援事業(タイプ A)の採択大学として、大学の国際化を積極的に進め、世界各地の大学と交流を行っている。2022年5月現在、世界55か国・地域の347大学・機関と大学間交流協定を締結している。英国・インド・オーストラリアでは、これまで28大学等と大学間協定を締結している。本事業は、インド太平洋地域において、アジャイル型教育プログラムによる学生交流を推進するとともに、ネットワークの拡大と強化に貢献する事業として位置づけている。

○国際交流プログラムの体系化: 本学は、質の保証を伴った交流プログラムとして、COIL 型の協働学習プログラム、1～2週間程度の「短期留学」や「サマースクール」、1又は2 Semesterの「中期留学」等、多くのプログラムを提供している。本事業では「アジャイル・アントレプレナーシップ」の醸成に関する COIL 型の協働学習や短期受入後の受け皿となる中期受入を拡充する。そして、オンラインから短期、中期までの、体系的で一貫した交流プログラムとして、留学に関心のある学生の裾野を広げ、意欲ある学生を更に高度な学びへと繋げることを狙いとしている。更には本事業を通じて体系的な交流体制を構築することにより、中長期的には本分野における大学院の受験者数の増加、海外からの優秀な留学生の獲得、本学が目指すグローバル人材の育成を目指す。

○組織的・継続的な教育連携を実施する体制の構築: 本学は、過去に採択された「大学の世界展開力強化事業」の実施を通じて、全学での組織的な取り組みや補助事業期間終了後の継続的な実施のための移行のノウハウを培ってきた。本事業は、教育連携と質の保証を伴った大学間交流に必要な項目を定めた学生交流附属書を本事業の参加大学と締結することで、組織的で実質的な学生交流を推進するものである。

○事務体制の国際化と事務職員の能力向上: 本学は、事務体制の国際化に積極的に取り組んでいる。本学国際室では、英語で対外交渉が可能な職員を複数配置し、協定大学等との連絡や外国の大学との連絡調整を担当し、海外との組織的な交流を推進している。また、海外での業務経験が豊富な専門職員を雇用し、国際交流プログラムの運営、派遣/受入学生の支援業務にあたっている。また、複数言語に対応可能な留学生を学生スタッフとして雇用し、翻訳や窓口業務を行っている。各学部・研究科にも、英語での留学生対応を行う担当職員を配置している。また、職員の海外長期派遣制度や、国際化に対応するための研修プログラムを提供し、事務職員の能力向上にも務めている。本学では、①「職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任職員等の割合」及び②「TOEIC800点以上の英語力を有する職員」の数値目標を定めている。①については2013年度の24人(全専任職員に占める割合 3.9%)から2021年度は47人(8.0%)に増加、②についても、2013年度の21人(3.4%)から2021年度は102人(17.3%)に増加した。

○事業をサポートする全学的体制の充実: 本学の留学プログラムではコーディネーターを配置し、事務局機能を強化したうえで、本学国際部とプログラムを実施する各学部・研究科が、業務に偏りが無いように役割分担を行っている。そのうえで、事業実施部会にて、連携を取って課題の共有や改善を行っている。本事業についても、この全学体制を踏襲し、学内の業務・役割分担を行ったうえで、実施することを計画している。

○各種手続き等の電子化: 本学では、外国人の入学志願者の利便性向上や事務作業の効率化のため、英語版インターネット出願システムを平成28年度から開始した。さらに、ポストコロナも見据え、優秀な外国人留学生を確保するため、オンライン上で受入希望～出願承認までのプロセスを一元管理する全学的留学生受入体制(International Admissions Office System)を構築し、令和4年6月に新システムが稼働予定である。単なる入学手続きの電子化のみならず、本学教員と留学生のマッチング段階を含むシームレスな外国人留学生受け入れの仕組みを整備している。また、2021年から本学が発行する卒業証明書等について、オンライン申請とコンビニエンスストアで受け取りができるサービスを開始した。

【計画内容】

○事業組織体制: 本事業は、参加大学の担当者が構成するプログラム運営委員会が、定期的に委員会を開催し、本事業の企画運営を行う。また、学内にプログラムの運営にあたる実施部会を設置し、本学の各学部・研究科から選出された教職員のほか、関係学内センターの担当教職員を委員として、定期的な部会を開き、全学の教職員の情報共有と意見集約が可能な体制とする。本学国際室には、本事業の窓口となる担当職員を配置し、プログラム運営の支援に当たる。

○他大学の参考となる取組み: 本事業が取り組む、短期、中期、長期を組み合わせた体系的教育として、多国間との協働のなかでアジャイル型教育により学習するアジャイル・アントレプレナーシッププログラムは、学生の①システム思考、②アントレプレナーシップ、③異文化アジリティ、④批判的思考、⑤リスクマネジメント、⑥レジリエンスのコンピテンシーを大きく伸ばすプログラムとして、他分野・他地域への応用可能性を有している。

○**組織的・継続的な教育連携を実施する体制の構築**: 実施体制として、事業責任者、各プログラム担当教員、大学の国際関係部署と、相手大学とのカウンターパートを多層化し、組織的で継続的な実施体制を構築する。また、有識者からなる外部評価委員会を設け、外部評価を踏まえて、本事業の改善を行う。補助期間終了後も自己資金により継続的かつ安定的に実施し、全学を挙げて組織的に教育の国際化を推進する。

○**事務体制の国際化と事務職員の能力向上**: ①「職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任職員等の割合」及び②「TOEIC800点以上の英語力を有する職員」の数値目標について、①については2020年度の97人から2023年度には107人(20.0%)に増加させ、②についても2020年度の47人から2023年度には54人(10.1%)に増加させる目標を設定している。長期に外国に派遣した職員等を国際関係部署に配置し、即戦力として本事業の実施体制の強化を図るとともに、事務職員全体の能力向上を図るため、②の目標を設定し各種研修を充実させる。具体的には、海外研修や学生の海外短期派遣取組みへの引率職員を継続的に増加させていくほか、外国語教育研究センターが実施する英語研修の充実並びに TOEIC(IP)受験機会の拡充により、事務職員の英語力の一層の向上を図る。

○**事業をサポートする全学的体制の充実**: 本事業の主担当としてコーディネーター1人を配置し、学部・研究科・関係部局の担当教職員、国際部の担当職員が協働して全学的体制で本事業の推進にあたる。本部国際部は、相手大学との事業運営の窓口となるほか、本事業の事業実施に係る手続き等を担当する。各学部・研究科は、本事業における留学プログラムにおける学生募集や授業提供、参加学生への支援等を行う。また、e-STARTプログラムやHUSAプログラムについて実施会議を開催し、安定的にプログラムの実施運営や改善を図る体制を整える。

○**成績証明書類等の電子化**: 本学では2020年度から「オンラインで完結する留学生受入戦略検討WG」を設置し、優秀な留学生の獲得に向けた手段や方法の検討を進めてきた。高等教育機関における電子証明書に関する状況について、学内での情報提供及び検討を開始しており、国内でも実証実験が進行している成績証明書類等の電子化の取組みについては、これらの状況をふまえながら導入に向けた検討を行う。

② 国内外への情報提供の方法・体制、成果の普及

【実績・準備状況】

○**成果の普及**: これまでに採択された大学の世界展開力強化事業では、専用のウェブサイトを立て、教育内容の紹介、プログラム参加学生の声を国内外に広く情報発信してきた。また、他の留学プログラムに参加した学生と共に合同留学体験報告会を年2回開催し、留学の取組みや成果を広く普及させ、留学に関心を持つ学生の増加につなげている。プログラム終了時の成果発表会には、関係企業等から審査員として招く取組みを実施し、教育プログラムの成果の産業界への共有を図っている。

○**情報提供(外国語による提供含む)**: 本学は、ウェブサイト、複数の SNS での情報発信に努めている。これまで取り組んできた国際交流プログラムについても、専用のウェブサイトを設置する等、事業内容と事業成果の発信に努めている。また、個別プログラムや団体の SNS については、一定の条件を満たしたものを公式の SNS アカウントとして、大学ウェブサイト上で公表している。公式サイトは全学体制として広報グループが一元的に管理しており、同グループと連携を密に取りながら、国内外への情報発信を速やかに実施できる体制が整っている。

○**公表が望まれる項目の情報発信**: 本学ウェブサイトでは、国立大学法人法や学校教育法施行規則の定めによる公表事項だけでなく、大学の教育、研究、そして社会貢献に関する情報を日本語の他、英語や中国語等でも公表しており、国内外に積極的な情報提供を行っている。また、「国際的な大学評価活動の展開状況や我が国の大学に関する情報の海外発信の観点から公表が望まれる項目の例」については、項目例の多くを既に公開しており、今後も国内外への情報発信を積極的に行っていく。

【計画内容】

○**成果の普及**: 本事業においても、専用のウェブサイト(日本語・英語)を立て、教育プログラム内容や仕組み、参加学生の学修や体験を掲載し、学内外にその取組みの経験や成果を広く共有する。また、他の留学プログラムとともに報告会を実施し、その成果の普及を図る。加えて、学生による本事業に関する報告ビデオ及び本学・我が国への留学を促す動画等を、5大学の連携プログラムとしてパッケージ化したものを JV-Campus 等オンラインを通じて広く公開し、国内外の起業家的思考の醸成を希望する個人及び教育機関等への活用を促す。

○**情報提供(外国語による提供含む)**: 本事業の取組みは、本事業のウェブサイト、公式 SNS アカウントのほか、本学のウェブサイト、SNS でも積極的に情報提供を行っていく。

○**シンポジウム等の開催**: 本事業の成果を含め、留学プログラム、人材育成等に関するシンポジウムを開催し、本事業への理解と事業成果について共有を図るとともに、広く議論を行うことで、学内関係者のみならず他大学や産業界等への普及を積極的に図る。

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	シェフィールド大学(英国)
① 交流実績 (交流の背景)	
<p>シェフィールド大学との交流実績等は、以下のとおりである。</p> <p>【相手大学の概要】 シェフィールド大学は中部地方に位置するサウス・ヨークシャー州シェフィールド市を拠点とする国立大学である。1928年設立のシェフィールド医学校、1879年設立のファース・カレッジ、1884年設立のシェフィールドテクニカルスクールが1897年に統合され、ユニバーシティ・カレッジ・オブ・シェフィールドとなり、1905年に王室認可を得て、現在のシェフィールド大学となった。工業の街として発展したシェフィールドの土地柄もあり、特に工業分野に強い研究力を有する。英国の大規模研究型大学24校で構成されるラッセル・グループ(Russell Group)の一員である。GSランキング(2022)は95位、THEランキング(2022)では110位である。</p> <p>【これまでの主な交流実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2003年2月に大学間の学生交流協定を締結した。 ・2013年10月に歯学部とシェフィールド大学臨床歯学部と部局間交流協定締結した。 <p>【過去5年間の学生交流の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交換留学プログラムや研究活動支援プログラムで、2017年度2名、2019年度2名、2020年度1名を派遣した。 ・交換留学プログラムで2017年度1名、2020年度1名、2021年度1名を受け入れた。 <p>※2020年度及び2021年度はオンラインでの実施</p>	
② 交流に向けた準備状況	
<p>○ 交流プログラムの実施に向けた相手大学との準備(大学ごとの役割・実施体制の明確化等)が十分なされているか。</p> <p>シェフィールド大学(英国)とは、上記のとおり約19年の交流実績を有している。本事業について、海外連携大学となることについて書面にて合意が得られている。また、同大学国際部及び東アジア学部の留学担当者と協議の上、本事業の実施に向けて以下の点を確認している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COIL型協働教育プログラム(e-START)に10名の学生が参加すること。 ・広島大学で隔年開催する「AGILE ワークショップ」に5名の学生を派遣すること。また、インド国内で開催するワークショップ「AGILE ワークショップ」にもできる限り学生を派遣できるよう協力すること。 ・短期交換留学プログラム(HUSA)で相互に学生2名が1セメスター/タームの交換留学すること。 ・シェフィールド大学の学生2名が本学へのセメスター/ターム交換留学中に、広島大学の産官学プラットフォーム「好きじゃけんコンソーシアム」等の協力により、広島県の企業、自治体等と連携した約1週間のインターンシッププログラムに参加すること。 ・本学からのセメスター/ターム交換留学への派遣学生に現地でのインターンシップ先の情報提供 ・本事業採択後、「TURING SCHEME」による留学支援制度の活用を検討すること。 <p>交流実施までのスケジュールは以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年12月 事業開始 ・2023年2-3月 e-STARTプログラムの実施 ・2023年8月 AGILE ワークショップの実施 ・2023年9-10月 HUSAプログラムの実施/ インターンシッププログラムの実施 	

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	ビルラ技術科学大学ピラニ校(インド)
② 交流実績 (交流の背景)	
ビルラ技術科学大学ピラニ校との交流実績等は、以下のとおりである。	
<p>【相手大学の概要】 1901年に小さな学校としてスタートし高等学校、単科大学を経て、1964年に総合大学となった。工学の高等教育へのニーズの高まりを背景に、学生数・規模を拡大し、1万人を超える学生数、約600人の教員を有している。ピラニの他、ハイデラバード、ゴアの3つのキャンパスに加えて、ドバイにキャンパスを有している。15の学科をもつ。2022年のQSランキングでは1000位、QSのインド国内ランキングでは18位である。</p> <p>【これまでの主な交流実績】 ・2017年1月に、(現)先進理工科学研究科が学生交流附属書を締結した。 ・2017年12月に大学間国際交流協定及び学生交流附属書を締結した。 ・2019年3月には、博士課程後期学生と指導教員の交流に係る附属書を締結した。</p> <p>【学生交流の実績】 ・2017年度採択の大学の世界展開力強化事業(インド)ILDLPプログラム等にて、2017年度から2021年度までオンライン交流も含め64名を派遣した。同大学からは、研究交流や博士課程共同指導、キャリアデザイン等のプログラムで64名を受け入れた。</p> <p>【主な人物交流等】 ・2017年12月:本学理事・副学長(当時)らが、ビルラ技術科学大学総長を表敬訪問し、大学間交流協定及び学生交流協定の調印式を行った。 ・2018年1月:ビルラ技術科学大学総長一行が広島大学を訪問し、大学の世界展開力強化事業(インド)ILDLPプログラムキックオフ会議および実務者会議に出席した。 ・2019年3月:ビルラ技術科学大学総長一行が広島大学を訪問し、博士課程後期共同指導の覚書の調印式を行った。 ・2021年3月から2年間、同大学の教員2名を特任助教としてクロスアポイントメント制度で雇用している。</p>	
② 交流に向けた準備状況	
<p>ビルラ技術科学大学ピラニ校(インド)とは、上記のとおり約5年の交流実績を有している。本事業について、海外連携大学となることについて書面にて合意が得られている。また、本事業の実施に向けて以下の点を確認している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COIL型協働教育プログラム(e-START)に10名の学生が参加すること。 ・広島大学とビルラ技術科学大学は交代で「AGILEワークショップ」をそれぞれのキャンパスで開催する。ビルラ技術科学大学は広島大学で開催するこれらのワークショップに5名の学生を派遣すること。 ・短期交換留学プログラム(HUSA)で相互に学生2名が1 Semester/ターム交換留学すること。 <p>交流実施までのスケジュールは以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年12月 事業開始 ・2023年2-3月 e-STARTプログラムの実施 ・2023年8月 AGILEワークショップの実施 ・2023年9-10月 HUSAプログラムの実施 	

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	インド経営大学院バンガロール校(インド)
③ 交流実績 (交流の背景)	
<p>インド経営大学院バンガロール校との交流実績等は、以下のとおりである。</p> <p>【相手大学の概要】 インド経営大学院はインドの国立の高等教育機関のひとつであり、13 箇所に設立されている。その一つであるバンガロール校は、1973 年の設立以来、優れた学術プログラム、経営者教育、経営および関連分野の研究、起業家の支援、公共政策への貢献によって、その地位を確立してきた。IIMB で学位(または同等の資格)を取得した12,000 人以上の卒業生及び経営者教育プログラムを受講した何千人もの修了生は、様々な分野や世界で大きな貢献をしている。大学内には、インドと日本の産学連携を加速させるために 2017 年にみずほインド日本研究センターが設立された。</p> <p>【これまでの主な交流活動】 本学副学長(グローバル化担当)(当時)が、2020 年 2 月にみずほインド日本研究センター(IJSC)を訪問し、同センター最高執行責任者と会談した。広島大学での理工系分野で最先端の研究と起業家によるアイデアの発展等交流の具体を話し合ったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により協議が止まっていた。この度、大学の世界展開力強化プログラムの構想を模索する中で、アントレプレナー教育で高い実績を誇る同大学に相談をしたところ、この度の共同申請に至った。同大学院からは院生の派遣となるが、インターンシップや学生主体のシンポジウム開催等魅力的な要素があり、プログラム形態、単位互換システム、カリキュラムや科目等の擦り合わせについても合意している。</p>	
② 交流に向けた準備状況	
<p>インド経営大学院バンガロール校(インド)とは、本事業について、海外連携大学となることについて書面にて合意が得られている。また、本事業の実施に向けて以下の点を確認している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COIL型協働教育プログラム(e-START)に 10 名の学生が参加すること。 ・広島大学で隔年開催する「AGILE ワークショップ」に 5 名の学生を派遣すること。ビルラ技術科学大学ピラニ校がインドで開催するワークショップ「AGILE ワークショップ」にできる限り学生を派遣すること。 ・短期交換留学プログラム(HUSA)で相互に学生 1 名が 1 セメスター/ターム交換留学すること。 <p>インド経営大学院バンガロール校の学生1名が本学へのセメスター/ターム交換留学中に、広島大学の産官学プラットフォーム「好きじゃけんコンソーシアム」等の協力により、広島県の企業、自治体等と連携した約2か月間のインターンプログラムに参加すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学からのセメスター/ターム交換留学への派遣学生に現地でのインターンシップ先の情報提供 <p>交流実施までのスケジュールは以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2022 年 12 月 事業開始 ・ 2023 年 2-3 月 e-START プログラムの実施 ・ 2023 年 8 月 AGILE ワークショップの実施 ・ 2023 年 9-10 月 HUSA プログラムの実施/ インターンシッププログラムの実施 	

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)
④ 交流実績 (交流の背景)	
<p>ニューサウスウェールズ大学との交流実績等は、以下のとおりである。</p> <p>【相手大学の概要】 その前身は、1878年創立のシドニーテクニカルカレッジ。1949年に州・連邦両政府によりニューサウスウェールズ工科大学として設立されたオーストラリアの名門大学であり、トップ大学集団である Group of 8 の一つである。設立当初は、土木工学、機械工学、電気工学を中心に人文科学や商学等の教育も並行して行われていた。1958年に校名を現在のニューサウスウェールズ大学へと変更し、1960年には人文学部と医学部、1971年には法学部が新設され、大学の性格は工科大学から総合大学へと変化していった。経営学、会計や金融、MBA では世界的に名声も高く、オーストラリア企業の CEO を多く排出している。QS 世界ランキング(2022)は 43 位である。</p> <p>【これまでの主な交流実績】 ・2015年6月に大学間国際交流協定及び学生交流附属書を締結した。</p> <p>【学生交流の実績】 ・交換留学プログラムで2018年1名を派遣した。 ・交換留学プログラムで2019年度2名、2021年度1名を受け入れた。※2021年度はオンラインで実施</p> <p>【主な人物交流等】 ・2015年6月:ニューサウスウェールズ大学副学長(国際担当)らが本学を訪問、本学学長と会談を行い、大学間国際交流協定を締結した。 ・2018年6月:本学学長らがニューサウスウェールズ大学シドニーキャンパスを訪問、同大学国際戦略部長らと会談し、大学間国際交流協定を更新した。</p>	
② 交流に向けた準備状況	
<p>ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)とは、上記のとおり約7年の交流実績を有している。本事業について、海外連携大学となることについて書面にて合意が得られている。また、本事業の実施に向けて以下の点を確認している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COIL型協働教育プログラム(e-START)に10名の学生が参加すること。 ・広島大学で隔年開催する「AGILE ワークショップ」に5名の学生を派遣すること。また、インド国内で開催するワークショップ「AGILE ワークショップ」にもできる限り学生を派遣できるよう協力すること。 ・短期交換留学プログラム(HUSA)で相互に学生2名が1 Semester/ターム交換留学すること。 ・ニューサウスウェールズ大学の学生2名が本学への Semester/ターム交換留学中に、広島大学の産官学プラットフォーム「好きじゃけんコンソーシアム」等の協力により、広島県の企業、自治体等と連携した約1週間のインターンプログラムに参加すること。 ・本学からの Semester/ターム交換留学への派遣学生に現地でのインターンシップ先の情報提供 ・本事業採択後、「NEW COLOMBO PLAN」による留学支援制度の活用を検討すること。 <p>交流実施までのスケジュールは以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年12月 事業開始 ・2023年2-3月 e-START プログラムの実施 ・2023年8月 AGILE ワークショップの実施 ・2023年9-10月 HUSA プログラムの実施/ インターンシッププログラムの実施 	

事業計画の実現性、事業の発展性 【①は1ページ以内、②、③、④は合わせて3ページ以内】

① 年度別実施計画

【2022年度（申請時の準備状況も記載）】：2023年度からの学生交流の実施に向けた準備の年度

- 事業実施体制の確立(担当コーディネーターの雇用、実施部会の立ち上げ等)及び事業実施部会の開催
- 相手大学との本事業に係る学生交流附属書の締結
- 海外の相手大学とのキックオフ会議及び合同プログラム委員会をオンラインにて開催
- COIL型協働学習の実施
- 事業の学内外への広報及び学内での留学説明会の実施
- 外部評価委員会の実施、外部アドバイザーからの助言
- 2023年度からの学生受入れに関する学生選抜及び受入環境整備、2023年度学生派遣の準備

【2023年度】：全ての派遣受入のプログラムを実施する年度

- 相手大学訪問、現地視察と教育プログラムに関する打ち合わせ(受入れ環境と安全管理に関する確認)
- 事業実施部会及び相手大学との合同プログラム委員会の開催(相手大学の教員を招聘)
- 相手大学の教員を招聘し、プログラム実施に関する事項及び共同研究の打ち合わせ
- 2023年度派遣・受入れプログラムの実施(関係機関・企業視察等含む)
- 事業の学内外への広報及び留学報告会の開催
- 外部評価委員会の実施、外部アドバイザーからの助言
- 参加学生の評価とフォローアップ

【2024年度】：プログラムの立ち上げと実施を通じての課題抽出及び改善を行う年度

- 相手大学訪問、現地視察と教育プログラムに関する打ち合わせ(特に、交流実施初年度を終えての改善点)
- 事業実施部会の開催及び相手大学との合同プログラム委員会の開催
- 相手大学の教員を招聘し、プログラム実施に関する事項及び共同研究の打ち合わせ
- 2024年度派遣・受入れプログラムの実施(企業視察等含む)
- 事業の学内外への広報及び留学報告会の開催
- 外部評価委員会の実施、外部アドバイザーからの助言
- 参加学生の評価とフォローアップ

【2025年度】：事業終了後を見据えた取組方法、プログラムの改善を進める年度

- 相手大学訪問、現地視察と教育プログラムに関する打ち合わせ(学生交流の拡大と、事業終了後の継続)
- 事業実施部会及び相手大学との合同プログラム委員会の開催
- 相手大学の教員を招聘し、プログラム実施に関する事項及び共同研究の打ち合わせ
- 2025年度派遣・受入れプログラムの実施(企業視察等含む)
- 事業の学内外への広報及び留学報告会の開催
- 外部評価委員会の実施、外部アドバイザーからの助言
- 参加学生の評価とフォローアップ

【2026年度】：事業終了後も継続してプログラムを円滑に移行する年度

- 相手大学訪問、現地視察と教育プログラムに関する打ち合わせ(事業終了後の継続に関する実施体制)
- 事業実施部会及び相手大学との合同プログラム委員会の開催
- 相手大学の教員を招聘し、プログラム実施に関する事項及び共同研究の打ち合わせ
- 2026年度派遣・受入れプログラムの実施(企業視察等含む)
- 事業の学内外への広報及び留学報告会の開催
- 外部評価委員会の実施、外部アドバイザーからの助言
- 本事業の総括会議及び成果報告会の実施(補助事業期間後のプログラム継続体制への移行)
- 参加学生の評価とフォローアップ

② 交流プログラムの質の向上のための評価体制

○プログラム実施部会による通常業務の点検と改善

本事業のプログラム運営委員会のもと、本事業責任者の理事・副学長(グローバル化担当)を部会長とし、学部・研究科の担当教職員と国際部で構成する本事業の実施部会を学内に設置する。学生の派遣受入プログラム運営、相手大学との調整業務等が適切で実効的であるか、円滑なプログラム提供がされているか、課題とその改善等について、定期的に点検・調整を行う。

○カリキュラム・単位互換・学修効果の質保証

本学と海外の参加大学の本事業担当教員から成る「アジャイル型協働学習検討部会」が、定期的に交流学生の学習成果とカリキュラム、教育方法、授業科目の内容との整合性について点検する。

学修成果については、BEVI (Beliefs, Events, and Values Inventory) 指標及びコンピテンシーの修得状況、カリキュラム・教育方法・授業科目についてはその内容と単位互換のための情報共有、必要に応じてピアレビューを実施し、PDCA サイクルを実行して事業の改善を図っていく。

○参加学生の評価・意見を改善につなげる取組み

本学では、全ての講義科目について授業評価アンケートを実施している。本事業のプログラムを構成する授業科目についても、評価アンケートを実施する。評価結果については、「アジャイル協働学習検討部会」でとりまとめ、担当教員にフィードバックすることで授業改善に努める。また、各プログラムの終了時にも、参加学生にアンケート調査を行い、その回答を踏まえてプログラム改善に努める。これらの調査結果や留学中の学生からの要望についても、「アジャイル型協働学習検討部会」で対応し、点検・改善プロセスについて、実施部会及びプログラム運営委員会に報告し、達成状況、改善について関係者で共有する。

○SERU による教育の国際的質保証

本学は、2014 年に米国のトップレベルの研究大学等を含む、教育の質保証を評価するための国際コンソーシアム Student Experience in the Research University (SERU) に加盟した。SERU の調査によって、学生の学習環境、意識、将来計画等について把握する。SERU によって得られた指標を、SERU コンソーシアムに加盟する海外大学の学生との比較することで、国際的な教育の質保証、教育プログラムの国際通用性を確保し、その評価結果をプログラム改善に活用する。

○本学が先導する留学・教育効果測定ツールの BEVI (Beliefs, Events, and Values Inventory) テストによる学生の留学前後の変化分析によるプログラム改善

北米で広く使用され、日本国内でも使用する大学が増えている異文化適用に関する心理テストの BEVI (Beliefs, Events and Values Inventory) を用いて、各学生が自身の成長を確認するとともに、得られた指標をプログラムの評価・改善に活用する。これまで本学が採択された大学の世界展開力強化事業においても BEVI テストによる留学プログラム成果の比較分析を行っている。本事業の指標も加えることで、より効果的なプログラム改善へとつなげる。BEVI については、近年 COIL 型プログラムでも活用されている。本事業の COIL についても、実際の派遣プログラムとの指標の比較を行うことで、海外留学を伴わない COIL 型プログラム改善に活用することが可能である。

○外部アドバイザー及び企業・自治体関係者による改善活動

アントレプレナーシップ教育に先駆的な取組みを行っている企業や地方自治体・教育関係者から、人材育成について助言を得る体制を整備する。アドバイザーには、アントレプレナーシップ教育や参加大学の所在する国の事情等に精通する有識者を想定している。

○外部評価委員会による改善活動

国際的な教育交流に関する有識者、国際支援機関、企業・地元自治体の関係者等から成る外部評価委員会を設置する。プログラム運営委員会は、SERU、BEVI の成果指標分析結果及びプログラム委員、プログラム参加学生へのアンケート結果やヒアリングに基づき、当該年度のプログラム自己点検を実施する。本事業のプログラム運営委員会は、年度末に、外部評価委員会を開催し、当該年度の活動報告、自己評価結果を、外部評価委員に報告する。そして、外部評価委員から本事業の実効性、運営の効率性等についてのピアレビューとアドバイスを受け、事業改善につなげる。外部評価委員会からの指摘については、海外連携大学、プログラムの産官学連携機関とも共有する。プログラム運営委員会は、得られた評価をもとに、次年度の事業計画、事業目標を策定する。想定する主な評価項目は次の通り。

評価項目	評価内容
学生の選抜	ポリシーに沿って、事業内容を十分理解した適切な学生が選抜されているか。
事前・事後指導	学習内容、渡航先機関情報、安全情報、交流相手国の文化について十分学ぶ機会を提供しているか。
プログラム内容	多国間学習プログラムとして、参加学生に、自国を含む4カ国で学ぶ意義、学修目標が適切に設定され、学生がそれに沿って学習を進めているか。 参加学生は、プログラムが設定した人材育成目標を達成しているか。 オンラインでの学習活動において、十分な交流成果が得られているか。 参加学生は、十分な学習成果を得ているか。
産官学連携	産官学連携をすすめ、学生に多様な学習機会を提供できているか。
情報提供	参加者がいつでもプログラムについて情報を得ることができているか。 オンラインのコミュニティが適切に機能しているか。
学生支援	十分な学生支援体制が提供されているか。 受入機関として、学生の信頼を得ているか。

③ 補助期間終了後の事業展開

- 補助期間終了後も継続的かつ発展的に質の保証を伴った事業が実施されるよう、将来を見据えた計画となっているか。

○ 本学の留学交流プログラムの事業展開

本事業は、本学の既存の留学交流事業のノウハウを活かし、その延長線上に発展させた事業として位置づけられているため、補助期間終了後も継続的な実施が可能である。また、本事業で実施する e-START プログラム (COIL 型協働学習) 及び、HUSA プログラム (中期・派遣/受入) は、既存のオンライン、短期、中期の留学プログラムの枠組みを利用し、それらの相乗効果を発揮するように再配置した体系的プログラムである。本学の第四期中期計画に示す「海外派遣人数の拡大、優秀な留学生の積極的な獲得のための本学独自の多彩な国際交流プログラムの拡充」に合わせて、本事業成果について分析し、現在の本学が実施しているオンライン、短期派遣、中期派遣についても、中長期的には大学院の受験者数の増加、海外からの優秀な留学生の獲得、本学が目指すグローバル人材の育成へつなげることを目指す。

○ パッケージ型の留学交流事業の継続的な実施体制の構築

学生の教育及び国際交流は、継続性が極めて重要である。大学の世界展開力強化事業 (2013 年採択/AIMS 及び 2016 年採択/ASEAN) は、補助期間終了後も、コーディネーターを本学経費で雇用し、事業を継続している。また、同事業 (2017 年採択/インド) においても、本学経費で担当教員を雇用し、補助期間終了後も事業を継続する計画を進めている。また、各事業においては、それぞれの課題や国・地域を対象とした国際交流事業を実施している。これらの事業においては、前項で示した留学交流プログラムを組み合わせたパッケージ型の交流を行っている。

大学の世界展開力強化事業をはじめとして外部資金を活用した交流事業では、文部科学省の補助期間終了後も採択大学において自走化が求められており、本学としても、厳しい財政状況の下、これまで培ってきた交流事業を継続的に発展させるために、より効率的で、効果的な事業運営が課題となっている。

本学では、大学の世界展開力強化事業における交流を継続的に実施していくために、全学の国際交流事業を推進するための協議体であるグローバル化推進部会の下、各事業と連携の上、引き続き、それぞれの留学交流プログラムの運営の効率化に努めている。

更に、今後、学内で大学の世界展開力強化事業を効率的、効果的に運営するために、既に終了した事業や現在継続中の事業のノウハウや人的リソースを集約して、将来的な事業申請をも見据えた持続的な運営体制を構築する予定である。

		欧州・豪州 2012採択	AIMS 2013採択	ASEAN 2016採択	インド 2017採択	アフリカ 2020採択	日中韓 2021採択
① プログラム 運営の 効率化	研究/インターンシップ GRIP/G.ecbo型					○	
	セメスター留学 HUSA型		○	○	○	○	○
	セミナー/ワークショップ	○	○	○	○	○	○
	短期留学 START型					○	○
	オンライン留学 e-START型					○	○
②パッケージ型事業の管理の一元化							

○マイクロクレデンシャルプログラムへの発展

将来構想の一つとして、本事業で実施する e-START や AGILE ワークショップ等、オンラインとオフラインのそれぞれのメリットを組み合わせたブレンディッドラーニング型の交流プログラムを発展させて、特定プログラムへ展開することも視野に入れている。

そのため、補助期間終了後も、継続すべき優先度の高い事業として、全学的な支援体制のもとで事業を展開、継続することを計画している。具体的な事業展開については、学内で検討を行う計画である。

④ 補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画

○ 初年度から、補助金以外に大学独自の奨学金等の学内外資金を確保する等、自走化に向けた計画が明確になっているか。

○事業実施経費

本事業は、2023 年度(事業2年目)から、実施経費の一部に本学の自己資金を充当し、事業終了後の自走化に向けて、自己資金比率を上げ、補助期間終了後も本事業を継続していく。本事業は、本学の長期ビジョン「SPLENDER PLAN2017」で謳う「多様性をはぐくむ自由で平和な国際社会の実現」に資する「平和を希求しチャレンジする国際的教養人」の育成に通じる取組みである。事業資金として、学長裁量経費、広島大学冠事業基金を自己資金として充当することを計画している。そのほか、日本・英国・インド・オーストラリアの共同研究、国際協力事業、国費留学生優先配置等の枠組みを利用した大学間交流を続けていく。

更に広島大学基金児玉派遣留学奨学金等の奨学金や、広島県下の企業連合からの奨学寄付金(既に基金化)を活用しながら自走化ステップへ発展させる。

○学生支援経費

補助期間終了後も、授業料等相互不徴収等を含む、学生交流附属書を継続する。また、日本学生支援機構(JASSO)海外留学支援制度等の資金を活用した支援を行っていくほか、学生自身が留学経費を獲得することを推奨し、トビタテ留学 JAPAN や民間の奨学金等への応募支援を行う。

○英国・オーストラリアの連携大学について

海外連携大学の、「TURING SCHEME」の採択機関であるシェフィールド大学(英国)、「NEW COLOMBO PLAN」の採択機関であるニューサウスウェールズ大学には、補助期間終了後も、それぞれの留学支援制度の活用を推奨し、英国・オーストラリアの連携大学からの優秀な留学生への留学機会の確保に努める。

補助期間における各経費の明細【年度ごとに1ページ】

(単位：千円)

<2022年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	6,250		6,250	
	①設備備品費	3,000		3,000	
	・ワークブース	3,000		3,000	
	・				
	②消耗品費	3,250		3,250	
	・事務用消耗品	1,700		1,700	
	・授業用消耗品費(オンライン関係用品含む)	1,550		1,550	
	・				
	[人件費・謝金]	4,000		4,000	
	①人件費	3,600		3,600	
	・契約職員(コーディネーター)1人×6月×@600千円	3,600		3,600	
	・				
	②謝金	400		400	
	・外部評価謝金 4人×@50千円	200		200	
	・ティーチングアシスタント 20時間×4人×1千円	80		80	
	・ティーチングアシスタント 30時間×4人×1千円	120		120	
	・				
	[旅費]	6,000		6,000	
	・連携大学教員招へい旅費(英) 2人×@400千円	800		800	
	・連携大学教員招へい旅費(印) 4人×@500千円	2,000		2,000	
	・連携大学教員招へい旅費(豪) 2人×@300千円	600		600	
	・外部評価委員招へい旅費 4人×@50千円	200		200	
	・連携大学への派遣旅費(英) 2人×@400千円	800		800	
	・連携大学への派遣旅費(印) 2人×@500千円	1,000		1,000	
	・連携大学への派遣旅費(豪) 2人×@300千円	600		600	
	・				
	[その他]	3,750		3,750	
	①外注費	2,000		2,000	
	・Webページ制作費	1,000		1,000	
	・翻訳費(教材翻訳)	1,000		1,000	
	・				
	②印刷製本費	750		750	
	・プログラム紹介パンフレット 1000部×@0.5千円	500		500	
	・インフォメーションハックেশ印刷 500部×@0.5千円	250		250	
	・				
	③会議費	1,000		1,000	
	・キックオフミーティング運営費	1,000		1,000	
	・				
	④通信運搬費				
	・				
	⑤光熱水料				
	・				
	⑥その他(諸経費)				
	・				
	・				
2022年度	合計	20,000		20,000	

(大学名： 広島大学

) (主な交流先： 英国・インド・オーストラリア

)

(前ページの続き)		(単位：千円)			
<2023年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	1,000	1,000	2,000	
	①設備備品費				
	・				
	・				
	②消耗品費	1,000	1,000	2,000	
	・事務用消耗品		1,000	1,000	
	・授業用消耗品費(オンライン関係用品含む)	1,000		1,000	
	・				
	[人件費・謝金]	7,320	200	7,520	
	①人件費	7,200		7,200	
	・契約職員(コーディネーター)1人×12月×@600千円	7,200		7,200	
	・				
	・				
	②謝金	120	200	320	
	・外部評価謝金 4人×@50千円		200	200	
	・ティーチングアシスタント 30時間×4人×1千円	120		120	
	・				
	[旅費]	3,530	200	3,730	
	・外部評価委員招へい旅費 4人×@50千円		200	200	
	・連携大学との打合せ(教職員派遣)4人×@500千円	2,000			
	・連携大学との打合せ(教職員派遣)3人×@510千円	1,530		1,530	
	・				
	[その他]	6,130		6,130	
	①外注費				
	・				
	・				
	②印刷製本費	650		650	
	・プログラム紹介パンフレット 400部×@0.5千円	200		200	
	・インフォメーションパッケージ印刷 900部×@0.5千円	450		450	
	・				
	③会議費				
	・				
	・				
	④通信運搬費				
	・				
	・				
	⑤光熱水料				
	・				
	・				
	⑥その他(諸経費)	5,480		5,480	
	・学生渡航費(受入)(英) 7人×@200千円	1,400		1,400	
	・学生渡航費(受入)(印) 13人×@140千円	1,820		1,820	
	・学生渡航費(受入)(豪) 7人×@160千円	1,120		1,120	
	・学生渡航費(派遣)(英) 2人×@200千円	400		400	
	・学生渡航費(派遣)(印) 3人×@140千円	420		420	
	・学生渡航費(派遣)(豪) 2人×@160千円	320		320	
2023年度	合計	17,980	1,400	19,380	

(大学名： 広島大学

) (主な交流先： 英国・インド・オーストラリア

)

(前ページの続き)		(単位：千円)			
<2024年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	2,000		2,000	
	①設備備品費				
	・				
	・				
	・				
	②消耗品費	2,000		2,000	
	・事務用消耗品	1,000		1,000	
	・授業用消耗品費(オンライン関係用品含む)	1,000		1,000	
	・				
	[人件費・謝金]	7,400	120	7,520	
	①人件費	7,200		7,200	
	・契約職員(コーディネーター)1人×12月×@600千円	7,200		7,200	
	・				
	②謝金	200	120	320	
	・外部評価謝金 4人×@50千円	200		200	
	・ティーチングアシスタント 30時間×4人×1千円		120	120	
	・				
	[旅費]	2,600		2,600	
	・外部評価委員招へい旅費 4人×@50千円	200		200	
	・連携大学との打合せ(教職員派遣)3人×@500千円	1,500		1,500	
	・連携大学との打合せ(教職員派遣)3人×@300千円	900		900	
	・				
	・				
	・				
	[その他]	4,180	250	4,430	
	①外注費				
	・				
	・				
	②印刷製本費	500	250	750	
	・プログラム紹介パンフレット 1000部×@0.5千円	500		500	
	・インフォメーションパッケージ印刷 500部×@0.5千円		250	250	
	・				
	③会議費				
	・				
	・				
	④通信運搬費				
	・				
	・				
	⑤光熱水料				
	・				
	・				
	⑥その他(諸経費)	3,680		3,680	
	・学生渡航費(受入)(英) 2人×@200千円	400		400	
	・学生渡航費(受入)(印) 3人×@140千円	420		420	
	・学生渡航費(受入)(豪) 2人×@160千円	320		320	
	・学生渡航費(派遣)(英) 2人×@200千円	400		400	
	・学生渡航費(派遣)(印) 13人×@140千円	1,820		1,820	
	・学生渡航費(派遣)(豪) 2人×@160千円	320		320	
2024年度	合計	16,180	370	16,550	

(大学名： 広島大学

) (主な交流先： 英国・インド・オーストラリア

)

(前ページの続き)		(単位：千円)			
<2025年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]		2,000	2,000	
	①設備備品費				
	・				
	・				
	・				
	②消耗品費		2,000	2,000	
	・事務用消耗品		1,000	1,000	
	・授業用消耗品費(オンライン関係用品含む)		1,000	1,000	
	・				
	[人件費・謝金]	7,400	120	7,520	
	①人件費	7,200		7,200	
	・契約職員(コーディネーター)1人×12月×@600千円	7,200		7,200	
	・				
	・				
	②謝金	200	120	320	
	・外部評価謝金4人×@50千円	200		200	
	・ティーチングアシスタント30時間×4人×1千円		120	120	
	・				
	[旅費]	1,700	900	2,600	
	・外部評価委員招へい旅費4人×@50千円	200		200	
	・連携大学との打合せ(教職員派遣)3人×@500千円	1,500		1,500	
	・連携大学との打合せ(教職員派遣)3人×@300千円		900	900	
	・				
	・				
	・				
	[その他]	5,480	750	6,230	
	①外注費				
	・				
	・				
	・				
	②印刷製本費		750	750	
	・プログラム紹介パンフレット1000部×@0.5千円		500	500	
	・インフォメーションパッケージ印刷500部×@0.5千円		250	250	
	・				
	③会議費				
	・				
	・				
	④通信運搬費				
	・				
	・				
	⑤光熱水料				
	・				
	・				
	⑥その他(諸経費)	5,480		5,480	
	・学生渡航費(受入)(英)7人×@200千円	1,400		1,400	
	・学生渡航費(受入)(印)13人×@140千円	1,820		1,820	
	・学生渡航費(受入)(豪)7人×@160千円	1,120		1,120	
	・学生渡航費(派遣)(英)2人×@200千円	400		400	
	・学生渡航費(派遣)(印)3人×@140千円	420		420	
	・学生渡航費(派遣)(豪)2人×@160千円	320		320	
2025年度	合計	14,580	3,770	18,350	

(前ページの続き)		(単位：千円)			
<2026年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]		1,000	1,000	
	①設備備品費				
	・				
	・				
	②消耗品費		1,000	1,000	
	・事務用消耗品		500	500	
	・授業用消耗品費(オンライン関係用品含む)		500	500	
	・				
	[人件費・謝金]	7,520		7,520	
	①人件費	7,200		7,200	
	・契約職員(コーディネーター)1人×12月×@600千円	7,200		7,200	
	・				
	・				
	②謝金	320		320	
	・外部評価謝金 4人×@50千円	200		200	
	・ティーチングアシスタント 30時間×4人×1千円	120		120	
	・				
	[旅費]	1,100	1,500	2,600	
	・外部評価委員招へい旅費 4人×@50千円	200		200	
	・連携大学との打合せ(教職員派遣)3人×@500千円		1,500	1,500	
	・連携大学との打合せ(教職員派遣)3人×@300千円	900		900	
	・				
	・				
	・				
	[その他]	4,430		4,430	
	①外注費				
	・				
	・				
	②印刷製本費	750		750	
	・プログラム紹介パンフレット 1000部×@0.5千円	500		500	
	・インフォメーションパッケージ印刷 500部×@0.5千円	250		250	
	・				
	③会議費				
	・				
	・				
	④通信運搬費				
	・				
	・				
	⑤光熱水料				
	・				
	・				
	⑥その他(諸経費)	3,680		3,680	
	・学生渡航費(受入)(英) 2人×@200千円	400			
	・学生渡航費(受入)(印) 3人×@140千円	420			
	・学生渡航費(受入)(豪) 2人×@160千円	320			
	・学生渡航費(派遣)(英) 2人×@200千円	400			
	・学生渡航費(派遣)(印) 13人×@140千円	1,820			
	・学生渡航費(派遣)(豪) 2人×@160千円	320			
	・				
2026年度	合計	13,050	2,500	15,550	

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大 学 名 称	(日) シェフィールド大学		国 名	英 国		
	(英) The University of Sheffield					
設 置 形 態	国 立	設 置 年	1905			
設 置 者 (学 長 等)	Koen Lamberts (President and Vice-Chancellor)					
学 部 等 の 構 成	芸術・人文社会科学部、工学部、医・歯・健康学部、理学部、社会科学部					
学 生 数	総 数	30,055人	学部生数	19,100人	大学院生数	10,955人
受け入れている留学生数	10,349人	日本からの留学生数	78人			
海外への派遣学生数	558人	日本への派遣学生数	3人			
W e b サイト (U R L)	https://www.sheffield.ac.uk/					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

シェフィールド大学はIAUのWHED掲載大学である。

The University of Sheffield

IAU-016594 United Kingdom

General Information

General Information

Address	Street: Western Bank City: Sheffield Post Code: S10 2TN WWW: https://www.sheffield.ac.uk
Other Sites	Also Teaching Hospitals. Year Abroad Programme. English Language Teaching Centre.
Institution Funding	Public
History	Founded 1897 as University College by amalgamation of Firth College (1879), Sheffield Medical School (1828) and Sheffield Technical School (1884). Acquired present status and title 1905.
Academic Year	September to June (September-January; January-February; April-June)
Admission Requirements	General Certificate of Education (GCE), at Advanced ('A') level, or equivalent. English proficiency, IELTS, minimum score of 6.0; TOEFL test for foreign students, minimum score of 550-575
Language(s)	English

(大学名: 広島大学) (主な交流先: 英国・インド・オーストラリア)

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大 学 名 称	(日) ビルラ技術科学大学ピラニ校		国 名	インド		
	(英) Birla Institute of Technology and Science, Pilani					
設 置 形 態	私立	設 置 年	1964			
設 置 者 (学 長 等)	Souvik Bhattacharyya (Vice - Chancellor)					
学 部 等 の 構 成	機械工学部、製造工学部、土木工学部、電気計装工学部、化学工学部、コンピューターサイエンス学部					
学 生 数	総数	17,039人	学部生数	13,475人	大学院生数	3,564人
受け入れている留学生数	184人	日本からの留学生数	38人			
海外への派遣学生数	355人	日本への派遣学生数	1人			
W e b サイト (U R L)	https://www.bits-pilani.ac.in/					

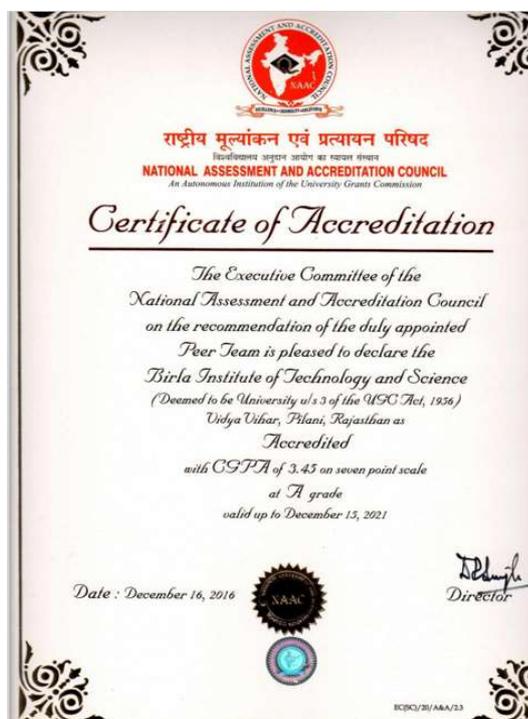
②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

インド政府 (NAAC) によってCGPA評価Aグレードの大学と認定されている。

NNAC <http://www.naac.gov.in>

CGPA評価 <http://naac.gov.in/cgpa.asp>

The screenshot shows the website for BITS Pilani, featuring navigation menus for 'About Us', 'Admissions', 'Academics', 'Research & Innovation', and 'Policies & Procedures'. A prominent section titled 'Accreditations' highlights the NAAC Accreditation. Below this, a small image of a certificate is shown, and the text states: 'BITS, Pilani has been accredited by the National Assessment & Accreditation Council (NAAC) with 'A' grade with a CGPA of 3.45 on a four point scale after visiting its Pilani, K.K Birla Goa & Hyderabad campuses in 2016.'



(大学名: 広島大学) (主な交流先: 英国・インド・オーストラリア)

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大 学 名 称	(日) インド経営大学院バンガロール校		国 名	インド		
	(英) Indian Institute of Management, Bangalore					
設 置 形 態	国立	設 置 年	1973			
設 置 者 (学 長 等)	Rishiksha T. Krishnan (Director)					
学 部 等 の 構 成	(分野) 意思決定科学、経済・社会科学、アントレプレナーシップ学、ファイナンス・会計学、情報システム学、経営学、組織的行動・人材管理学、生産・運用管理学、公共政策学部、戦略学					
学 生 数	総数	1,056人	学部生数	0人	大学院生数	1,056人
受け入れている留学生数	18人	日本からの留学生数	0人			
海外への派遣学生数	7人	日本への派遣学生数	0人			
Webサイト(URL)	https://www.iimb.ac.in/					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

インド経営大学院バンガロール校 (IIMB) は、2010年からEFMD品質改善システム (EQUIS) によって国際的に認定されており、2021年12月からさらに5年間再認定された。

The screenshot displays the IIMB website's accreditation and rankings page. At the top, there are navigation links for 'ABOUT IIMB', 'PROGRAMMES', 'AREAS', 'EXEC EDUCATION', 'CENTRES OF EXCELLENCE', 'FACULTY', and 'RESEARCH'. Below this, a section titled 'Accreditation and Rankings' features a graphic with the text 'Featured Among the Leading B-Schools Globally'. This graphic lists several international rankings and accreditations, including:

- International Rankings: QS World University 2020, QS Global MBA 2021, QS Master's in Management 2021, FT MBA 2021, QS University Rankings for Business & Management Studies, QS EMBA 2021, India Rankings 2021.
- Accreditations: International Accreditation (EQUIS), FT Global in Management, Among Top 3 globally in 2020 for provision of MOOCs, Global Networking.

At the bottom of the screenshot, the EQUIS ACCREDITED logo is prominently displayed, along with the text: 'Indian Institute of Management Bangalore (IIMB) is internationally accredited by the EFMD Quality Improvement System (EQUIS) since 2010. In December 2021, IIMB was re-accredited by EQUIS for a further period of 5 years.'

(大学名: 広島大学) (主な交流先: 英国・インド・オーストラリア)

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

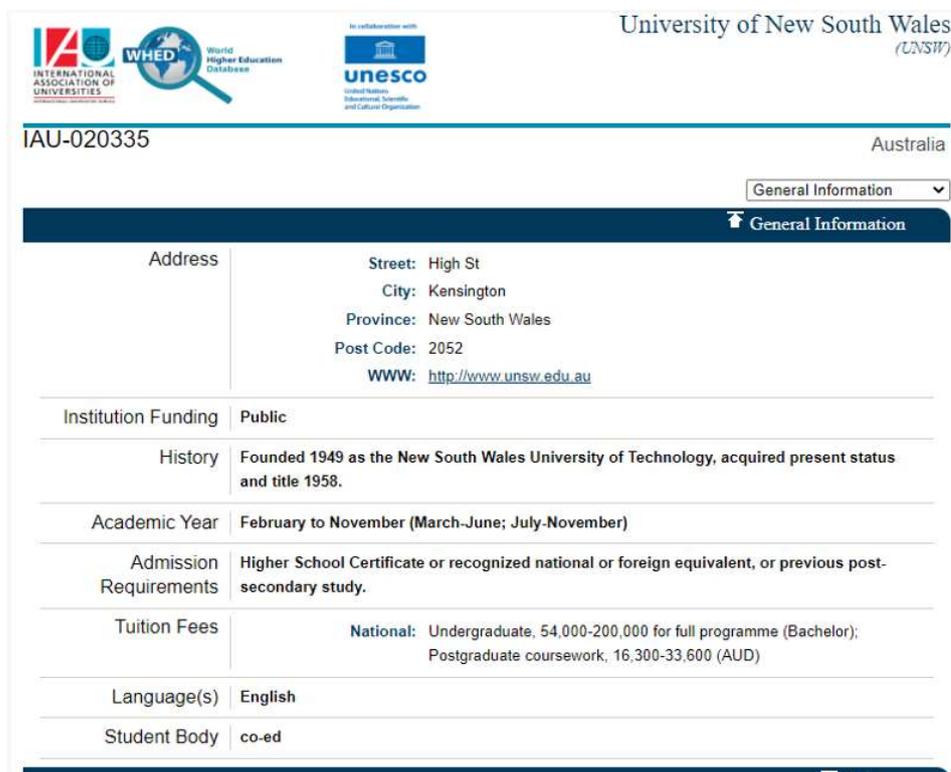
海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大 学 名 称	(日) ニューサウスウェルズ大学		国 名	オーストラリア
	(英) The University of New South Wales			
設 置 形 態	国立	設 置 年	1949	
設 置 者 (学 長 等)	Attila Brungs (Vice-Chancellor & President)			
学 部 等 の 構 成	芸術・デザイン・建築学部、工学部、法・司法学部、医学部、理学部、ビジネススクール			
学 生 数	総数	63,232人	学部生数	不明
			大学院生数	不明
受け入れている留学生数	24,800人	日本からの留学生数	不明	
海外への派遣学生数	4,500人	日本への派遣学生数	120人	
Webサイト(URL)	https://www.unsw.edu.au/			

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

ニューサウスウェルズ大学はIAUのWHED掲載大学である。



IAU-020335 Australia

General Information

Address

Street: High St
City: Kensington
Province: New South Wales
Post Code: 2052
WWW: <http://www.unsw.edu.au>

Institution Funding: Public

History: Founded 1949 as the New South Wales University of Technology, acquired present status and title 1958.

Academic Year: February to November (March-June; July-November)

Admission Requirements: Higher School Certificate or recognized national or foreign equivalent, or previous post-secondary study.

Tuition Fees: National: Undergraduate, 54,000-200,000 for full programme (Bachelor); Postgraduate coursework, 16,300-33,600 (AUD)

Language(s): English

Student Body: co-ed

(大学名: 広島大学) (主な交流先: 英国・インド・オーストラリア)

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

参考データ【国内の大学等1校につき、①～③は枠内に記入、④～⑥はそれぞれ指定ページ以内】
※人数等の算定に当たっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づき記入。

大学等名 広島大学

①大学等全体における出身国別の留学生の受入総数（2019年5月1日現在）及び各出身国（地域）別の2019年度の留学生受入人数

※「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表1に定める「留学」の在留資格を有する者に限る。
※「2019年度受入人数」は、2019年4月1日～2020年3月31日の出身国（地域）別受入人数を記入。
※「全学生数」には、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学等全体の2019年5月1日現在の在籍者数を記入。

順位	出身国（地域）	受入総数	2019年度 受入人数
1	中国	1169	1581
2	インドネシア	151	189
3	ベトナム	77	108
4	大韓民国	68	78
5	バングラデシュ	48	59
6	台湾	32	46
7	カンボジア	30	51
8	タイ	26	45
9	フィリピン	23	28
10	インドネシア	22	31
その他 (上記10カ国以外)	(主な国名) ミャンマー、マレーシア、 アメリカなど	253	344
留学生の受入人数の合計		1899	2560
全学生数		15884	
留学生比率		12.0%	

②2019年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数

※教育又は研究等を目的として、2019年度中（2019年4月1日から2020年3月31日まで）に海外の大学等（海外に所在する日本の大学等の分校は除く。）に留学した日本人学生について記入。
なお、2019年3月31日以前から継続して留学している者は含まない。

順位	派遣先大学の所在国 (地域)	派遣先大学名	2019年度 派遣人数
1	オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学	179
2	オーストラリア	フリンダース大学	45
3	台湾	国立政治大学	43
4	アメリカ	ジェームスマディソン大学	28
5	タイ	カセサート大学	28
6	タイ	チュラーロンコーン大学	28
7	ベトナム	ベトナム国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学	28
8	リトアニア	ヴィータウタス・マグヌス大学	22
9	韓国	釜慶大学校	22
10	インドネシア	ブラウイジャヤ大学	21
その他 (上記10カ国以外)	(主な国名) 中国、イギリスなど 計 24 カ国	(主な大学名) 大連理工大、エディンバラ大など 計 123 校	331
派遣先大学合計校数		133	
派遣人数の合計			775

(大学名: 広島大学) (主な交流先: 英国・インド・オーストラリア)

大学等名	広島大学						
③大学等全体における外国人教員数（兼務者を含む）（2022年5月1日現在）							
<p>※「全教員数」には大学等に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入。</p> <p>※「うち専任教員（本務者）数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任の外国人教員の数をそれぞれ記入。</p> <p>（いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めること。）</p>							
全教員数	外国人教員数						外国人教員の比率
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	
2951	12	45	7	128	67	259	9%
うち専任教員 （本務者）数	12	45	7	128	0	192	

大学等名	広島大学
④取組の実績 【4ページ以内】	
○ 国際的な教育環境の構築実績	
(1) 英語による授業科目数の増加	
急増する留学生に幅広い専門性を学べる環境を提供するため、英語による授業科目の開講を推進している。	
学士課程では、国際歯学コースを開講し、2年生、3年生の歯学専門科目（講義・演習）の全てを英語でも履修可能とした。2013年度採択「大学の世界展開力強化事業」では、英語による授業科目を2016年度に40科目（学士課程の英語による授業科目の7%）開講し、全学の取組みを牽引した。	
また、2018年4月には英語による授業のみで学士号を取得できる新学科（総合科学部国際共創学科）を設置した。また、全学的に、英語による学士課程プログラムの新設を進め、令和3年度には22コースまで開設できた。	
大学院課程では、2016年度までに全ての理系の研究科に英語のみで卒業が可能なコースを設置した。中でも国際協力研究科（2020年4月改組）では、全開講科目の90%以上を英語により授業を行っており、国際協力機関等に勤務するグローバル人材や各国の主要研究機関の研究者等、多数の修了生を途上国開発人材として輩出している。	
以上により英語による教育実践のノウハウを十分に蓄積していると言える。	
(2) ダブル・ディグリープログラム（DD）の実施	
海外拠点を置く中国の首都師範大学との間で2015年度に「首都師範大学・広島大学共同大学院プログラム」を開設した。	
これは、学士課程は首都師範大学、修士課程はDDを実施、博士課程は広島大学で教育するプログラムである。うち修士DDでは、4つの研究科が参画して募集とマッチングを行い、2021年度に第6期生4名が入学した。この全学的なDDを先導的に実施することにより、学内で実施に関する知識・経験が蓄積され、部局間DD協定の締結促進に繋がった。現在、31のダブル・ディグリープログラム協定を締結し、プログラムを実施している。	
(3) ジョイント・ディグリープログラム（JD）の実施	
オーストリア・グラーツ大学、ドイツ・ライプツィヒ大学、イタリア・ベニス大学、オランダ・ユトレヒト大学の欧州4大学が実施する、持続可能な開発のための国際共同修士プログラムに2008年より参加してきた実績を基に、グラーツ大学及びライプツィヒ大学とそれぞれジョイント・ディグリープログラム（JD）新設に向けて調整を進めてきた。	
2019年12月に文部科学省から同プログラムの設置が認められ、2020年10月に以下の国際連携専攻を開設した。	
◇人間社会科学部研究科 広島大学・グラーツ大学国際連携サステナビリティ学専攻	
◇先進理工系科学研究科 広島大学・ライプツィヒ大学国際連携サステナビリティ学専攻	
(4) 交換留学プログラムの実施	
広島大学短期交換留学プログラムとして、協定校から受け入れた留学生向けに日本文化・日本事情の他、法学、経済、化学、物理など多様な英語科目を提供し、全ての学業成績の単位認定にUCTS（アジア・太平洋大学交流機構（UMAP）単位互換制度）を採用（欧州はECTS）、協定校との単位互換・成績管理を徹底している。	
また、2013年度、2016年度に採択された「大学の世界展開力強化事業」では、東南アジアの大学との中長期の学生交流を実施し、交換留学での学生交流数が大きく増加した。事業期間終了後も、継続して中長期の学生交流を実施している。	
(5) 学生交流事業の実施	
「大学の世界展開力強化事業」に関しては、2017年度にインド、2020年度にアフリカ、2021年度に東・東南アジアとのプログラムが採択され、短期と長期、オンサイトとオンラインを組み合わせた多層的な双方向の学生交流を実施している。	
また、各学部・研究科においても、外国の大学との各専門分野における学生交流を活発に実施している。単位互換を行うなど、質の保証を伴った上で、学生交流数の増加とプログラムの多様化を進めている。	

(大学名： 広島大学) (主な交流先： 英国・インド・オーストラリア)

大学等名	広島大学
④取組の実績 【4ページ以内】	
(6) 学生受入れプログラムの実施	
<p>短期（2週間程度）の「日本語・日本文化特別研修」について、2021年度は新型コロナウイルス感染症水際対策のため実際に留学生が渡日することが困難であることから、オンラインコースを新設して6コースを実施し、アジア圏から382人の学生を受け入れた。</p>	
<p>また、2016年度から「森戸国際高等教育学院3+1プログラム」を開始し、2016年度は26人、2017年度は90人、2018年度は146人、2019年度は159人、2020年度はコロナ禍の影響を受け43人、2021年度は56人の学生を3ターム間又は1年間受け入れている。留学生の増加に対応できるよう、森戸国際高等教育学院を中心とした留学生に対する日本語教育体制の強化も進めている。</p>	
(7) STARTプログラム	
<p>国際交流や長期留学への関心を高めることを目的に、海外経験の少ない学部生を休業期間中に海外の協定大学等へ2週間程度派遣する「STARTプログラム」を2010年度より実施している。</p>	
<p>学内予算や基金等を活用して、学生の参加費用の一部を補助する形で2019年度までに計67回実施し、累計で1829名の学生を派遣した。なお、2020年度と2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、プログラムの実施を中止した。</p>	
(8) e-STARTプログラム	
<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、「STARTプログラム」をはじめとした渡航を伴う形で学生の海外派遣・留学ができない状況を踏まえ、2020年度にオンラインで海外大学の教員・学生と交流する国際交流教育プログラム「e-STARTプログラム」を新設し、2020年度後期は7コース61名、2021年度前期は7コース60名、2021年度後期は15コース83名の本学学生が参加した。</p>	
○国際化に対応した教員採用と資質向上	
(1) 外国人教員等の採用	
<p>2015年度末までに外国人教員比率を5%程度まで増加させる目標を設定し、これを達成した。</p>	
<p>2016年度からは、教員の公募を原則国際公募としたほか、英語での教育・研究指導ができることを公募・教員選考の基本方針とした。2020年度からは、配置から候補者選考までを学術院会議及び全学人事委員会の議を経て学長が決定するガバナンス体制に移行した。その徹底したガバナンス体制の下で、外国人教員や海外で英語による教授経験のある人材を戦略的・計画的に採用している。</p>	
<p>待遇面においては、2009年から、特に傑出した研究者を国内外から招聘する方策の一つとして、教員に年俸制（旧年俸制）を適用しており、2019年度に導入した新たな年俸制（年俸制（Ⅰ））では、業績評価（外部資金獲得額等を評価指標として設定）及び勤務成績を踏まえて、月給制より幅の大きい昇給を設定するとともに、大型外部資金の獲得等により、学長が「極めて優秀な者」として選考した場合に、月給制の教授の最高号俸を超える年俸額を適用できる制度を整備した。</p>	
<p>また、2021年度には、給与の安定性を確保するため、基本年俸の昇給幅を月給制と同様にし、且つ、業績評価（外部資金獲得額等を評価指標として設定）に応じた一定のメリハリを確保するため、優秀者の業績年俸の増額割合を月給制より高く設定するとともに、大型外部資金の獲得等により、学長が「極めて優秀な者」として選考した場合に、月給制の教授の最高号俸を超える年俸額を適用できるよう、年俸制（Ⅱ）を新設した。（2021年5月1日現在適用者570名）。</p>	
<p>また、2020年度からは、優れた大学教員（特に若手教員）の確保・育成のため、既に導入しているテニュアトラック制度を見直し、「准教授」「講師」「助教」で採用される全教員に原則テニュアトラック制を適用している。新たなテニュアトラック制度は、5～7年後にテニュア審査を行い、審査に合格すれば、上位職への昇任を可能としている。更に、採用されたテニュアトラック教員に対して、スタートアップ経費の措置（助教のみ）及びメンター教員を配置するなど、教員が自立して教育研究活動を行うことのできる支援体制を開始している。</p>	
(2) FDによる教員の資質向上	
<p>本学で採用した新任教員には、原則として研修の受講を必須化とする「新任教員研修プログラム」により体系的な研修機会が提供され、新任以外の教員も積極的に参加している。</p>	
<p>また、英語で授業を行うための全学FDを2011年度から毎年実施している。2016年度からは「英語による授業の方法」をFDとして内容を改善しながら、継続的に開催し、受講者は延べ404名の教員が参加する等、教員の教育力等の向上に常に努めている。</p>	

大学等名	広島大学
④取組の実績 【4ページ以内】	
○事務体制の国際化	
(1)英語のできる国際担当職員の配置	
<p>国際担当職員を戦略的に採用するため、TOEIC点数を参考指標とするとともに、留学や海外勤務経験を重視した事務職員の採用を実施している。外国大学の学位取得者は13名で、国際大学間連携や国際産学連携など高い専門性を要する部署等に配置している。また、学内の各種情報システムの英語版の作成あるいは日英併記、2013年度から導入したりサーチアドミニストレーター等による外国人教員等への対応や研修機会の提供等により、外国人研究者がその能力を十全に発揮できる環境を整えている。</p>	
(2)職員の語学研修プログラム	
<p>文部科学省や日本学術振興会の長期海外派遣研修制度を活用して毎年1～2名を派遣し、米国、中国、欧州各国等へこれまで31名の職員を派遣した。2015年度からはTOEIC スコアが不明な職員全員にTOEIC(IP)試験の受験を義務付け、個々の職員の英語能力を把握している。職員が各自で英語能力の目標を設定し継続的な英語学習を動機付けるよう、語学研修や海外派遣型研修等、様々な研修を提供している。</p>	
○厳格な成績管理などの単位の実質化への取組み	
(1)厳格な成績管理と履修可能な上限単位数の設定	
<p>本学では、全学的に算出方法を統一したGPAを2006年度学部入学生から導入しており、GPAの計算式の分母を「総登録単位数」とすることで、単位の過剰登録の防止策としても有効に活用している。</p>	
<p>なお、GPA算出の基盤となる成績評価が厳格かつ適正な評価となるよう、2013年度に教養教育科目及び専門教育科目の成績評価のガイドラインを導入し、成績評価の方法については定期試験、小テスト、レポート、授業中の活動学習記録等の多様な要素の中から授業の方法や目的に応じた評価方法を選択し得る限り複数の要素を用いて行うものとし、授業への出席回数については期末試験等の受験要件としてのみ用い、成績評価の要素としないことを定めている。</p>	
<p>また、極端に偏った成績分布とならないよう、試験の難易度や成績評価に占めるその比重等を適切に設定するよう定めるなど教育の質の向上を図っている。更に、2016年度には、学生からの成績評価に対する異議申立制度を全学的に導入している。全学部においてキャップ制度を導入しており、例えば総合科学部では、一学期で取得できる単位上限を26単位とする等、単位の実質化に取り組んでいる。</p>	
<p>2020年度には、期末試験等の実施についてのガイドラインに、オンラインで実施する場合を新たに定め、適正な試験実施と不正行為の未然防止に努めている。</p>	
(2)シラバスの活用と出口管理の厳格化	
<p>本学が独自に開発した「到達目標型教育プログラム (HiPROSPECTS®)」では、卒業時に身につけておくべき知識や能力を「到達目標」として予め明示するとともに、学期毎に到達度評価を行い、その結果を基に次学期に向けた履修指導を行うなどして、卒業時の質保証に取り組んでいる。</p>	
<p>また、シラバスは到達目標型教育プログラムの中での授業の位置づけ、授業概要、到達度評価の評価項目、キーワード、授業方法（オンラインを活用した授業の実施方法、使用するメディア・機器、授業で取り入れる学習手法を含む）、15回分の詳細な授業計画、15回分の予習・復習へのアドバイス、受講条件、成績評価の基準・配分、教員からのメッセージ等で構成され、統一様式により学生情報システム「もみじ」上で常時閲覧可能にしている。</p>	
<p>また、2016年5月1日時点で全てシラバスのナンバリング及び英語化を完了し、現在も継続して取り組んでいる。</p>	

(大学名: 広島大学) (主な交流先: 英国・インド・オーストラリア)

大学等名

広島大学

④取組の実績 【4ページ以内】

○英語による授業科目数・割合

	平成25年度 (通年)	平成26年度 (通年)	平成27年度 (通年)	平成28年度 (通年)	平成29年度 (通年)	平成30年度 (通年)	令和元年度 (通年)	令和2年度 (通年)	令和3年度 (通年)
英語による授業科目数①	442 科目	691 科目	988 科目	2,374 科目	3,010 科目	3,423 科目	4,835 科目	6,112 科目	6,088 科目
うち学部	84 科目	215 科目	236 科目	565 科目	817 科目	1,086 科目	1,413 科目	1,492 科目	1,621 科目
うち大学院	358 科目	476 科目	752 科目	1,809 科目	2,193 科目	2,337 科目	3,422 科目	4,620 科目	4,467 科目
全授業科目数②	14,784 科目	13,654 科目	12,973 科目	12,424 科目	12,853 科目	12,492 科目	14,864 科目	16,146 科目	14,504 科目
うち学部	5,817 科目	5,790 科目	5,590 科目	5,532 科目	5,468 科目	5,504 科目	5,697 科目	5,696 科目	5,790 科目
うち大学院	8,967 科目	7,864 科目	7,383 科目	6,892 科目	7,385 科目	6,988 科目	9,167 科目	10,450 科目	8,714 科目
全授業科目における英語による授業科目目の割合(①/②)	3.0 %	5.1 %	7.6 %	19.1 %	23.3 %	27.4 %	32.3 %	37.9 %	42.0 %

(出典:スーパードラッグ大学創成支援 令和2年度740プログラム調査より抜粋)

○ダブルディグリー協定 新規締結数

(件)

	H23年度以前	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
大学間協定	3	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
部局間協定	3	3	1	3	1	9	5	3	2	0	1

(出典:大学での集計)

○交換留学(受入)実績

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
受入国・地域	15	14	15	15	18	15	13	17	17	13	15
受入人数	33	28	39	58	62	64	67	65	94	59	29

(出典:大学での集計)

○交換留学(派遣)実績

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
派遣国・地域	10	13	12	17	15	16	14	14	21	8	14
派遣人数	23	31	38	65	57	60	53	40	74	18	29

(出典:大学での集計)

○日本語・日本文化特別研修 受入実績

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
コース数	3	5	5	6	7	12	11	11	8	3	6
受入人数	89	134	82	171	213	264	246	290	185	171	382

(出典:大学での集計)

○森戸国際高等教育学院3+1プログラム 受入実績

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
受入人数	26	90	146	159	43	56

(出典:大学での集計)

(大学名: 広島大学) (主な交流先: 英国・インド・オーストラリア)

大学等名	広島大学
------	------

⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）事後評価結果

大学名	○広島大学、広島経済大学
整理番号	B6
事業名	CLMV 諸国の持続可能な平和、幸福、発展に貢献する研究力と社会起業力の融合人財育成

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A⁻	一部でやや不十分な点はあるものの、概ね事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現されたと判断された。
------------------------------	---

コメント

本事業は、広島大学及び広島経済大学が、カンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナム（CLMV）諸国の大学と連携して、日本人学生の派遣・CLMV 諸国学生の受入を行い、CLMV 諸国の社会インフラ整備に貢献する「研究力」と「社会起業力」を兼ね備えた「人財」の育成を目指し実施された事業である。

事業展開では、SDGs 関連の教育科目の英語による開講を充実させた上で、日本人学生を CLMV 諸国でのインターンシップに派遣し、また、CLMV 諸国の学生を受け入れて、「国際課題研究」として複数の教員による丁寧な研究指導を行った。更に、実現性の高い政策やビジネス企画等を立案する国際合同セミナー「PEACE-SDGs アイディア発掘型学生セミナー」を開催する等、多様な教育コンテンツが展開された。こうした取組の基盤として、全国で初めてカンボジア教育省・ミャンマー教育省高等教育局と学術交流・協力協定を締結し、海外拠点を開設していること、アジア・太平洋大学交流機構単位互換制度に基づく単位互換や成績管理のシステムを構築していること、新たに BEVI を留学効果測定ツールとして導入し、プログラム評価に活用していることも、大学間交流の質保証の観点から高く評価できる。また、コロナ禍以前から、事前・事後研修にオンラインでの現地学生との協働教育を導入し、2020 年度には、オンライン上で海外大学の教員・学生と交流・ディスカッションを行う「e-START プログラム」を新設し、7 コースで 61 名の学生が参加したことは、今後の更なる展開が期待できる。

一方で、中間評価時において「学生の派遣・受入数の拡充と質的充実への努力が望まれる」との指摘を受け、プログラムの内容の見直し、受入体制の柔軟化、短期研修の単位化、留学啓発教育の実施といった対策が講じられたが、結果として目標値の達成には及んでいない。また、広島経済大学からの学生派遣や広島大学・広島経済大学の国内連携による教育プログラムの充実を推進するよう中間評価時に指摘を受けているものの、広島経済大学からの学生派遣はごく少数に留まっており、国内大学間の連携強化に向けて今後一層の検討が必要である。今後、CLMV 諸国の連携大学を絞り戦略的に学生交流を拡大することを検討する等、更なる工夫が望まれる。

最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。

大学等名	広島大学
⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】	
<p>「課題解決型高度医療人材養成プログラム」取組概要及び事後評価結果</p> <p>－放射線災害を含む放射線健康リスクに関する領域－</p>	
整理番号	2
申請担当大学名 (連携大学名)	長崎大学 広島大学、福島県立医科大学
事業名	放射線健康リスク科学人材養成プログラム
事業推進責任者	長崎大学医学部長 前村 浩二
<p>取組概要</p> <p>東京電力福島第一原子力発電所事故（福島原発事故）により引き起こされた放射線の健康影響に対する不安の高まりは、医学教育においては、放射線影響学のみならず災害医療、リスクコミュニケーションも包含した新しい放射線健康リスク科学教育の必要性を示した。この領域の教育リソース（人材、コンテンツ、知識・経験等）は極めて限られているため、現在の教育資源を有効に活用し速やかに全国的に展開する横方向と、将来の人材を育成し、教育リソースを充実化する縦方向の両面の施策が不可欠である。特に後者について、学士教育からプロフェッショナル養成、そしてグローバルヘルスと原子力災害に対応できる人材育成までの長期的視野に立った、幅広い裾野と高い専門性のある学際教育を実現するためのピラミッド型の段階的かつ組織的な教育体制の新たな構築が重要な課題となる。</p> <p>この課題を解決するため、本事業では、放射線健康リスク教育の全国展開のための人材の輩出・配置及び国際機関への人材供給と地球規模での原子力リスクへの対応を通じ将来のリーダーとなる人材育成を目的として、過去に放射線災害を経験し、放射線健康リスク科学に関する教育リソースを有する長崎大学、広島大学、福島県立医科大学が連携し、医学部教育における原子力災害コアとなる新しい教育プログラムの実施、共同大学院等による学際的な研究者養成、3大学共同研究拠点を活用した高度プロフェッショナル養成、そして高度被ばく医療支援センター/原子力災害医療・総合支援センターと協調した災害グローバルヘルス対応者養成のための長期人材養成プログラムを実施する。3大学間では講師派遣等の教育交流及び研究交流を行い、関連する全てのリソースを横断的、網羅的に把握、活用することのできる放射線健康リスク科学リソースセンターを目指す。</p>	
<p>中間評価結果</p> <p>(総合評価) A 計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。</p> <p>(コメント) ○優れた点、◆改善を要する点</p> <p>【優れた点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 放射線影響学のみならず災害医療・リスクコミュニケーションを含めた放射線健康リスク科学を、過去に大規模の放射線災害を経験した県に唯一の医学部を持つ大学が主体となり、学部生教育に関して全国の大学の規範となるシステムと教材を構築したことの意義は大きい。 ○ 連携する3大学すべての学生に放射線健康リスク教育がなされるようになった。教育プログラムを他大学に広げるために本事業でビデオコンテンツを開発し、無料配信を行ったことは評価される。 ○ 本事業は、放射線健康リスク科学に関して教育リソースが限られる状況に対し、高い専門性とこれまでの実績を有する3大学の連携のもとに実施された貴重な取り組みであった。 <p>【改善を要する点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 講義の内容やコンテンツを無料配信する等の取組における情報発信の運用方法に関する他大学からの評価についても収集ができるとよりよいものとなるを考える。 ◆ 3大学間の実態上の連携・協力の成果が明確でなく、相互交流が不十分であったと思われることから改善を行うべきである。 	

大学等名	広島大学		
⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】			
「卓越大学院プログラム」中間評価結果			
機関名	広島大学	整理番号	1813
プログラム名称	ゲノム編集先端人材育成プログラム		
プログラム責任者	田原 栄俊	プログラムコーディネーター	山本 卓
(評価決定後公表)			
(総括評価)			
<input type="checkbox"/> S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。 <input checked="" type="checkbox"/> A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。 <input type="checkbox"/> B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。 <input type="checkbox"/> C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。 <input type="checkbox"/> D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。			
[コメント]			
<p>大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、大学の長期ビジョンの中で4研究科へ再編、研究科等連係課程という研究科を超えた仕組みを導入している。また、OPERAやCOI-NEXTとの連携は、相互補完するものとして有効である。ゲノム編集技術を身につけた人材の育成と、技術の実応用によって研究が進展し、それが研究をドライブするという好循環が形成されつつあるように見える。</p> <p>修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、理学系、医学系と教育課程の異なる研究科に対する教育プログラムが運用され、独創力や俯瞰力等の成長に対する学生の期待も高い。多様で優秀な学生を獲得できており、HIKARU-PF、JGRADと連携して修了後の学生の成長、活躍もサポート可能としていることは評価できる。</p> <p>高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、申請時40名の担当教員を59名に増員、教育研究や学位審査の指導体制を編成している。海外の先端機関との連携は実用と研究が密接に関連しているので難しい分野だが、何らかの工夫が望まれる。また、メンターの指導や、学外からの指導、より専門性の高い講義や知財に関する講義等、学生からの要望の把握と対応への一層の努力が望まれる。</p> <p>優秀な学生の獲得については、本プログラムのイベントや広報活動、リクルートにより、これまでの3年間で入学者は増加し、優秀な学生が確保できていることは評価できる。</p> <p>世界に通用する確かな質保証システムについては、筆記試験によるアドミッション、口頭試問、ポートフォリオ（到達度評価）、学位論文に対応して、QE、FEが実施され、各種委員会によって管理されている他、教育質保証委員会、外部評価委員会によって質保証をはかっており、評価できる。</p> <p>事業の継続・発展については、補助金の減少に対して学内・学外資源を充てる計画の確実な実行が望まれる。</p>			

大学等名	広島大学
⑥他の公的資金との重複状況 【2ページ以内】	
<p>※当該申請大学等において、今回申請している内容以外に、文部科学省が行っている大学改革推進等補助金、研究拠点形成費等補助金等、国際化拠点整備事業費補助金又は独立行政法人日本学術振興会が行っている国際交流事業の補助金等による経費措置を受けている取組がある場合、また、現在申請を予定している取組（大学教育再生加速プログラム）以下の取組について経費措置を受けているが、いずれも今回の申請内容と類似していない。</p>	
<p>■研究拠点形成費等補助金</p> <p>○卓越大学院プログラム 「ゲノム編集先端人材育成プログラム」（H30-R6） ライフサイエンスコース（5年一貫）とメディカルコース（4年一貫）の2つのコースを設置し、ゲノム編集の基礎から応用に至る知識と技術を修得することにより、ゲノム編集を使いこなせる人材・ゲノム編集を産業へ直結させる人材を育成する。</p>	
<p>■国際化拠点整備事業費補助金</p> <p>○スーパーグローバル大学等事業 スーパーグローバル大学創成支援【タイプAトップ型】 「世界をキャンパスとして展開する広島大学改革構想」（H26-R5） 研究力強化の取組みと協奏させる形で教育力強化に取り組み、教育改革を迅速に実行するためのガバナンス強化を行う。教育力強化と研究力強化の取組みにより構築する大学の国際的教育研究ネットワークを活用した国際的通用性の高い教育の国際展開により、「常に変動し予測不能な人類社会の課題を協働して解決することのできる人材」を育成する。</p>	
<p>○大学の世界展開力強化事業【アフリカ諸国との大学間交流形成支援】 「南北アフリカとの互惠的パートナーシップ構築のためのトライアングル海外学習プログラム」（R2-R6） 本学と北アフリカ4大学及びサブサハラ地域の2大学と共同で、アフリカのニーズと本学のシーズ及び強みが交差する「教育」、「保健医療」及び「食料安全保障」の専門教育を中心とした学生交流プログラムを実施する。質の高い経済発展を主導するとともに、日本とアフリカ間だけでなく、多様なアフリカ地域間の架け橋となり、多国間の国際的協調においてリーダーシップを発揮できる高度グローバル人材を日本とアフリカ双方に育成する。</p>	
<p>○大学の世界展開力強化事業【アジア高等教育共同体(仮称)形成促進】 (タイプB：新規コンソーシアム、①：CAプラスプログラム) 「インクルーシブ・マインドを醸成するアジア地域国際協働人材育成」（R3-R7） 本学と東アジア3大学の交流を基盤とし、東南アジア2大学を加えた6大学共同で、対面・同期オンライン・非同期オンラインを組み合わせたハイブリッド型による人材育成プログラムを実施する。障害の有無、平和観、宗教観、ジェンダー／マイノリティ観の違いから生じるコミュニケーション障壁を認識することで、ダイバーシティ&インクルージョン（D&I: 多様性の包摂、尊重）マネジメントが可能な人材を育成する。</p>	
<p>■研究大学強化促進費補助金</p> <p>○研究大学強化促進事業（H25-R4） 抜本的な研究力強化に向けて、これまでの改革の取組みに加え、①URAをはじめとする研究推進体制・研究環境の整備、②世界的研究拠点の継続的創出、③優れた研究人材の確保・育成のための競争的環境の確立、④国際研究活動の活性化に取り組み、世界トップ100の研究大学を目指す。</p>	

大学等名	広島大学
⑥他の公的資金との重複状況 【2ページ以内】	
<p>■日本学術振興会 国際交流事業</p> <p>○二国間交流事業（共同研究・セミナー） 「地殻短縮と地震発生の素過程を記録する断層帯の構造と変形機構の解明」 他9件</p> <p>○研究拠点形成事業 A. 先端拠点形成型 「先進エネルギー材料を指向したポリオキソメタレート科学国際研究拠点」 前周期金属が形成する酸性分子であるポリオキソメタレートについて、日本・イギリス・フランス・ドイツ・中国の5カ国で連携して研究を進め、先進エネルギー材料の創出を行うとともに、多国間共同研究を通じた若手人材育成・国際ネットワーク構築を目指す。</p> <p>B. アジア・アフリカ学術基盤形成型 「SDGs目標B型肝炎ウイルス排除を目指す若手疫学研究者国際連携ネットワーク形成」 世界視点で見たB型肝炎ウイルス（HBV）高度浸淫地区:国（アジア：カンボジア及びアフリカ：ブルキナファソ）におけるHBV eliminationの達成に貢献すべき若手研究者の育成をこれまでに構築した研究協力基盤を活かし、OJT(on the job training)を導入し、効果的に実施する。HBV感染状況と治療実態の解明と、ワクチン等によるHBV母子感染予防対策の効果検証を行い、次世代対応策の構築を目指す。</p> <p>○国際共同研究事業（スイスとの国際共同研究プログラム） 「水熱条件下におけるバイオマス中イオウの挙動：触媒プロセスのための除去戦略」</p> <p>○論文博士号取得希望者に対する支援事業 「人材マネジメントが教員の業績に与える影響に関する日本とカンボジア間の比較研究」</p> <p>■2022年度海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）との関連 （独）日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）の採択プログラム数は、双方向：2プログラム、派遣：17プログラム、受入：5プログラムである。本事業で実施する教育交流プログラムとは重複しない。</p> <p><申請中の取組み> 以下の事業を申請しているが、本事業と内容は類似しない。</p> <p>○ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業 「先進地域枠を有する中四国3大学によるICTを活用した全国最高水準の「高度地域医療教育拠点」構築事業」 ICTを活用した実習やオンデマンド教育教材の共有により諸課題を解決し、全国最高水準の地域医療教育プログラムを構築する。またプログラムを正規課程に位置付け、地域枠への教育効果をより確実なものにすると共に一般医学生にも教育機会を広げる。これを全国展開することで我が国の医師の地理的偏在、診療科偏在の解消を目指す。</p>	

(大学名： 広島大学) (主な交流先： 英国・インド・オーストラリア)